

平成20年度

函館市学習状況調査実施報告書

子どもたちの 学力向上を目指して



函館市学力向上プロジェクト推進委員会

函館市教育委員会

刊 行 に 寄 せ て

本市の義務教育は、昨年3月に策定された「義務教育基本計画」に基づき、「心豊かに学び 共に未来のふるさとを拓く子どもをはぐくむ」という基本理念のもと、児童生徒一人一人の学ぶ喜びをはぐくみ、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させるとともに、その知識や技能を実生活の様々な場面で活用することができるよう、日々の指導の充実に努めてきているところです。

特に、各学校においては、標準学力検査（CRT）を実施するとともに、その結果を踏まえ、「学力向上プラン」を作成し、児童生徒一人一人の個性や能力に応じた学習指導の工夫などを通して、基礎学力の定着に努めてまいりました。また、平成19年度からは、全国学力・学習状況調査の結果も併せて活用し、学習指導の一層の充実に努めてきたところです。

本報告書は、この度5回目の発刊となりますが、これまでの5年間の結果を踏まえた提言をしており、また、今年度から実施しております中学校1年生の結果の分析もまとめております。さらに、本報告書の内容を各学校の学力向上プランに活用していただけるよう、「学力向上プランへの提言」を掲載するなど、構成を工夫しております。

各学校におかれましては、本報告書を活用し、児童生徒の学力向上に向けて、実りある教育活動が積極的に展開されますよう期待しております。

終わりに、本報告書の発刊に当たって、校長会及び教頭会をはじめ、各教育研究サークル、市内各小中学校並びに「学力向上プロジェクト推進委員会」の皆様には、多大なご協力をいただきましたことに対しまして、心からお礼申し上げます。

平成21年3月

函館市教育委員会教育長

多賀谷 智

目 次

「学力向上プランへの提言」	1
1 調査の概要	5
(1) 調査の目的	
(2) 調査の内容	
(3) 調査対象学年及び教科等	
(4) 調査対象学校数及び児童数	
(5) 調査実施方法等	
(6) 調査における留意事項	
2 小学校国語科	8
(1) 調査結果の概要	8
観点別得点率	
領域別得点率	
(2) 調査結果の分析	9
領域別問題通過率（平成17～19年度）	
検査結果における個々の問題の概要およびその通過率	
国語の学習に関する意識調査の結果 過去2年間	
(3) 学力向上のためのポイント	14
国語科における5年間の傾向	
確かな国語の力をはぐくむために	
【ポイント1】【ポイント2】	
3 小学校算数科	20
(1) 調査結果の概要	20
観点別得点率	
領域別得点率	
(2) 調査結果の分析	21
領域別問題通過率（平成17～19年度）	
検査結果における個々の問題の概要およびその通過率	
算数の学習に関する意識調査の結果 過去2年間	
(3) 学力向上のためのポイント	26
算数科における5年間の傾向	
確かな算数の力をはぐくむために	
【ポイント1】【ポイント2】	
4 小学校学習意識調査の結果と考察	33
(1) 学習意識調査の結果一覧	
(2) 学習に向かう構えや意識に関する考察	
5 中学校国語科	37
(1) 調査結果の概要	37
観点別得点率	
領域別得点率	

(2) 調査結果の分析	-----	3 8
領域別問題通過率		
検査結果における個々の問題の概要およびその通過率		
国語の学習に関する意識調査の結果		
(3) 学力向上のためのポイント	-----	4 3
国語科のポイント		
確かな国語の力をはぐくむために		
【ポイント1】【ポイント2】【ポイント3】		
6 中学校数学科	-----	4 8
(1) 調査結果の概要	-----	4 8
観点別得点率		
領域別得点率		
(2) 調査結果の分析	-----	4 9
領域別問題通過率		
検査結果における個々の問題の概要およびその通過率		
数学の学習に関する意識調査の結果		
(3) 学力向上のためのポイント	-----	5 4
数学科のポイント		
確かな数学の力をはぐくむために		
【ポイント1】【ポイント2】		
7 中学校英語科	-----	5 7
(1) 調査結果の概要	-----	5 7
観点別得点率		
領域別得点率		
(2) 調査結果の分析	-----	5 8
領域別問題通過率		
検査結果における個々の問題の概要およびその通過率		
英語の学習に関する意識調査の結果		
(3) 学力向上のためのポイント	-----	6 1
英語科のポイント		
確かな英語の力をはぐくむために		
【ポイント1】【ポイント2】【ポイント3】		
8 学習意識調査の結果と考察	-----	6 8
(1) 学習意識調査の結果一覧		
(2) 学習に向かう構えや意識に関する考察		
9 全国学力・学習状況調査の概要	-----	7 1
10 基礎的・基本的な知識・技能の活用のために	-----	7 9
(1) 基礎的・基本的な知識や技能の習得とそれらの活用を図る学習活動について		
(2) 知識・技能の活用を図る学習活動		
国語科における知識・技能の活用を図る学習活動		
算数科における知識・技能の活用を図る学習活動		

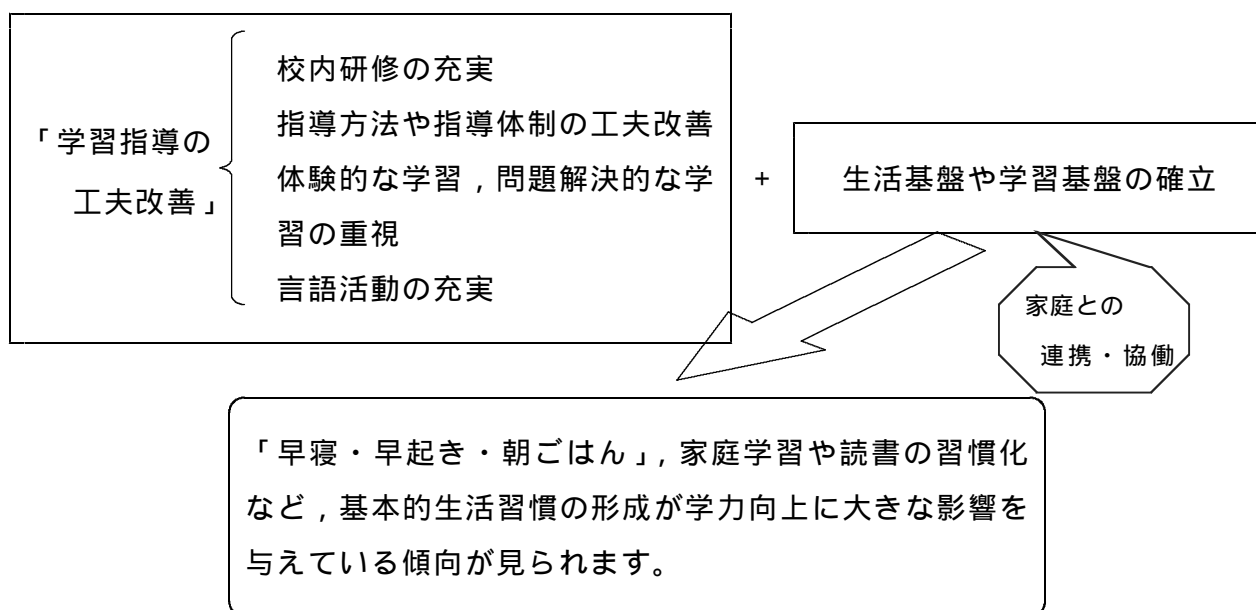
学力向上プランへの提言

本市においては、平成15年度から基礎学力向上推進事業として、小学校5年生の国語と算数、また、平成19年度からは中学校1年生の国語、数学、英語の標準学力検査を実施してきました。その間、結果の分析や指導改善に向けた方策の提示、具体的な授業提案など、学校と教育委員会が連携して、学力向上に向けた取組を進めてきており、一定の成果を上げてきたものにとらえています。

しかしながら、本学力検査や全国調査等によると、全国の平均正答率を下回る領域等もあり、積極的に検査結果の活用を図るとともに、各学校においては、児童生徒の学力状況を踏まえた「学力向上プラン」を作成し、具体的な方策を講じることが必要です。

1 生活習慣・学習習慣の形成

効果的な学力向上の取組を進めるためには、学習指導の工夫改善はもとより、生活習慣や学習習慣の定着を図ることが重要です。従って、学校の取組を丁寧に家庭に伝えるとともに、子どもの生活の在り方について啓発することが大切です。



2 学校組織・指導体制の改善

子どもたちの学力向上の取組を充実させるためには、学校体制を整備し、教職員の協働体制のもと、具体的な方策を確実に展開していくことが大切です。

特別委員会の設置はもとより、各種検査の分析・活用、学力向上のための具体的な方策を探るとともに、指導力の向上を図る校内研修、教師間の協力的な指導やきめ細かな教科指導ができるというメリットを生かした「教科担任制」の導入など、一人一人の教職員の個性を生かし、校内組織を工夫することが望まれます。

3 望ましい学習態度の育成

「学習」とは子ども自身が学び、身に付けることであり、子どもの「学ぶ力」をはぐくむことが大切です。日頃から、「学び方」を学ぶ指導を心がけることで、子どもの自主性を伸ばすことができます。教科それぞれの学習の特性を理解させ、教師間の共通理解のもと、子どもの家庭学習と授業とのリンクが図られるよう工夫しましょう。

～学びのポイントやコツ、学び方を具体的に子どもに投げかけます。～
「科学学習の学び方」「チャレンジノート」「家庭学習の手引き」「学習の約束」など

また、子どもが意欲をもって学習に取り組むためには、落ち着いた学級風土の中で、互いに支え合ったり、高め合う仲間意識が必要です。さらに、そうした環境の中で、学習に向かう約束(学習常規)が明確であり、いつでも意識できるよう教室に掲示することも大切です。

4 基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

各教科等の授業においては、「基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得」や「思考力・判断力・表現力等の育成」を目指した指導、「関心や意欲を高める授業づくり」が大切です。

基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得

【低学年～中学年の指導】

体験的な学習や具体物を活用した学習、反復学習などにより「読み・書き・計算」などの育成を重視することが大切です。

【中学年～高学年の指導】

体験と理論の往復による概念や方法の獲得、討論・観察・実験などによる思考を重視する指導の工夫が大切です。

思考力・判断力・表現力等の育成

- ア 体験から感じ取ったことを表現する。
- イ 事実を正確に理解し伝達する。
- ウ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。
- エ 情報を分析・評価し、論述する。
- オ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。
- カ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

関心や意欲を高める授業づくり

- ア わかる喜びを実感できるようにする。

習熟度別指導、少人数指導、補充的な学習などのきめ細かい個に応じた指導

- イ 外部人材の活用

以下に、「学力をはぐくむ四つ葉」を示すとともに、この4つの視点にかかわり、実践事例を掲載しました。ぜひ、各学校の「学力向上プラン」に活用してください。

学力をはぐくむ四つ葉

生活習慣・学習習慣の形成 ～家庭との連携・協働～

- ・食育
- ・家庭学習の習慣化
- ・早寝・早起き・朝ごはん
- ・家庭でのコミュニケーション
- ・持ち物の確認
- ・あいさつ（礼儀）

規則正しい生活習慣
学習の習慣化

学校組織・指導体制の改善

- ・学力向上に向けた特別委員会の設置
- ・学力状況調査の分析
- ・校内研究の充実
- ・教師の授業力アップ
- ・ＴＴ・教科担任制の活用などの指導体制の工夫・改善
- ・小・中学校の連携

学校組織の改善
校内体制の整備

個性豊かに生きる子ども
優しさをもって生きる子ども
たくましく生きる子ども
函館に生きる子ども
共に未来を生きる子ども

望ましい学習態度の育成

- ・教室環境を整備
- ・学習用具の準備
- ・発表の仕方・聞き方
- ・ノート指導
- ・「学び」のポイントやコツの習得
- ・集団としての規律

学習常規の掲示
支持的風土の醸成

基礎的・基本的な知識・技能の 習得と活用

- ・言語環境を整え言語活動を重視
- ・体験的・問題解決的な学習
- ・個に応じた指導の充実
- ・繰り返し指導
- ・読書活動の推進

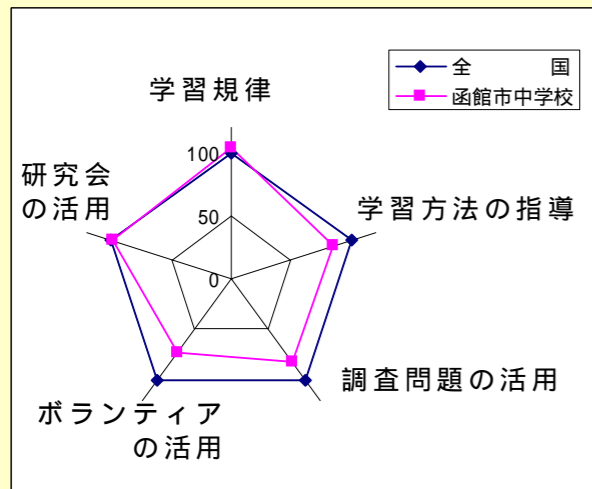
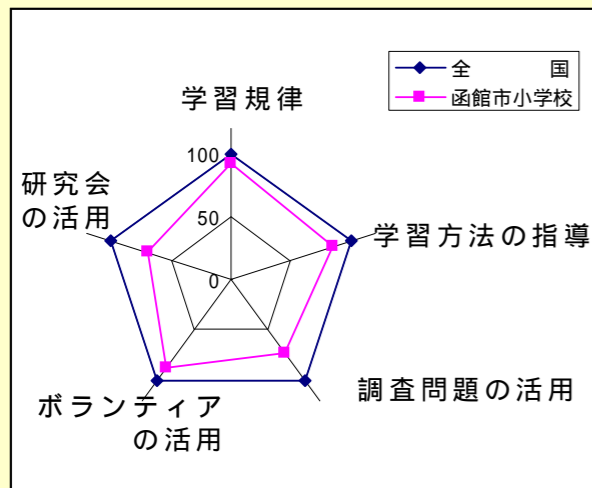
「わかる授業」の展開
学んだことを自ら活用しよう
とする意欲の向上
自ら学び考える力の育成

平成21年度学校教育の重点
児童生徒の学力向上を目指して

標準学力検査・全国調査の結果の活用

まず、先生が問題を解いてみよう！
正答率の低い設問は、学校として詳しく分析をしてみよう！
正答率が高い設問も、正答できなかった児童生徒への個別の対応など、一人一人に目を向け、課題解決の方策を検討してみよう！
学校質問紙の結果から、組織的な取組の課題を把握しよう！
具体的な改善策を共有しよう！

全国調査の結果から



全国平均を100としたときの市立小・中学校の取組の平均値を表しています。

視 点	<p>学校組織・指導体制の改善</p> <p>学校組織の改善 校内体制の整備</p>	<p>基礎的・基本的な知識 ・技能の習得と活用</p> <p>わかる授業の展開 自ら学び考える力の育成 意欲の向上</p>	<p>望ましい学習態度の育成</p> <p>学習常規の掲示 支持的風土の醸成</p>	<p>生活習慣・学習習慣の形成</p> <p>規則正しい生活習慣 学習の習慣化</p>
各 学 校 の 実 施 事 項	<p>管理職のリーダーシップ</p> <p>学力向上プランの作成と共有化</p> <p>標準学力検査や全国調査 ・分析と活用策の検討 ・保護者等への啓発</p> <p>校内研究の充実 ・全員参加型の研究推進 ・具体的な目標、評価の明確化 ・他校との連携 ・評価規準を位置付けた指導案</p> <p>校内指導体制の工夫 ・指導方法や習熟度別指導など、T・Tの工夫 ・教科担任制など指導体制の工夫</p> <p>小・中学校の連携 ・系統性を踏まえた教科指導のための研修 ・個に応じた指導のための引き継ぎの工夫</p>	<p>教育課程の改善 ・週時程、日課表の工夫 ・量的管理、質的管理</p> <p>言語環境の充実</p> <p>体験的、問題解決的な学習の充実 ・目標と指導と評価の一体化 ・興味関心を高め、理解を深める学習過程の工夫 ・発問、指示、板書など、基本的な授業技術の向上</p> <p>確実な習得を図るための手立てと見取りの充実 ・繰り返し指導 ・習熟度別学習 ・補充的な学習 ・発展的な学習 ・放課後学習など ・効果的な学習形態(個、ペア、グループ、全体)の工夫</p> <p>教えて考えさせる学習の重視</p> <p>朝読書、読み聞かせなど読書活動の推進</p>	<p>学習常規の策定 ・学校としての学習スタンダードの確立 ・全教室への掲示 ・指導の徹底 ・学習用具等の準備の習慣化</p> <p>教室環境の整備 ・教室や図書の本棚の整備・充実</p> <p>学級活動、朝の会・帰りの会などの充実 ・係活動の活性化、役割の自覚 ・集団意識の醸成</p> <p>ノート指導、鉛筆の持ち方 ・記述様式の共通化(日付、単元名、小単元名、ページ、問題番号、間違いを消さない(定規で線を引いて訂正、など) ・思考過程や解決の道筋がわかるノートづくり</p>	<p>生活習慣に関する実態把握</p> <p>あいさつ指導の徹底</p> <p>効果的な家庭学習の指導 ・校内の共通理解 ・意図的な家庭学習の実施と適切な評価 ・「家庭学習の手引き」などの資料の作成</p> <p>校内生活の規律徹底 ・「学校生活のきまり」の共通理解 ・時間の遵守(チャイム席など) ・給食の準備や清掃の仕方</p> <p>早寝・早起き・朝ごはん ・養護教諭・栄養教諭との連携 ・学習時間、テレビの視聴時間 携帯電話やゲームの時間など、家庭における望ましい生活習慣づくり</p> <p>保護者会の工夫</p> <p>啓発資料の作成・発行</p>
教 育 委 員 会 ・ 他	<p>平成21年度アプローチ 学校教育指導訪問 学校教育指導資料 家庭向け啓発資料発行 教員研修</p> <p>担当者研修 ・小・中学校教育課程研究協議会 ・教育方法研究会 ・小学校英語活動等研究協議会 ・特別支援教育コーディネーター研修 ・小学校外国語活動指導者研修</p> <p>標準学力検査(CRT) ・学力向上プロジェクト推進事業</p> <p>研究モデル校 ・学力向上研究モデル校 ・英語活動研究モデル校</p> <p>教育研究サークル ・研究実践、授業公開 ・研究成果の発信 ・授業改善の提案 ・全道・全国的な情報収集</p>			

1 調査の概要

(1) 調査の目的

函館市内の小・中学生を対象に、全市的な規模で学習状況の調査を行い、学習指導要領における教科の目標や内容の実現状況を把握する。学習指導上の課題を明らかにするとともに、各学校が児童・生徒一人一人に確かな学力をはぐくむ学習指導の改善に活用できるよう、函館市全体の結果と学習指導の改善の方向性を示した報告書の作成を通して、具体的かつ実践的な提言を行い、確かな学力の向上に資する。

(2) 調査の内容

教科の調査問題については、教研式標準学力検査（CRT）を活用し、その結果の集計・分析から、観点別得点率・領域別問題通過率等を明らかにし、函館市内児童生徒の学力の状況を把握する。

アンケート形式で設問を構成した「学習意識調査」を実施し、児童・生徒一人一人の学力の背景となる学習に対する意識や家庭での学習の状況等について、実態を把握する。

児童・生徒の学力の実態を総合的に分析し、今後に向けた各学校の取組の資料として活用できるよう、誤答傾向やその原因、問題点や学習指導に関する改善の視点等を明らかにする。

年間指導計画や教科書の内容配列等により、調査問題に履修していない内容が含まれる場合は、それを回答させないこととする。

(3) 調査対象学年及び教科等

調査対象学年	-----	小学校第5学年，中学校第1学年
調査教科	-----	小学校～「国語」「算数」 中学校～「国語」「数学」「英語」
調査時期	-----	平成19年11月～平成20年2月
学習意識調査	-----	小学校第5学年（平成20年1月～2月実施） 中学校第1学年（平成20年1月～2月実施）

(4) 調査対象学校数及び児童・生徒数

標準学力検査

函館市小学校 48校

第5学年(児童・生徒数2,138名)

函館市中学校 28校

第1学年(児童・生徒数2,091名)

学習意識調査

函館市小学校 48校

第5学年(児童・生徒数2,138名)

函館市中学校 28校

第1学年(児童・生徒数2,091名)

(5) 調査実施方法等

原則として1教科当たりの調査時間は、小学校は45分、中学校は50分とする。

「学習意識調査」の調査時間は、各学校の実態に応じて実施する。

各学校における検査実施後(小学校「国語」「算数」、中学校「国語」「数学」「英語」)の採点、集計等については、各学校ごとにコンピュータ診断を実施する。

函館市全体の集計、分析等については、函館市教育委員会(学力向上プロジェクト推進委員会)が行う。

(6) 調査における留意事項

本調査においては、「領域別」「観点別」「得点率」「通過率」の用語について、次のような意味付けを行い、使用している。

「領域別」

小学校 国語科においては、小学校学習指導要領「国語」に示されている「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」(検査項目により〔言語事項〕も位置付ける)を表す。

算数科においては、小学校学習指導要領「算数」に示されている「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」を表す。

中学校 国語科においては、中学校学習指導要領「国語」に示されている「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」(検査項目により〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕も位置付ける)を

表す。

数学科においては、中学校学習指導要領「数学」に示されている、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」を表わす。

外国語においては、中学校学習指導要領「外国語」に示されている、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」を表わす。

「観点別」

小学校 国語科においては、小学校児童指導要録に示されている観点別学習状況に基づき、「国語への関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「言語についての知識・理解・技能」を表す。

算数科においては、小学校児童指導要録に示されている観点別学習状況に基づき、「算数への関心・意欲・態度」、「数学的な考え方」、「数量や図形についての表現・処理」、「数量や図形についての知識・理解」を表す。

中学校 国語科においては、中学校生徒指導要録に示されている観点別学習状況に基づき、「国語への関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「言語についての知識・理解・技能」を表す。

数学科においては、中学校生徒指導要録に示されている観点別学習状況に基づき、「数学への関心・意欲・態度」、「数学的な考え方」、「数量や図形についての表現・処理」、「数量や図形についての知識・理解」を表す。

外国語においては、中学校生徒指導要録に示されている観点別学習状況に基づき、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「表現の能力」、「理解の能力」、「言語や文化についての知識・理解」を表わす。

「得点率」

教研式標準学力検査（CRT）における満点に対する得点の比率を表す。

「通過率」

問題ごとの正答者人数を解答者の総人数で割った数値である。

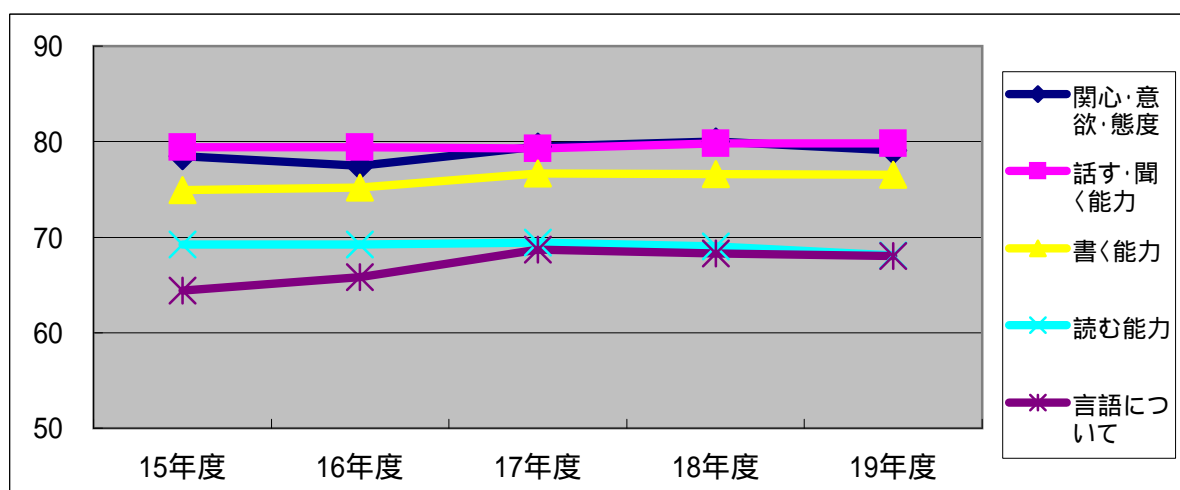
各問題に対応して通過率を言うときは、 $\text{正答人数} \div \text{総人数} \times 100$ で表す。

2 小学校国語科

(1) 調査結果の概要

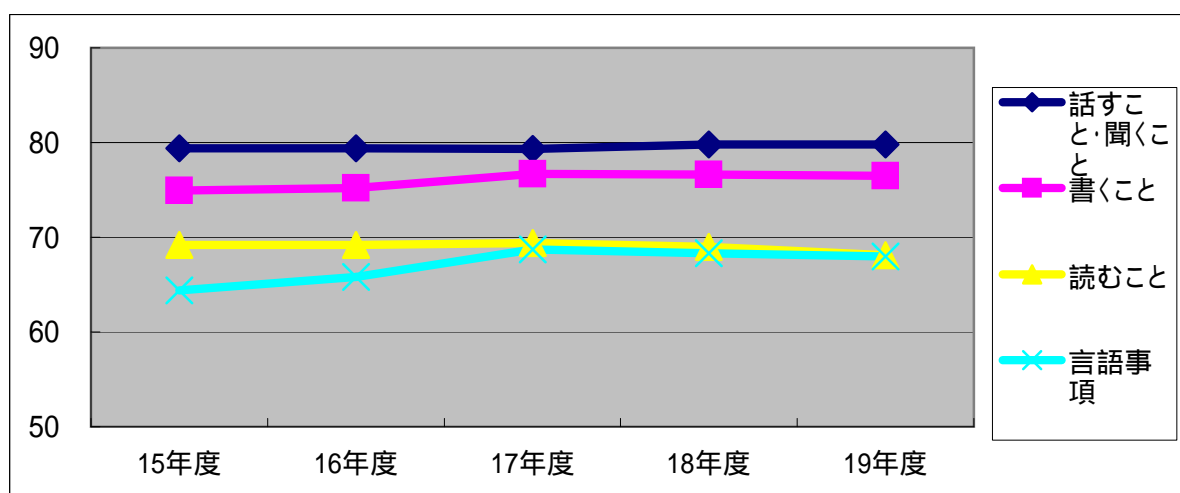
観点別得点率

観 点	得 点 率				
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
関心・意欲・態度	78.5	77.5	79.5	80.0	79.1
話す・聞く能力	79.4	79.4	79.3	79.8	79.8
書く能力	74.9	75.2	76.7	76.6	76.5
読む能力	69.2	69.2	69.4	69.0	68.1
言語について	64.4	65.8	68.7	68.3	68.0



領域別得点率

領 域	得 点 率				
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
話すこと・聞くこと	79.4	79.4	79.3	79.8	79.8
書くこと	74.9	75.2	76.7	76.6	76.5
読むこと	69.2	69.2	69.4	69.0	68.1
言語事項	64.4	65.8	68.7	68.3	68.0



(2) 調査結果の分析

領域別問題通過率(平成17・18・19年度)

領域 通過率%					通過率が高かった問題 通過率%			通過率が低かった問題 通過率%				
		17年度	18年度	19年度		17	18	19		17	18	19
話すこと・聞くこと	1 話の中心を考えながら聞くこと	82.5	82.5	82.1	テーマの聞き取り 内容の聞き取り	96	96	96				
	2 意図が伝わる工夫をして話すこと	72.1	73.5	73.3	スピーチの準備	89	90	90				
	3 話す相手に応じて適切に話すこと	79.4	78.7	78.1	適切な言葉遣いで話す	80	80	79				
	4 話し合いをするときに大切なこと	82.7	83.4	83.9	話し合いで大切なこと	95	95	95				
書くこと	5 表現や構成を工夫して書くこと	62.6	63.9	63.2					段落の構成を考えて書く (事実と考え)	39	41	40
	6 適切な内容の事柄を選び書くこと	82.3	82.0	81.6	報告書に書く内容	90	90	89				
	7 語句の正しい使い方を 知ること	91.0	88.9	90.3	語句の使い方「決して」 語句の使い方「たぶん」	92	90	92				
読むこと	8 要約しながら内容を 読み取ること	68.6	67.9	67.5					文脈に合う語「昼間」 (対比)	50	50	50
	9 文章の表現や叙述に注意して読むこと	70.2	70.1	68.7								
言語事項	10 漢字の様な特徴を理解すること	58.3	58.2	58.6	同音漢字「実験」	90	89	89	漢字の由来「形声文字」 漢字の由来「象形文字」	21	18	17
	11 言葉の性質と適切な仮名遣い	78.6	78.9	78.3	単語の類別・動詞	94	94	94	単語の類別「形容詞」	45	45	44
	12 漢字を正しく覚えて使うこと	69.8	68.8	68.2	漢字の読み「任せる」 漢字の読み「貿易」	92	91	90	漢字の書き「光景」	21	26	29

検査結果における個々の問題の概要およびその通過率

評価の観点	大問	大問の内容	小問	小問の内容	小領域	17年度	18年度	19年度	各校の通過率	誤答率	無答率	
						函館市の通過率	函館市の通過率	函館市の通過率				
関心・意欲・態度	2	話すことについて、関心・意欲・態度をみる。		話すことの関心・意欲・態度	関心・意欲・態度については、通過率は出されていないので、3ページの『観点別得点率』を参照する。							
	6	書くことについて、関心・意欲・態度をみる。		書くことの関心・意欲・態度								
	9	図書館の利用について、関心・意欲・態度をみる。		図書館への関心・意欲・態度								
	11	漢字の学習について、関心・意欲・態度をみる。		漢字への関心・意欲・態度								
	17	書くことについて、関心・意欲・態度をみる。		書くことの関心・意欲・態度								
	19	読むことについて、関心・意欲・態度をみる。		読むことの関心・意欲・態度								
話す・聞く能力	1	話し手の意図を考えながら、大切な部分を聞き取ることが出来るかどうかをみる問題。	1	テーマの聞き取り	1 話の中心を考えながら聞くこと	96	96	96		4	0	
			2	イ 内容の聞き取り		96	96	96		4	0	
				エ 内容の聞き取り		59	58	57		43	0	
			3	まとめの聞き取り		79	81	79		20	0	
	7	自分の意図が伝わるような工夫をし、適切な態度でスピーチをすることが出来るかどうかをみる問題。	2	1	ア スピーチの準備	2 意図が伝わる工夫をして話すこと	89	90	90		10	0
					オ スピーチの準備		75	77	76		24	0
				イ	スピーチするときの注意		58	59	59		41	0
				オ	スピーチするときの注意		66	69	68		32	0
	12	話す相手に応じて、適切な言葉遣いをすることができるかをみる問題。	ウ	オ	適切な言葉遣いで話す	3 話す相手に応じて適切に話すこと	80	80	79		21	0
				オ	適切な言葉遣いで話す		79	78	77		22	1
	15	適切な態度で話し合いをすることができるかをみる問題。	1	1	発言内容の理解	4 話し合いをするときに大切なこと	78	80	79		20	1
				2	発言内容の理解		83	85	84		15	1
				3	司会者の役割の理解		84	84	84		15	1
				4	ア 話し合いで大切なこと		81	83	85		13	1
					エ 話し合いで大切なこと		95	95	95		4	1
				キ 話し合いで大切なこと	77		75	77	▲	22	1	
3	3	表現の効果を考えながら、構成を工夫して書くことができるかどうかをみる問題。	1	1 段落の構成を考えて書く	5 表現や構成を工夫して書くこと	71	72	70		29	1	
			2	2 段落の構成を考えて書く		39	41	40		59	1	
			3	3 段落の構成を考えて書く		62	63	61		38	1	
			2	ア 表現の工夫・比喩		77	78	79	▲	20	1	
				エ 表現の工夫・倒置		63	65	66		32	1	
	16	目的や意図に応じて、書く事柄を整理して書くことができるかどうかをみる問題。	2	1	ア 依頼の手紙に必要なこと	6 適切な内容や事柄を選び書くこと	76	76	76		23	1
					エ 依頼の手紙に必要なこと		86	85	85		14	1
					キ 依頼の手紙に必要なこと		84	84	83		15	1
				3	カードに書く内容		71	69	69		29	2
				ア	報告書に書く内容		90	90	89		8	2
21	文の照応に注意して、適切な語句を使って書くことができるかどうかをみる問題。	1	1	語句の使い方・たぶん	7 語句の正しい使い方を知ること	92	90	92		2	6	
			2	語句の使い方・どうか		89	87	88		6	6	
			3	語句の使い方・決して		92	90	92		3	6	

評価の観点	大問	大問の内容	小問	小問の内容	小領域	17年度	18年度	19年度	各校の通過率	誤答率	無答率	
						函館市の通過率	函館市の通過率	函館市の通過率				
読む能力	8	事実と意見の関係をおさえながら文章の要旨をとらえ、必要な図書を選んで読むことができるかどうかをみる問題。	1	適語補充・これには	8 要約しながら内容を読みとること	70	70	69		31	0	
			2	2 段落の関係の読み取り		73	74	74		24	3	
			3	3 段落の関係の読み取り		68	66	66		31	3	
			3	文脈に合う語・昼間		50	50	50		49	1	
			4	イ 要約した内容の理解		58	58	56		43	1	
			オ	要約した内容の理解		65	62	63		35	1	
			カ	要約した内容の理解		81	82	81		17	1	
			5	段落の内容の読み取り		70	68	68		31	1	
	6	関連する図書の選択	87	86	86		14	0				
	18	登場人物や場面の描写に注意して、叙述に即して読むことができるかどうかをみる問題。	1	場面の様子の読み取り	9 文章の表現や叙述に注意して読む	79	80	78		19	3	
			2	語の意味・やれやれ		72	73	70		27	3	
			3	指示語の内容理解		63	63	58		38	4	
			4	心情の読み取り		74	72	73		23	5	
			5	ウ 詳しい内容の読み取り		70	71	71		23	6	
			エ	詳しい内容の読み取り		67	66	66		28	6	
			オ	詳しい内容の読み取り		69	68	67		27	6	
	言語についての知識・理解・技能	4	同音異義語の漢字を適切に使い分けられるかどうかをみる問題。	イ	同音漢字・仏像	10 漢字の様々な特徴を理解すること	72	71	71		28	0
				エ	同音漢字・実験		90	89	89		10	0
5		適切な仮名遣いを理解しているかどうかをみる問題。	ウ	適切な仮名遣いの理解	11 言葉の性質と適切な仮名遣い	83	83	81		18	0	
			エ	適切な仮名遣いの理解		86	87	88		11	0	
10		漢字を正しく読むことができるかどうかをみる問題。(任せる・設備・貿易)	1	漢字の読み・任せる	12 漢字を正しく覚えて使うこと	92	91	90		8	2	
			2	漢字の読み・設備		84	83	83		13	4	
			3	漢字の読み・貿易		91	91	87		8	5	
13		漢字の由来について理解しているかどうかをみる問題。	1	漢字の由来・象形文字	10 漢字の様々な特徴を理解すること	46	44	42		57	1	
			2	漢字の由来・指事文字		51	53	54	▲	44	1	
			3	漢字の由来・形声文字		21	18	17		82	1	
14		名詞・動詞・形容詞など、語句の類別を理解しているかどうかをみる問題。	1	単語の類別・名詞	11 言葉の性質と適切な仮名遣い	86	86	83		15	2	
			2	単語の類別・動詞		94	94	94		5	2	
			3	単語の類別・形容詞		45	45	44		54	2	
20		漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題。(光景・試合・周り)	1	漢字の書き・光景	12 漢字を正しく覚えて使うこと	21	26	29	↑	49	22	
			2	漢字の書き・試合		65	64	65		23	12	
	3		漢字の書き・周り	68		59	58		30	12		

各校の通過率の欄には、それぞれの学校で自校の通過率を記入し、函館市の通過率と比較しながら、今後の指導に役立ててください。

↑は昨年度と比較して急激な伸び率を見せた問題、▲は過去5年間で徐々に伸び率を見せている問題です。

平成19年度の調査結果から、課題が見受けられるものとしては次の内容が挙げられます。

「話すこと・聞くこと」領域... 『内容の聞き取り』『スピーチするときの注意』
「書くこと」領域..... 『段落の構成を考えて書く』
「読むこと」領域..... 『文脈に合う語』『要約した内容の理解』『指示語の内容理解』
「言語事項」..... 『漢字の由来』『単語の類別・形容詞』『漢字の書き』

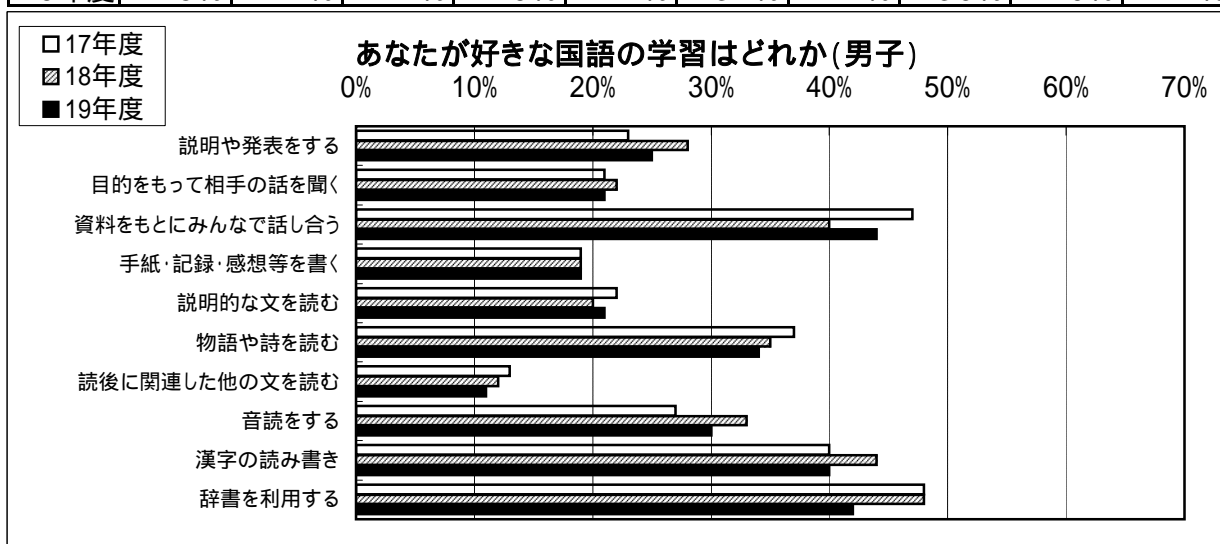
これは、過去5年間と比較しても、どの領域においても大きな差異は見られません。そのため、今後の国語科の学力向上を目指し、ポイントを2つに絞って示すことにします。

国語の学習に関する意識調査の結果 < 過去3年間 >

調査時期；(17年度)平成18年2～3月 (18年度)平成19年1～2月 (19年度)平成20年1～2月
 調査児童；函館市の学力検査実施学年の児童
 男子(17年度) 1,059名 (18年度)1,112名 (19年度)1,117名
 女子(17年度) 1,066名 (18年度)1,103名 (19年度)1,021名

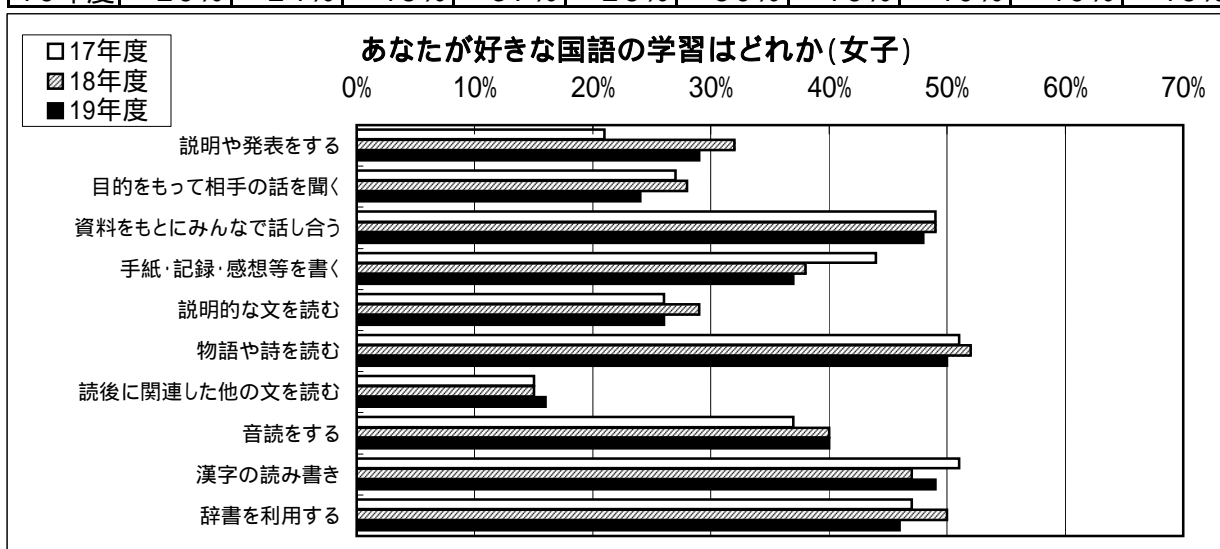
設問 ・ ・ あなたが好きな国語の学習はどれか (男子)

	説明や発表をする	目的をもって相手の話を聞く	資料をもとにみんなで話し合う	手紙・記録・感想等を書く	説明的な文を読む	物語や詩を読む	読後に関連した他の文を読む	音読をする	漢字の読み書き	辞書を利用する
17年度	23%	21%	47%	19%	22%	37%	13%	27%	40%	48%
18年度	28%	22%	40%	19%	20%	35%	12%	33%	44%	48%
19年度	25%	21%	44%	19%	21%	34%	11%	30%	40%	42%



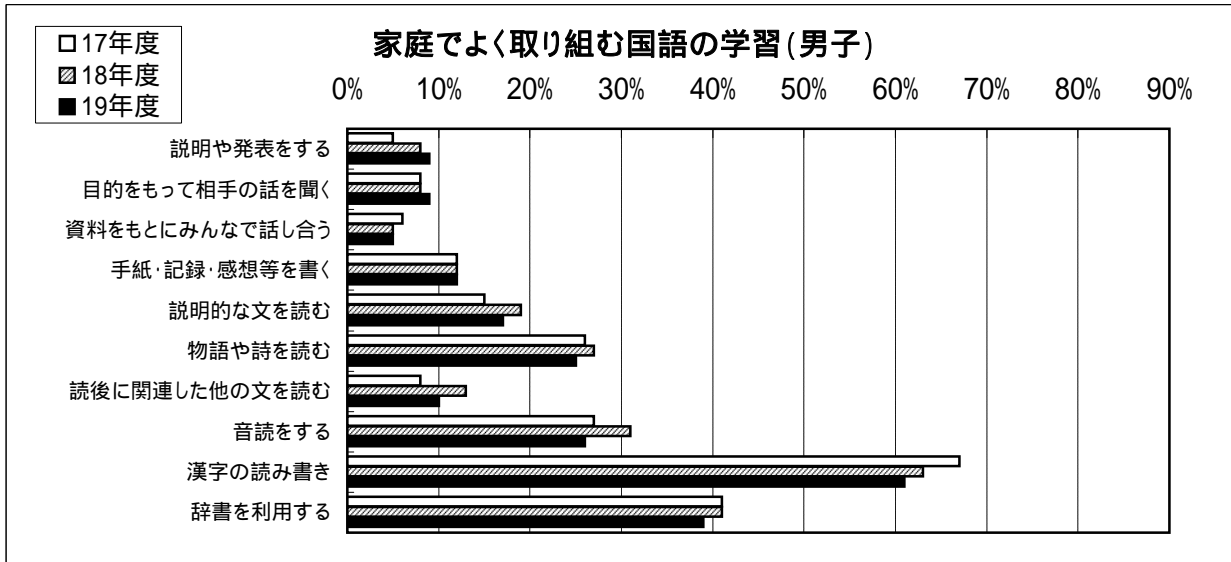
設問 ・ ・ あなたが好きな国語の学習はどれか (女子)

	説明や発表をする	目的をもって相手の話を聞く	資料をもとにみんなで話し合う	手紙・記録・感想等を書く	説明的な文を読む	物語や詩を読む	読後に関連した他の文を読む	音読をする	漢字の読み書き	辞書を利用する
17年度	21%	27%	49%	44%	26%	51%	15%	37%	51%	47%
18年度	32%	28%	49%	38%	29%	52%	15%	40%	47%	50%
19年度	29%	24%	48%	37%	26%	50%	16%	40%	49%	46%



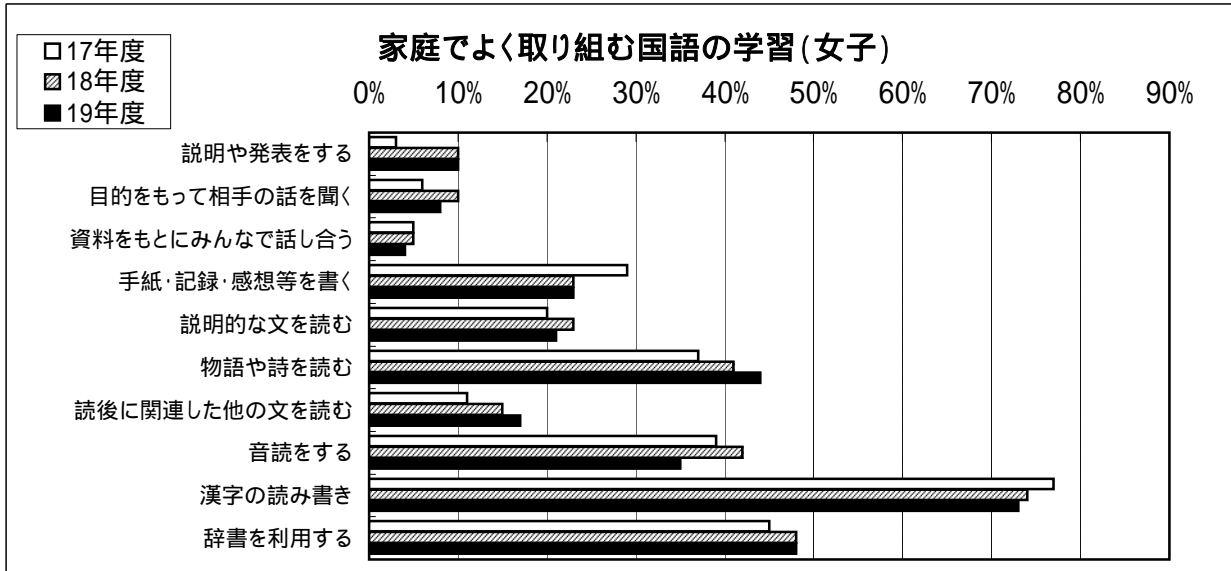
設問 ・ ・ 家庭でよく取り組む国語の学習（男子）

	説明や発表をする	目的をもって相手の話を聞く	資料をもとにみんなで話し合う	手紙・記録・感想等を書く	説明的な文を読む	物語や詩を読む	読後に関連した他の文を読む	音読をする	漢字の読み書き	辞書を利用する
17年度	5%	8%	6%	12%	15%	26%	8%	27%	67%	41%
18年度	8%	8%	5%	12%	19%	27%	13%	31%	63%	41%
19年度	9%	9%	5%	12%	17%	25%	10%	26%	61%	39%



設問 ・ ・ 家庭でよく取り組む国語の学習（女子）

	説明や発表をする	目的をもって相手の話を聞く	資料をもとにみんなで話し合う	手紙・記録・感想等を書く	説明的な文を読む	物語や詩を読む	読後に関連した他の文を読む	音読をする	漢字の読み書き	辞書を利用する
17年度	3%	6%	5%	29%	20%	37%	11%	39%	77%	45%
18年度	10%	10%	5%	23%	23%	41%	15%	42%	74%	48%
19年度	10%	8%	4%	23%	21%	44%	17%	35%	73%	48%



(3) 学力向上のためのポイント 小学校国語科における5年間の傾向

学力検査の結果を次のようにまとめました。

観点別得点率によると、「国語への関心・意欲・態度」はこの5年間で推移しており、ほとんどの児童が国語に対して意欲をもって学習していることが伺えます。一方、「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の育成に向けた学習指導の改善が課題です。

領域別にみると、「話すこと・聞くこと」領域の通過率、「書くこと」領域の通過率が概ね高い傾向にあります。しかし、「書くこと」領域では『段落の構成を考えて書く能力』の育成、「読むこと」領域では『段落の関係の読み取り』に関する能力の育成、言語事項では『漢字の由来』『単語の類別・形容詞』『漢字を書くこと』が5年間を通して課題として挙げられています。

これは、系統的・段階的な指導の重要性を考えると、5年生だけの課題ではなく、低・中学年の指導も含めた学校全体の課題として捉えることが必要です。

小学校国語科における5年間の授業改善の視点・ポイント

【平成16年度 報告書】

- 視点1 「話すこと・聞くこと」の指導の充実
- 視点2 「書くこと」の指導の充実
- 視点3 「読むこと」の指導の充実
- 視点4 [言語事項]の指導の充実

【平成17年度 報告書】

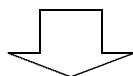
- 視点1 多様な言語活動を学習展開に位置付けた指導の充実
- 視点2 系統性を踏まえた繰り返し指導の充実
- 視点3 言語事項とのかかわりを明確にした指導の充実
- 視点4 目的に応じ、主体的に学ぶ態度を培う指導の充実

【平成18年度 報告書】

- ポイント1 国語力の向上を目指した各領域の基礎的な知識の指導の徹底
- ポイント2 系統性を踏まえた繰り返し指導の充実
- ポイント3 言語活動を位置付けた学習指導の工夫
- ポイント4 子どもが主体的に学ぶための指導計画の工夫や学び方の指導

【平成19年度 報告書】

- ポイント1 関心や意欲を高める授業改善の工夫
- ポイント2 他教科との関連を図った国語の指導
- ポイント3 中学校へつながる言語能力の育成を意識した授業づくり



【平成20年度】

- ポイント1 系統的・段階的な指導の充実
- ポイント2 国語における知識や技能の明確化と重点的指導の充実

確かな国語の力をはぐくむために

【ポイント1】 「系統的・段階的な指導の充実」

子どもたちに生きて働く言語能力を身に付けさせるためには、各学年の発達段階を見通して目標の系統性を保ちながら、効果的な指導がなされるよう計画を立てる必要があります。

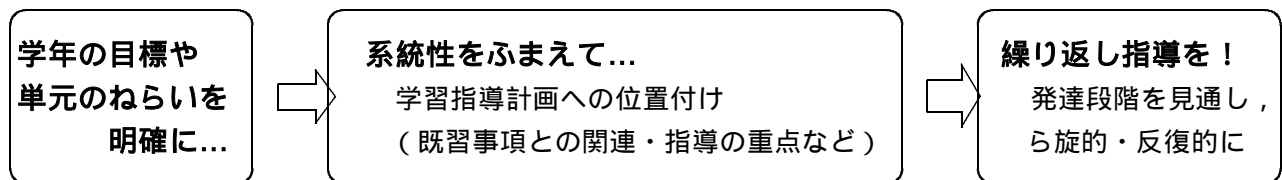
たとえば、低学年の文学的な教材において「登場人物の心情の読み取り」を中心に学習を進めていくことはありませんか？

低学年の文学的な教材においては、「心情の読み取り」ではなく、「場面の様子」と「登場人物の行動」を中心に読むことが大切です。そのことを踏まえ、中学年で「性格や気持ち」、高学年で「心情」を読み取る学習が進められます。

このように、国語の学習においても、各学年や領域において段階的・系統的に指導することが必要です。特に、2つの学年をひとまとまりにして目標設定されていることから、このような視点は重要です。

また、当該学年に示されている指導事項でも、前の学年で初歩的な形で取り扱ったり、後の学年でやや程度を高めて取り上げたりするなど、子どもの言語能力や言語体験の違いに応じて、弾力的な運用を図りながら重点的に指導内容を取り上げ、学習内容等の定着を図っていくことが大切です。

ここでは、「読むこと」における系統的・段階的な指導について提案します。



文章教材の系統性について

過去5年間の調査の結果では、「読むこと」領域の中の「要約しながら内容を読み取ること」の通過率が低い傾向にあります。「要約しながら内容を読み取る力」を育成する説明的な文章教材を例に、検査対象である第5学年と3・4学年との系統性を以下に示します。

また、各学年における「読むこと」の目標及び説明的な文章にかかわる「読むこと」の目標系列は次の表の通りです。これらの目標の実現を目指し、読む能力の定着を図るためには、各教材における系統性や指導事項を明らかにして授業づくりに取り組むことが大切です。

読むことの目標

第1学年及び第2学年	書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに楽しんで読書しようとする態度を育てる。
第3学年及び第4学年	目的に応じ、内容の中心をとらえたり、段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。
第5学年及び第6学年	目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

《「読むこと」(説明的な文章教材)の単元名と目標系列》

単元の目標 言語活動

情報を求める

論理を考える

情報を生かす

1年

「なにが かくれているのでしょうか」
写真と結びつけながら、文の前後のつながりや順序に気をつけて内容を読む
事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。
物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと

「はたらく じどう車」
自動車の仕組みやはたらくに気をつけ、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読む
事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと

「みぶりで つたえる」
身ぶりの特徴をとらえながら、事柄の順序などを考え、内容の大体を読む
事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと

2年

「すみれと あり」
すみれの成長の特徴について時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読む
事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと

「さけが大きくなるまで」
さけの成長について、時間的な順序、場所的な推移を考えながら内容の大体を読む

「きつつき」
作り方の順序などを正しくとらえながら内容を読む

3年

「めだか」
めだかが敵や自然環境から身を守る方法を中心となる語や文をとらえて読み取る
記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること

「広い言葉、せまい言葉」
段落ごとに「問い」と「答え」の関係に注意して、内容を読み取る
記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること

「くらしと絵文字」
絵文字の特長などについて読み取り、段落相互の関係を考えながら大きくまとめる
必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。

4年

「花を見つけるてがかり」
文章の要点や細かい点を読み取り、段落相互の関係を考えながらもんしろちょうが花を見つける手がかりを読み取る
記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと

「アーチ橋の仕組み」
実験の仕方をもとに段落相互の關係に注意し、アーチ橋の仕組みについて詳しく読み取る
記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと

「便利ということ」
段落のつながりを文章構成図に整理し、考えたことを話し合う
記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと

5年

「まんがの方法」
「まんがの方法」について筆者の事実と意見の関係をおさえて読む
自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること

「森を育てる炭づくり」
大事なことや筆者の主張をおさえ要旨をまとめる
自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること

「日本語を考える」
日本語の特徴について内容を的確におさえ、筆者の意見を読み取る

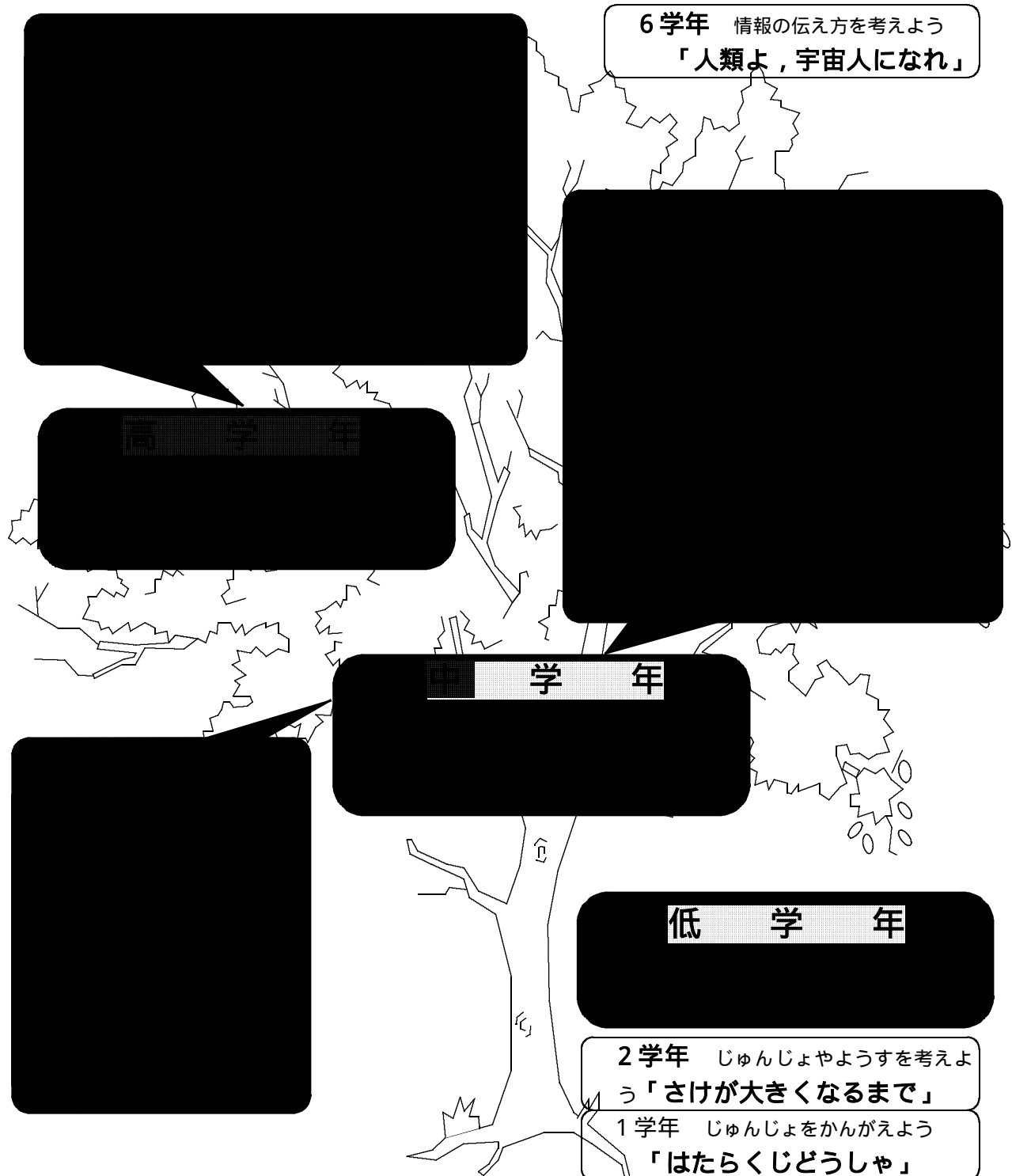
6年

「ぼくの世界、きみの世界」
自分の考えを広げたり深めたりするために、書かれている内容について事実と意見の関係を押さえて読む

「人類よ、宇宙人になれ」
事実と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にして読む

「ボランティアしあおうよ」
ボランティアについての筆者の考えを事例や文体をもとに読み取り、自分なりの考えをもつ

「要約しながら内容を読み取ること」(説明的な文章教材)の学習は、第1学年からの「読むこと」の内容を繰り返し学習し、高めてきた能力によって支えられています。このことは「文章の表現や叙述に注意し読むこと」(文学的な文章教材・読書関連教材)においても同様です。したがって、前学年までの習得が不十分であれば、補充的な内容の指導を指導計画の中に位置づけるなど、個に応じた指導の工夫が求められます。



読み取りに役立つポイント
文章全体を読み取る手立て

【ポイント2】 「国語における知識や技能の明確化と重点的指導の充実」

国語の学習においては、語いや漢字の習得だけではなく、各学年や各単元で身に付けさせなければならない知識や技能があります。その確実な習得を実現するために、各学年の系統や指導事項を明確にし、重点的に指導する必要があります。

過去5年間の国語における標準学力検査（CRT）の結果からは、子どもたちが当該学年で身に付けるべき知識や技能に課題があることがわかります。

ここでは、特に『読むこと』領域（4・5年生）について単元や教材における重点的な指導事項を整理しました。

新学習指導要領における「読むこと」の内容及び言語活動

第4学年	第5学年
A 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。	A 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。
B 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。	B 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんだけりすること。
C 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。	C 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。
D 目的に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。	D 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。
E 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。	E 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。
F 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。	F 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。
ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。	ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。
イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。	イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。
ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。	ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。
エ 紹介した本を取り上げて説明すること。	エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。
オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。	

読むことの内容については、4・5年生の項目をそろえるために、A、B、C...とした。

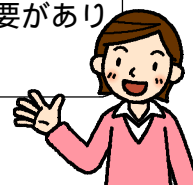
「読むこと」単元における重点指導事項例一覧

学年	単元名(教材名)	種類	A	B	BC	C	D	E	F	身に付けさせる知識や技能
			音読・朗読	文の中心	段落相対互の関係	事実と意見	感想・考え	心情	情景描写	
4	元気に声を出し合おう	詩								連・擬態語
	やい, とかげ	文学								比喩・繰り返し表現
	花を見つける手がかり	説明文								要約・文末表現
	「じょうほうけいじ板」を作るう	読書単元								本の分類
	とんぼの楽園づくり	読書単元								
	一つの花	文学								音読・感想・対比・時を表す言葉・音読記号
	いろいろな詩と出会おう	詩								方言
	アーチ橋の仕組み	説明文								小見出し・接続語・読点・漢字辞典
	アジアの笑い話	読書単元								
	「お笑いけいじ板」を作るう	読書単元								テーマ学習
	「便利」ということ	説明文								段落・文章構成図
	ごんぎつね	文学								音読・対比・慣用句
	5	声に出して伝え合おう	詩							
五月になれば		文学								助詞の意味の変化・時を表す言葉
まんがの方法		説明文								接続語・指示語・「」・()
おもしろさのひみつをさぐるう		読書単元								テーマ設定・資料の収集
大造じいさんとがん		文学								音読・情景描写・仮名づかい
思いをこめて読んでみよう		詩								名詞(体言)止め・歴史的仮名遣い
森を育てる炭作り		説明文								要約・くぎり符号・文章構成図・接尾語
雪わたり		読書単元								朗読・比喩・擬音語・擬態語
「読書発表会」をしよう		読書単元								ブックトーク
日本語を考える		説明文								要約
みずささぎの旅		文学								同じ形で意味の違う言い方

説明文だから物語文だからといったどの学年でもどの単元でも同じことを教えていたら、読む力は付きませんね。



学年や単元によって指導する知識や技能を明確にする必要がありますね！

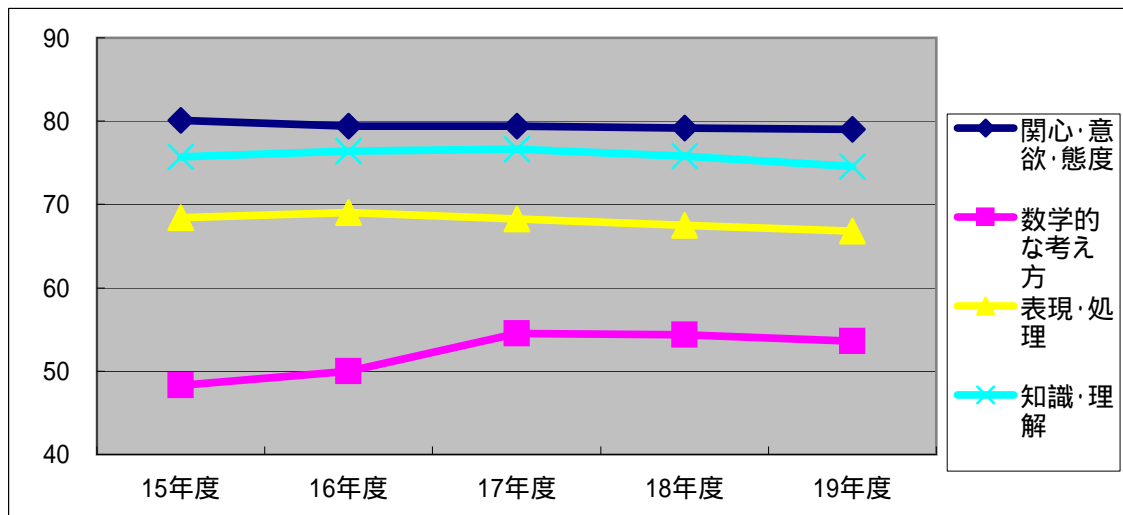


3 小学校算数科

(1) 調査結果の概要

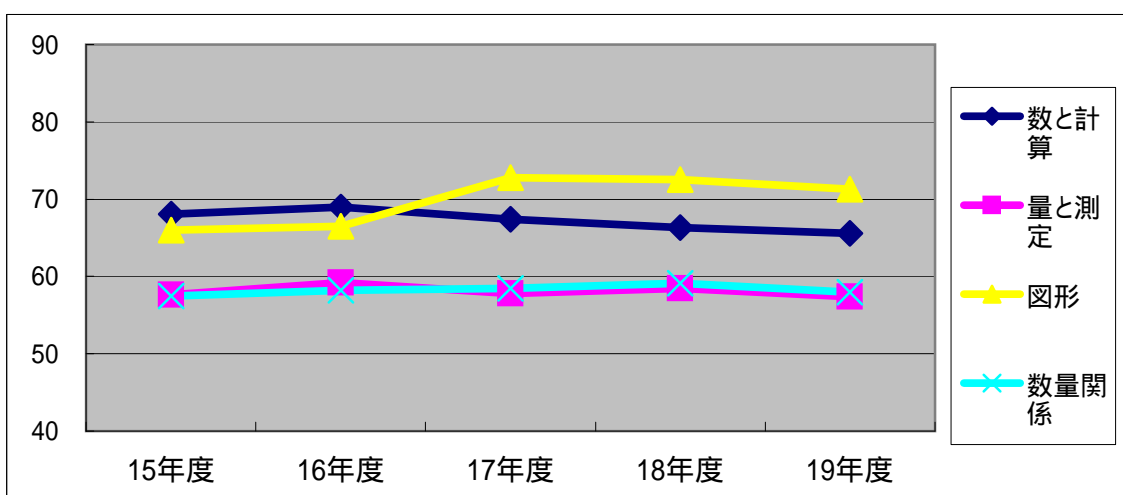
観点別得点率

観 点	得 点 率				
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
関心・意欲・態度	80.1	79.4	79.4	79.2	79.0
数学的な考え方	48.3	50.0	54.5	54.4	53.6
表現・処理	68.4	69.0	68.3	67.5	66.8
知識・理解	75.7	76.4	76.6	75.8	74.6



領域別得点率

領 域	得 点 率				
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
数と計算	68.1	69.0	67.4	66.3	65.6
量と測定	57.6	59.2	57.8	58.5	57.4
図形	66.0	66.5	72.8	72.5	71.3
数量関係	57.5	58.2	58.5	59.1	58.0



(2) 調査結果の分析

領域別問題通過率(平成17・18・19年度)

領 域		通過率%			通過率が高かった問題			通過率が低かった問題				
		17年度	18年度	19年度	通過率%			通過率%				
					17	18	19		17	18	19	
数と計算	1 整数の性質	66.2	63.3	60.9								
	2 整数や小数のしくみ	81.1	79.7	79.7	(知識・理解) 小数のしくみ	96	95	95				
	3 小数のかけ算とわり算	62.6	60.9	60.4	(表現・処理) 小数×小数 小数÷小数	90 78	90 79	88 76	(数学的な考え方) 小数の乗法のしかた 小数の除法の適用 小数の除法適用・立式 (表現・処理) 小数の除法・四捨五入 小数の除法適用・答え	31 43 42 26 39	32 43 39 25 37	29 44 38 23 36
	4 分数とそのたし算・ひき算	79.2	80.2	79.2	(表現・処理) 分数の加法 分数の減法 (知識・理解) 等しい分数	97 91 77	97 92 80	97 92 75				
	5 がい数, がい算	50.0	51.1	50.0					(表現・処理) 概数による和の見積もり	31	33	34
量と測定	6 面積	57.8	58.5	57.4	(知識・理解) 三角形の求積法 平行四辺形の求積法	88 83	89 83	87 81	(数学的な考え方) 面積の関係の利用 台形の面積 (表現・処理) 三角形の面積	42 44 37	46 40 36	46 42 37
	7 いろいろな図形, 平行・垂直	72.8	72.5	71.3	(知識・理解) 直線の垂直 直線の平行 平行四辺形の性質 平行四辺形が交わった角度	85 81 81 93	82 78 80 93	82 77 78 90				
数量関係	8 計算のきまり	54.1	54.3	54.5				(数学的な考え方) 計算のきまり・小数	47	49	49	
	9 数量の関係の見方や調べ方	61.2	62.7	60.8								

検査結果における個々の問題の概要およびその通過率

評価の観点	大問	大問の内容	小問	小問の内容	小領域	17年度	18年度	19年度	各校の通過率	誤答率	無答率
						函館市の通過率	函館市の通過率	の通過率			
1 関心・意欲・態度	2	小数と整数のしくみについて関心・意欲・態度をみる。		小数の学習への取り組み	関心・意欲・態度については、通過率は出されていないので、3ページの『観点別得点率』を参照する。						
	6	垂直や平行の勉強について、関心・意欲・態度をみる。		垂直・平行への取り組み							
	16	小数の乗法や除法について、関心・意欲・態度をみる。		小数の乗除への取り組み							
	22	計算のきまりについて、関心・意欲・態度をみる。		計算の決まりへの関心							
	27	概数について、関心・意欲・態度をみる。		概数の学習への取り組み							
	32	面積について、関心・意欲・態度をみる。		図形の面積への取り組み							
2 数学的な考え方	14	小数の乗法・除法の計算の仕方について考えることができるかをみる問題。	1	小数の乗法のしかた	3 小数のかけ算とわり算	31	32	29		68	2
			2	小数の除法のしかた		68	66	68		30	2
	19	小数の乗法の適用問題。		小数の乗法の適用	3 小数のかけ算とわり算	52	50	49		31	20
	20	小数の除法の適用問題。	1	小数の除法の適用・立式	3 小数のかけ算とわり算	42	39	38		58	4
	17	具体的場面で除法を用いたとき、答えやあまりを正しく求められるかをみる問題。		小数の除法の適用	3 小数のかけ算とわり算	43	43	44		53	3
	34	整数の除法の結果を分数に表せるかをみる問題。		除法の結果と分数	4 分数と、そのたし算・ひき算	48	51	48		32	20
	26	具体的な場面の目的に応じて、どのように概算すればよいかを問う問題。		目的に応じた概算・和	5 がい数、がい数	69	70	67		28	5
	30	基本的な図形の面積の求め方を利用した求積問題。		複合図形の面積	6 面積	44	40	42		49	9
	31	平行四辺形と三角形の面積に関する問題。		三角形の求積の応用	6 面積	42	46	46		39	15
	5	平行な2直線どうしが、交わってできる角度について理解しているかをみる問題。	2	平行線が交わった角度	7 いろいろな図形、平行・垂直	67	63	63		34	3
	8	4つに折った紙を切る時にできる形を考えることができるかをみる問題。		ひし形づくり	7 いろいろな図形、平行・垂直	71	79	72		28	1
	24	六角形の内角の和を求められるかをみる問題。		六角形の内角の和	7 いろいろな図形、平行・垂直	64	65	63		31	5
	21	四則に関して成り立つ性質を、小数の計算において考えることができるかをみる問題。	イ	イ	小数の乗法の考え方	8 計算のきまり	47	49	49		45
エ				小数の乗法の考え方	61		60	60		35	5
33	底辺が一定の三角形において、高さ・面積の2量の関係を考える問題。	1	1	面積と高さの関係	9 数量の関係の見方や調べ方	65	67	64		26	10
			2	面積と高さの関係		53	53	53		35	12
			3	面積から高さを求める		66	69	66		20	14
3 表現・処理	11	与えられた整数の中から、偶数を選び出すことができるかをみる問題。		整数の類別・偶数	1 整数の性質	78	74	72		26	2
	20	小数の除法の適用問題。	2	小数の除法の適用・答え	3 小数のかけ算とわり算	39	39	36		54	10
	3	乗数や除数が整数である場合の、小数の乗法・除法の計算問題。	1	小数×整数	3 小数のかけ算とわり算	90	90	88		11	1
			2	小数×整数		83	79	79		19	1
			3	小数÷整数		78	75	76		22	2
			4	小数÷整数		78	75	76		18	5
	13	乗数や除数が小数である場合の、小数の乗法・除法の計算問題。	1	小数×小数	3 小数のかけ算とわり算	75	72	72		26	2
			2	小数×小数		79	77	77		22	2
			3	小数÷小数		76	76	75		21	4
4			小数÷小数	78		79	76		19	5	
18	小数の除法で、答えを1/10の位までの概数で求められるかをみる問題。		小数の除法・四捨五入	3 小数のかけ算とわり算	26	25	23		63	14	

評価の観点	大問	大問の内容	小問	小問の内容	小領域	17年度	18年度	19年度	各校の通過率	誤答率	無答率
						函館市の通過率	函館市の通過率	の通過率			
3 表現・処理	10	同分母分数の加法・減法の計算問題。	1	分数の加法	4 分数と、そのたし算・ひき算	97	97	97	↑	3	0
			2	分数の減法		91	92	92	↑	7	0
			3	分数の減法		83	81	81		16	2
	25	具体的な場面の目的に応じて、和を概数で見積もることができるかをみる問題。		和の概数による見積もり	5 がい数、がい数	31	33	34		61	5
	29	三角形や平行四辺形の求積問題。	1	三角形の面積	6 面積	47	45	46		47	7
			2	三角形の面積		37	36	37		55	9
			3	平行四辺形の面積		66	66	66		25	9
	23	三角形の内角の和を基に、角の大きさを求められるかをみる問題。	1	三角形の角	7 いろいろな図形、平行・垂直	72	72	72	↑	24	4
			2	三角形の角		63	66	63		30	7
			3	三角形の角		76	77	75		19	6
4 知識・理解	12	奇数がどのような数が理解できているかをみる問題。		整数の性質・奇数	1 整数の性質	55	53	50		39	12
	1	小数の記数法についての問題。	1	小数の構成	2 整数や小数の仕組み	80	79	81		19	0
			2	小数の構成		96	95	95		5	0
			3	小数・100倍		71	69	68		32	0
			4	小数・100分の1		78	75	75		25	1
	15	乗数や除数が小数の場合の積や商の大きさについて問う問題。	1	小数の乗法の意味	3 小数のかけ算とわり算	79	77	78		22	0
			2	小数の除法の意味		53	52	52		47	1
	9	等しい分数の理解をみる問題。	ウ	等しい分数	4 分数と、そのたし算・ひき算	79	79	76		22	2
			カ	等しい分数		77	80	75		22	3
	28	三角形や平行四辺形の面積の求め方を理解しているかをみる問題。	1	三角形の求積法	6 面積	88	89	87		8	5
			2	平行四辺形の求積法		83	83	81		13	6
	4	直線の垂直・平行について理解しているかをみる問題。	1	直線の垂直	7 いろいろな図形、平行・垂直	85	82	82		16	1
			2	直線の平行		81	78	77		22	1
5	平行な2直線どうしが、交わってできる角度について理解しているかをみる問題。	1	平行線が交わった角度	7 いろいろな図形、平行・垂直	93	93	90		8	2	
7	平行四辺形の性質についての理解をみる問題。	ウ	平行四辺形の性質	7 いろいろな図形、平行・垂直	81	80	78		21	1	
		エ	平行四辺形の性質		54	57	55		45	1	

各校の通過率の欄には、それぞれの学校で自校の通過率を記入し、函館市の通過率と比較しながら、今後の指導に役立ててください。

↑は昨年度と比較して急激な伸び率を見せた問題で、↑は過去5年間で徐々に伸び率を見せている問題です。

昨年度の通過率を比較すると、どの領域においても大きな差異は見られませんでした。誤答率についても、依然として特定領域の小問（数と計算の「小数のかけ算とわり算」と「がい数」、量と測定の「面積」、数量関係の「計算のきまり」等）における「表現・処理」や「数学的な考え方」の育成が課題として挙げられます。

従って、子どもが数量や図形についての豊かな感覚を伴いながら意味を理解したり、考えを進めたり、活用したりできるようにするために、日常の指導において、様々な算数的活動を積極的に取り入れることが大切です。

また、各学校においては、結果から導かれる課題について共通理解を図り、各領域の系統性を踏まえながら、全校体制で指導計画を見直し、指導の改善を図る必要があります。

このようなことから、今後の算数科の学力向上を目指すためのポイントを2つに絞って示すことにします。

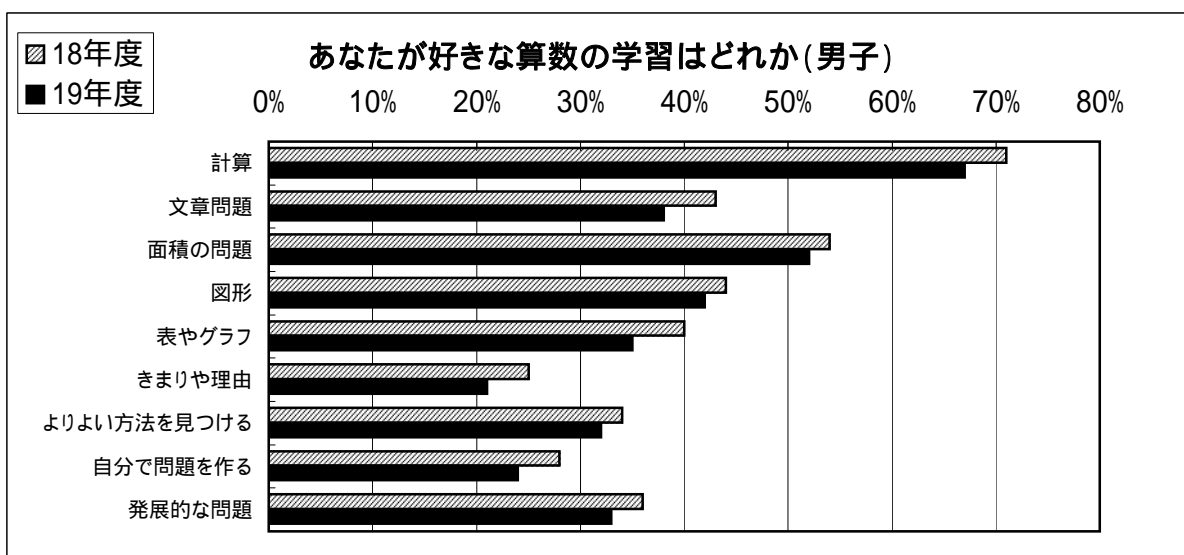


算数の学習に関する意識調査の結果<過去2年間>

調査時期；(18年度)平成19年1月～2月 (19年度)平成20年1月～2月
 調査児童；函館市の学力検査実施学年の児童
 男子(18年度)1,112名 (19年度)1,117名
 女子(18年度)1,103名 (19年度)1,021名
 (注)18年度に設問を見直したため、18～19年度の結果を掲載しています。

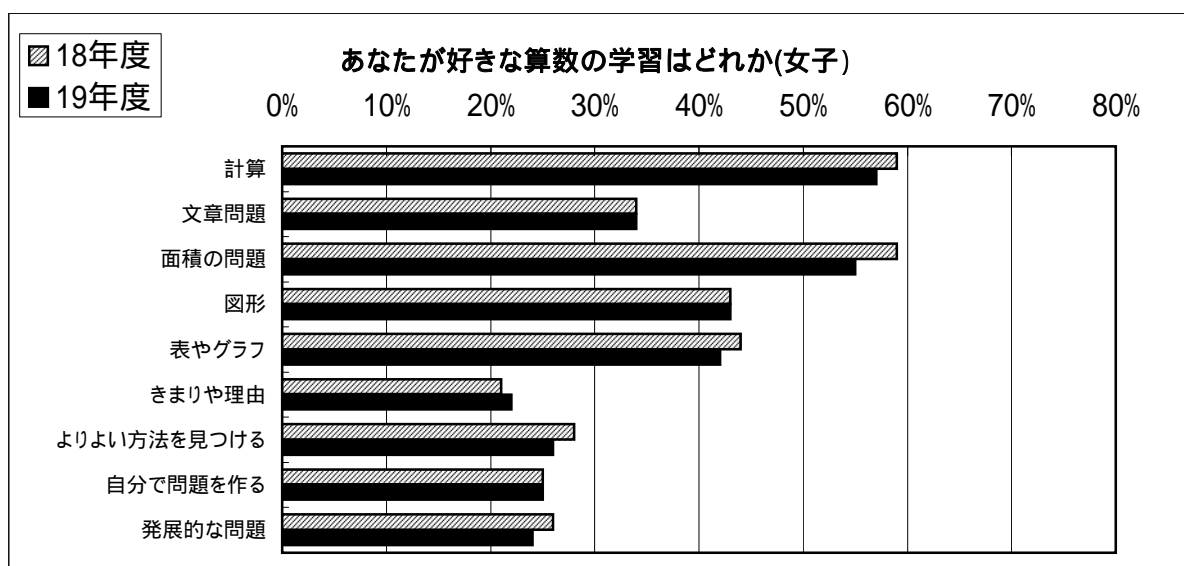
設問・・・あなたが好きな算数の学習はどれか(男子)

	計算	文章問題	面積の問題	図形	表やグラフ	きまりや理由	よりよい方法を見つける	自分で問題を作る	発展的な問題
18年度	71%	43%	54%	44%	40%	25%	34%	28%	36%
19年度	67%	38%	52%	42%	35%	21%	32%	24%	33%



設問・・・あなたが好きな算数の学習はどれか(女子)

	計算	文章問題	面積の問題	図形	表やグラフ	きまりや理由	よりよい方法を見つける	自分で問題を作る	発展的な問題
18年度	59%	34%	59%	43%	44%	21%	28%	25%	26%
19年度	57%	34%	55%	43%	42%	22%	26%	25%	24%

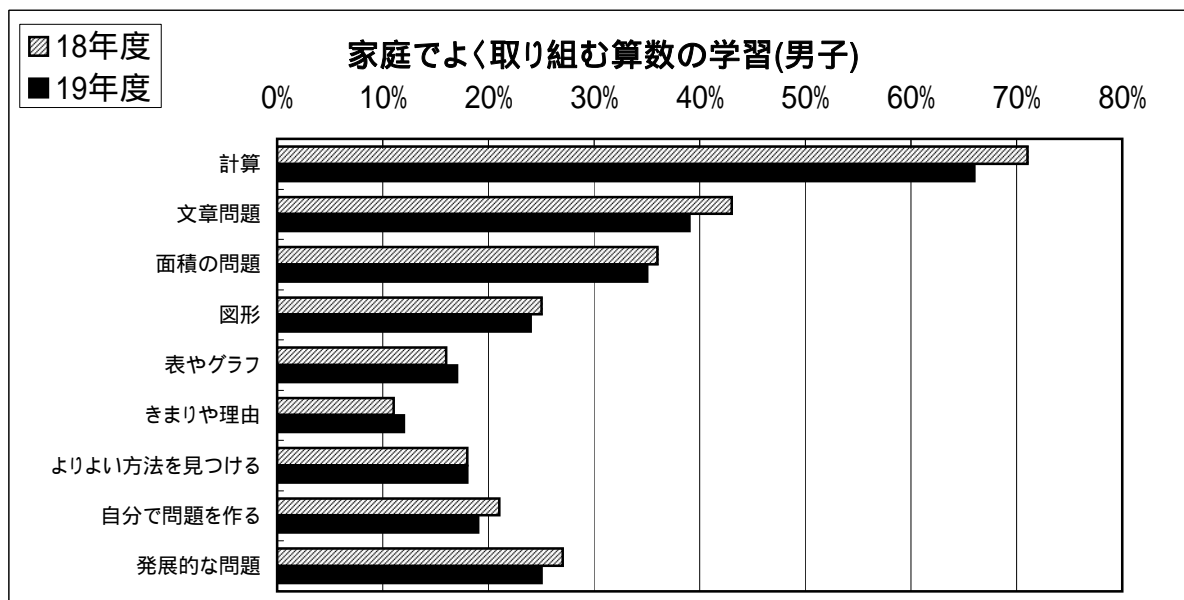


発展的な問題



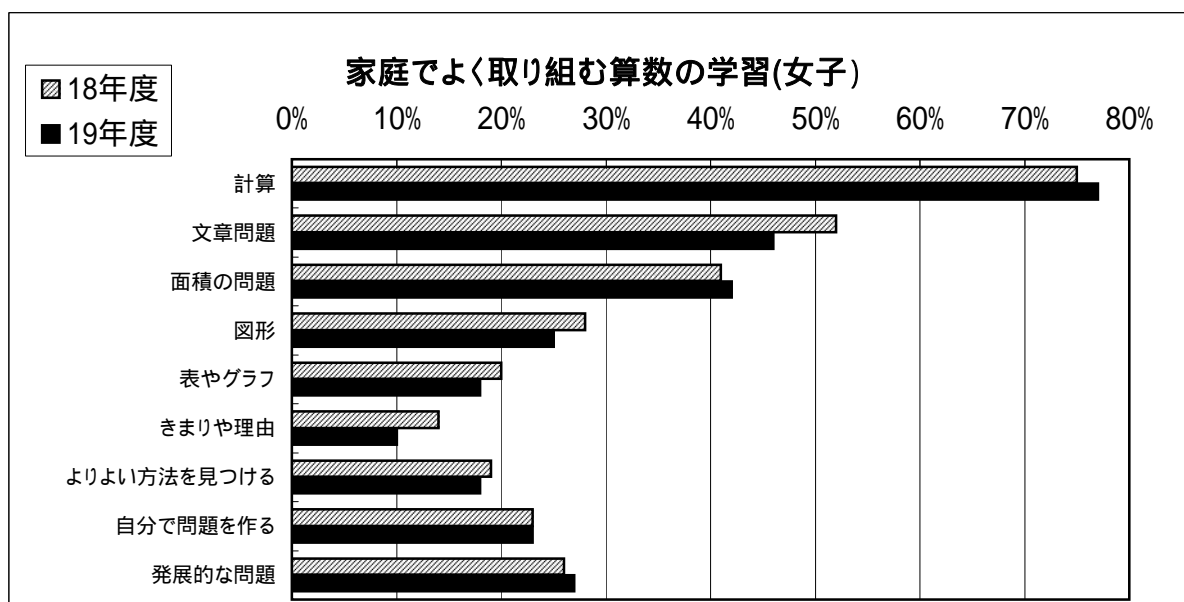
設問 ・ ・ 家庭でよく取り組む算数の学習（男子）

	計算	文章問題	面積の問題	図形	表やグラフ	きまりや理由	よりよい方法を見つける	自分で問題を作る	発展的な問題
18年度	71%	43%	36%	25%	16%	11%	18%	21%	27%
19年度	66%	39%	35%	24%	17%	12%	18%	19%	25%



設問 ・ ・ 家庭でよく取り組む算数の学習（女子）

	計算	文章問題	面積の問題	図形	表やグラフ	きまりや理由	よりよい方法を見つける	自分で問題を作る	発展的な問題
18年度	75%	52%	41%	28%	20%	14%	19%	23%	26%
19年度	77%	46%	42%	25%	18%	10%	18%	23%	27%



(3) 学力向上のためのポイント

小学校算数科における5年間の傾向

学力検査の結果を次のようにまとめました。

観点別得点率によると、「関心・意欲・態度」はこの5年間、8割前後で推移しており多くの児童が、「分かるようになりたい」という気持ちをもっていることがわかります。一方、「数学的な考え方」は依然として5割台であり、この能力の育成に向けた学習指導の改善が大きな課題です。

領域別に見ると、「数と計算」と「図形」が高く、「量と測定」と「数量関係」が低いという二極化した傾向は5年間変わりませんでした。また、「数と計算」が下降気味なのが課題であると考えます。

誤答傾向を見ると、「数学的な考え方」に課題があり、また、題意をつかめず誤答したり、その意味を十分理解していないと考えられる児童が多く見られました。誤答や無答の児童は、問題解決の手順がよく理解できていないのではないかと考えられます。

学習指導の改善のポイントとして、問題解決的な学習を重視した指導の徹底や、実感を伴った理解ができるよう算数的活動を積極的に取り入れることがますます重要であると考えられます。

小学校算数における5年間の授業改善の視点・ポイント

【平成16年度 報告書】

- 視点1 数学的な考え方を育てる指導の充実
- 視点2 一人一人の学習状況に応じた指導の充実
- 視点3 算数的活動を通じた指導の充実
- 視点4 多様な考え方を生かす指導の充実

【平成17年度 報告書】

- 視点1 数学的な考え方や表現する力を高める指導の充実
- 視点2 理解と技能とのバランスのとれた力を育成する指導の充実
- 視点3 問題解決の過程を重視する指導の充実
- 視点4 算数を生活に生かしたり、数学的に発展させたりする指導の充実

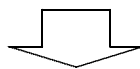
【平成18年度 報告書】

- ポイント1 算数的活動を取り入れ、実感を伴った理解ができる教材の工夫
- ポイント2 数学的に表現する力と読み取る力を高める指導の工夫
- ポイント3 問題解決の過程を重視する指導の充実
- ポイント4 学力検査の結果を受けた指導計画の見直し

【平成19年度 報告書】

- ポイント1 学年間の系統を見通し、実感を伴った理解を図る指導の工夫
- ポイント2 問題の意味を数学的に理解させ、解決の見通しをもたせるための工夫
- ポイント3 算数から数学に移行するための指導の重点

【平成20年度】



- ポイント1 数学的な考え方を育てる指導の工夫
- ポイント2 算数的活動を通して実感を伴った理解を図る指導の充実

確かな算数の力をはぐくむために

【ポイント1】 「数学的な考え方を育てる指導の工夫」

検査結果によると、小数の仕組みの理解、少数の乗法と除法の計算技能は概ね身に付いていますが、小数の乗法、除法の文章題ができない児童が多いことがわかりました。

- ア 乗法、除法は意味の指導を十分に行い、それらは比例関係に基づいていることを理解させる。
 イ 比例関係にある2つの量は、数直線に表して考えることができるようにする。
 ウ 倍と割合の指導で「比の3用法」を理解させ、乗法と除法を統合的に捉えられるようにする。

文章題を解くために必要な力

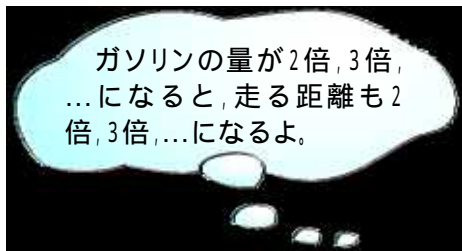
文章題を解くためには、どんな力が必要なのでしょう。右の設問で考えてみます。

1 のガソリンで14 km走る自動車があります。2.3 では、何 km走ることができますか。

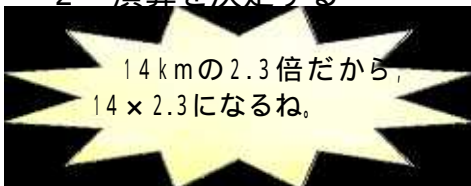
(通過率は49%)

「教研式標準学力検査CRT - 小学校5年算数3学期実施版 社団法人日本図書文化協会 制作」より抜粋

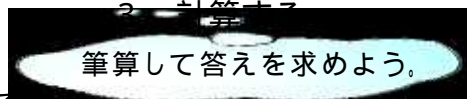
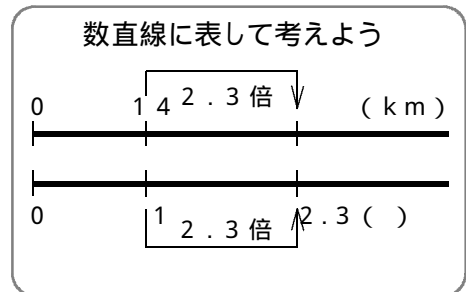
1 問題を数学的に読み取る



2 演算を決定する



図に表して考える



多くの子どもは演算を決定するまでの過程でつまづいているので、図に表して考えると分かりやすいことなどを実感させることが必要です。

比例関係にある2量の関係を表すには、数直線が有効です。数直線で表す指導を繰り返すことによって、比例関係を捉え、小数の乗法、除法の意味の理解が深まります。

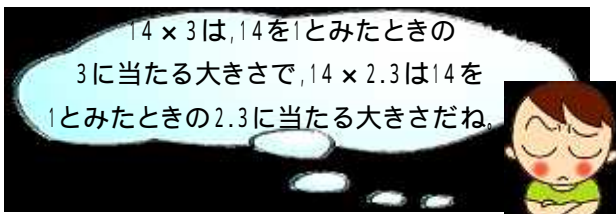
<文章題を解くために必要な力>

- 1 問題文を数学的に読み取る
- 2 演算を決定する
- 3 計算する

ア 小数の乗法、除法の意味の指導

小数の乗法では、整数の乗法で用いてきた「同数累加」(加法の繰り返し)を「基準量×割合」の考え方に結び付けることが大切です。

この割合の考え方は、乗数が整数の場合も小数の場合にも当てはまります。



【小数の乗法の意味】

Bを基準量, Pを割合, Aを割合に当たる大きさとするとき, $B \times P = A$

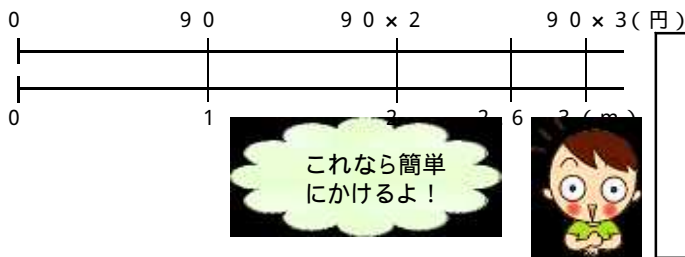


【除法の意味】

乗法の逆として割合を求める
 $P = A \div B$ 何倍かを求める (包含除)
 基準量を求める
 $B = A \div P$ (整数の場合の等分除)

イ 小数の乗法，除法の指導は数直線が有効

教科書では，子どもの発達の段階に応じて数直線の表し方を分けていますが，それを子どもに活用させる指導が少なかったように思われます。今後の指導では，数量の関係を数直線に表し，計算の意味や計算の仕方を考え，説明する活動を取り入れることが一層大切です。



< 数直線の教育的価値 >
 立式の根拠となる
 意味の拡張ができる
 計算の仕方を導くことができる
 積や商の大きさを見積もることができる
 乗除法を統合的に捉えることができる

5年生の教科書では，小数の乗法，除法の導入において，中学年と同じ，テープ図と数直線を合わせた図で表し，その後は2量を対応させた2本の数直線で表しています。

5年「小数のかけ算」

① 1 mのねだんが90円のリボンを，2.6 m買いました。代金はいくらですか。

② 1 mの重さが2.3 kgのパイプがあります。パイプ2.8 mの重さは何kgですか。

5年「小数のわり算」

① リボンを2.5 m買ったなら，代金は200円でした。このリボン1 mのねだんは何円ですか。

② 重さが7.8 kgの鉄のぼうがあります。この鉄のぼう1 mの重さは何kgですか。

ここから2本の数直線になります。

ウ 倍と割合の指導

小数の倍と割合について，教科書では以下のように説明しています。

5年「小数の倍とかけ算」(小数のかけ算)

② 赤，青，黄の3本のテープがあります。赤のテープの長さは5 mです。青のテープは，赤のテープをもとにすると3.5倍，黄のテープは，赤のテープの0.6倍の長さです。

青と黄のテープは，それぞれ何mですか。

園 園 園

- 5 mの3.5倍の長さは，5 mを1とみたとき，3.5にあたる長さのことです。
- 小数の倍にあたる大きさは，整数の倍にあたる大きさを求めたときと同じように，かけ算で求められます。

5年「小数の倍とわり算」(小数のわり算)

① 右の表は，ゆりえさんたちの家から駅までの道のりを表しています。

ゆりえさんの道のりをもとにすると，ほかの人の道のりは，それぞれ何倍ですか。

ひろし	ゆりえ	みさき	たくや
-----	-----	-----	-----

倍

- 小数のときも，ある大きさが，もとにする大きさの何倍にあたるかを求めるには，わり算を使います。
- 0.75倍は，2.4 kmを1とみたとき，1.8 kmが0.75にあたることを表しています。

「倍にあたる大きさ」を求めるときはかけ算、「何倍にあたるか」と「もとにする大きさ」を求めるときはわり算など、倍の指導を通して乗法と除法を関連付けて考えられるようにします。これが、「比の3用法」です。

「小数のかけ算」では第2用法を、「小数のわり算」では第1用法と第3用法を指導します。基準量を求める第3用法は、割合が小数になると立式が難しくなるので、教科書では、はじめに基準量として乗法の式に表してから除法で求めるという考えを用いています。

<比の3用法>

2つの数量A Bについて、AのBに対する割合をPとすると、割合についての計算は、次の三つにまとめられる。

$$P = A \div B \text{ (比の第1用法)}$$

$$A = B \times P \text{ (比の第2用法)}$$

$$B = A \div P \text{ (比の第3用法)}$$

は割合を求める計算

は割合に当たる量を求める計算

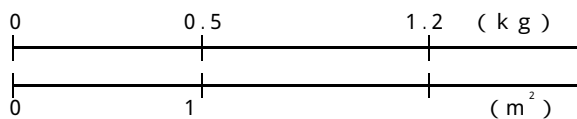
は基準量を求める計算

割合は「百分率とグラフ」という単元で指導されます。導入では、何倍かを求める(比の第1用法)ことにより割合の意味を指導し、第2小単元「百分率の問題」で比の第2用法と比の第3用法を扱います。

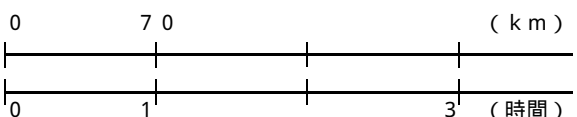
教科書には比の3用法が順に取り上げられ、数直線で考させるようになっていきます。6年生の「単位量あたりの大きさ」や分数の乗除でも、数直線が用いられます。

6年「単位量あたりの大きさ」

4 学校の花だんに、 1 m^2 あたり 0.5 kg の肥料をまきます。 1.2 kg の肥料では、何 m^2 にまくことができますか。

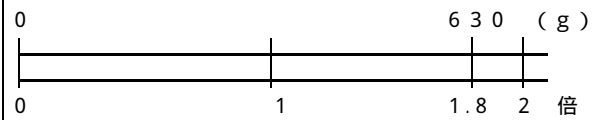


3 時速 70 km で飛ぶわたり鳥が、3時間に進む道のりを求めましょう。



2 れなさんの家には、生後10日の犬がいます。今の体重は 630 g で、生まれたときの体重の1.8倍です。

生まれたときの犬の体重は何 g でしたか。



・生まれたときの体重を g として、かけ算の式に表しましょう。

・もとにする大きさを求めるときは、 を使ってかけ算の式に表すと考えやすくなります。

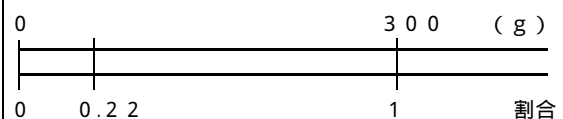
第1用法も第3用法も、一度かけ算の式に表してからわり算の式に導くことができます。



5年「百分率の問題」(百分率とグラフ)

1 今までの大きな博らん会に出るごみの量は、ふつう、1人あたり 300 g です。2001年に開かれた北九州博らん会では、1人あたりのごみの量を、これまでの22%に減らすことができました。

北九州博らん会の1人あたりのごみの量は、何 g ですか。



・比べられる量は、次の式で求められます。

$$\text{比べられる量} = \text{もとにする量} \times \text{割合}$$

乗法、除法の文章題の解決方法

乗法と除法は、すべて比例関係に基づいて考えることができます。そして、それらは、比の3用法のどれかに当てはまります。

乗法や除法の問題を数学的に読み取る力とは比例関係を捉えることであり、それに基づいて数直線に表して考え、乗法、除法の意味や比の3用法から演算を決定し、文章題を解決できます。

高学年の2年間で、これらの力を十分に身に付けさせることが大切です。また、比例の考え方は、中学校で再度学習する比例や反比例を含む関数に発展していきます。

【ポイント2】「算数的活動を通して実感を伴った理解を図る指導の充実」

これまでも算数的活動については、本プロジェクトの過去5年間の報告において、その必要性を一貫して主張してきました。

新学習指導要領においては、具体的な算数的活動が示されています。

内容の「A数と計算」、「B量と測定」、「C図形」及び「D数量関係」に示す事項については、例えば、次のような算数的活動を通して指導するものとする。

- ア 小数についての計算の意味や計算の仕方を、言葉、数、式、図、数直線を用いて考え、説明する活動
- イ 三角形、平行四辺形、ひし形及び台形の面積の求め方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動
- ウ 合同な図形をかいたり、作ったりする活動
- エ 三角形の三つの角の大きさの和が 180° になることを演繹的に考え、説明する活動
- オ 目的に応じて表やグラフを選び、活用する活動

(平成20年3月告示 小学校学習指導要領 第5学年 2内容〔算数的活動〕より一部抜粋)

ここでは、それらの中からいくつかの具体的な例を授業実践レベルで紹介します。

算数的活動 ウの例： 第5学年「垂直・平行と四角形」

台形や平行四辺形についての理解を確かなものにする活動

台形や平行四辺形の指導においては、「つくる」「分別する」「弁別する」「生活に関連付ける」などの算数的活動を取り入れることができます。

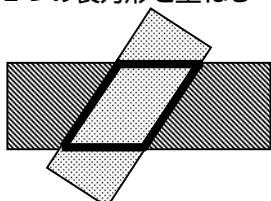
四角形や三角形を重ねて、いろいろな四角形をつくりましょう。



「つくる」

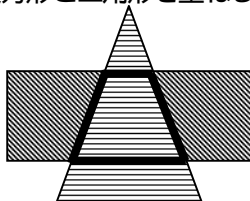
まず、四角形や三角形の紙を重ね、いろいろな四角形をつくらせます。このとき、下の図のような四角形ができます。

・ 2つの長方形を重ねる



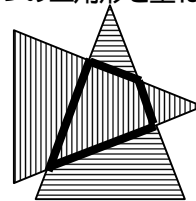
平行四辺形

・ 長方形と三角形を重ねる



台形

・ 2つの三角形を重ねる



四角形

「分類する」

次に、つくった四角形の仲間分けをします。ここでは辺の平行に目を付けさせることで、下のような分類をすることが予想されます。



・ 1組の辺が平行



・ 2組の辺が平行



・ 平行な辺の組がない

「弁別する」

台形、平行四辺形の用語を理解させた後に、いろいろな四角形の中から構成要素に着目して台形や平行四辺形に弁別する活動を取り入れます。

「生活に関連付ける」

最後に、身の回りにある台形や平行四辺形を見つけさせます。

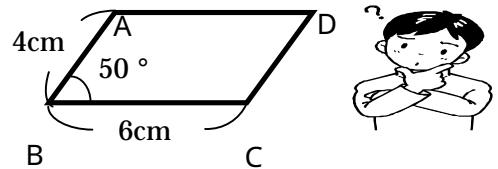
これらの算数的活動を通して、台形と平行四辺形の理解をより確かなものにすることができます。



合同な図形をかく活動

平行四辺形のかき方の指導は、各自に作図の仕方を考えさせ、話し合わせることで、最も合理的なかき方を見つけさせることが大切です。

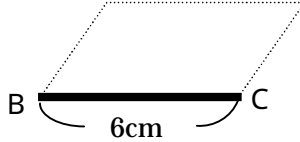
平行四辺形の性質をつかってかき方を考えましょう。



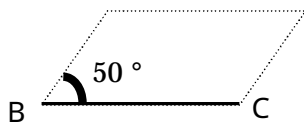
< 予想される子どもの考え >

Aの考え

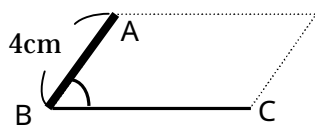
辺BC



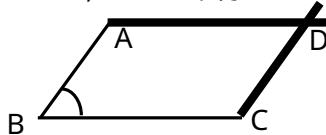
角B



辺AB



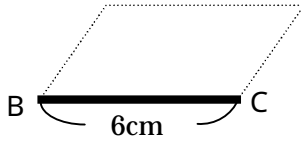
辺BC, ABに平行



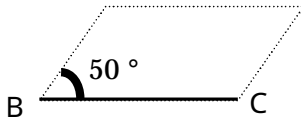
私は向かい合った2組の辺は平行という性質を使ってかきました!

Bの考え

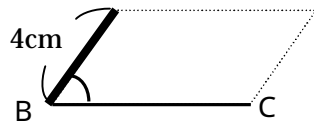
辺BC



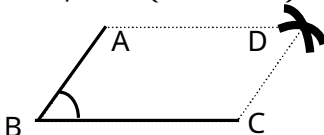
角B



辺AB



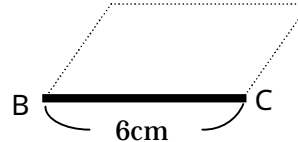
辺AD, BC (コンパス)



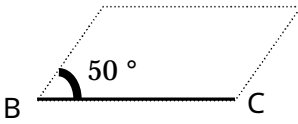
ぼくは向かい合った辺の長さが等しいという性質を使ってかいたよ!

Cの考え

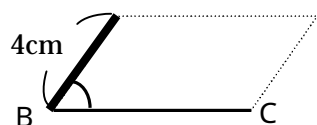
辺BC



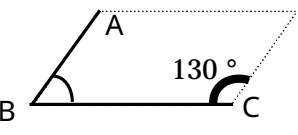
角B



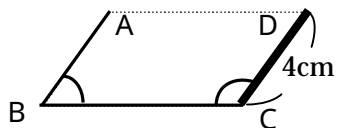
辺AB



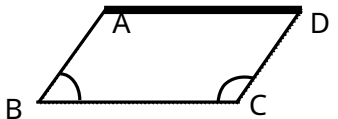
角C



辺CD



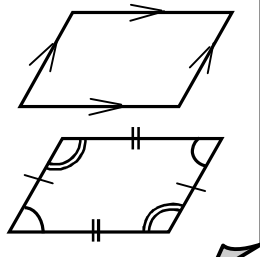
辺AD



ぼくは掲示物の性質や、前に習った平行な直線と角度の関係を使って考えたよ!

< 平行四辺形の性質 >

向かい合った2組の辺が平行
向かい合った辺の長さは等しい
向かい合った角の大きさは等しい



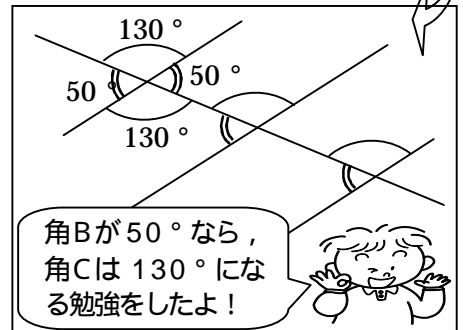
既習事項を活かすことができるように、左のような掲示物を用意しておけるといいですね。



作図後は以下の流れでお互いの考えを交流させることで、より簡単なかき方であるAやBのよさに気付かせます。



「自分の考えと同じ考えはどれですか？」
「A～Cの考えは平行四辺形のどの性質を利用していますか？」
「より簡単なかき方はどれですか？」



角Bが50°なら、角Cは130°になる勉強をしたよ!

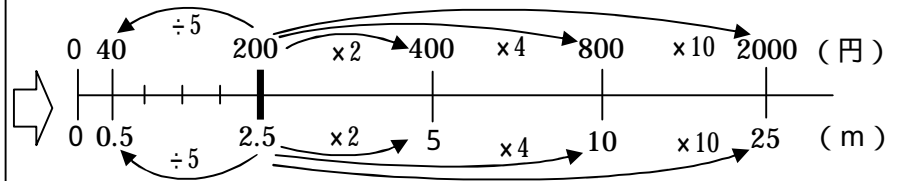


算数的活動 アの例：第5学年「小数のわり算を考えよう」

比例関係に着目させる活動

2.5mで2000円のリボンがあります。このリボンは m のとき、 円です。

- 「5mのとき400円です。」
- 「0.5mのとき40円です。」
- 「2.5mのとき2000円です。」
- 「10mのとき8000円です。」



一方がn倍になればもう一方もn倍になるということを数直線で確認します。これがわり算のきまりにつながります。

1mの値段を求める活動

このリボンの1mの値段も求められますか。

子どもたちは1m分に直しやすい数値に着目し始めます。

「2.5mで2000円だから、どちらも25でわると1m分は2000÷25で80円。」

1mで 80円

↙ ×10 ↘

2.5mで 200円

↙ ×10 ↘

25mで 2000円

「2.5mは0.5mの5個分。0.5mの値段は40円だから1m分はその2倍の80円。」

0.5mで 40円

↙ ×2 ↘

1mで 80円

↙ ÷5 ↘

2.5mで 200円

問題を式に表す活動

1mの値段が求められたところで改めて問題文を式に表すとどうなるか考えます。

2.5mで2000円のリボンがあります。このリボン1mの値段はいくらでしょう。



- 「2.5mで2000円だったら、1mあたりを求める式は2000÷2.5だ。」
- 「2.5mで200円だけど、200÷2.5なんてわり算ありうるのかな？」

同じリボンなのだから、1mは80円。「200÷2.5=80だね。」

小数であっても1m分を求めるときは整数と同じようにわり算になることを数直線で確認します。

これまでに考えてきたいろいろなりボンと値段の組み合わせから、1mの値段を求める式を考え、短冊に書き出します。

$$40 \div 0.5 = 80$$

$$200 \div 2.5 = 80$$

$$400 \div 5 = 80$$

$$2000 \div 25 = 80$$

$$800 \div 10 = 80$$

整数のわり算に用いた「わり算のきまり」を小数のわり算にも活用することで、より簡便に計算ができることに気付かせます。

「わられる数とわる数に、同じ数をかけているね。」
 「わられる数とわる数を、同じ数でわっている。」
 「4年生のときに400÷200を4÷2と考えたわり算の計算のきまりとよく似ているよ。」

手際のよい計算の仕方を考える活動

最後に、200÷2.5の計算をするためには、どのわり算を使うと簡単か考えさせます。

- 「わる数が小数ではなく、整数になるわり算がいいな。」
- 「わる数・わられる数を4倍した800÷10は計算しやすい！」
- 「今回は4倍したらたまたま整数になったけど、これが2.6とかだったら4倍しても整数にはならないよ。」
- 「10倍の2000÷25だったら小数点を動かすだけで計算できる！」

計算方法は数値が変わっても使えるよう、より一般化していく方向に話し合いを促しましょう。

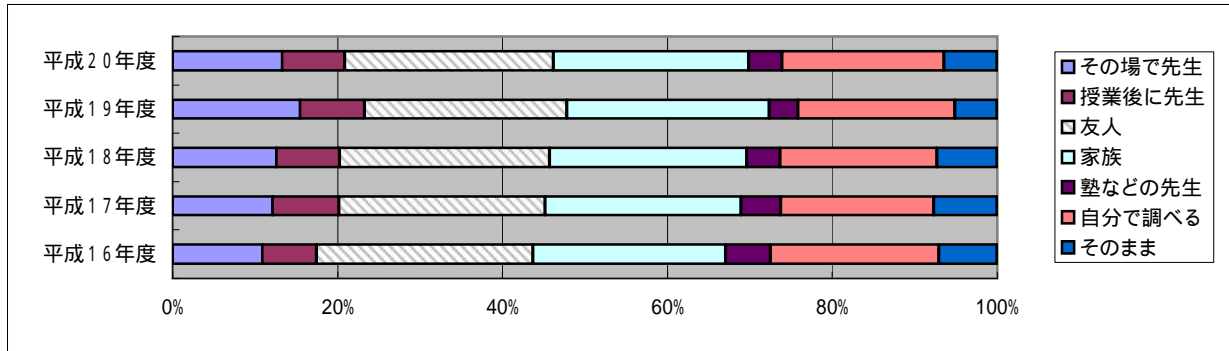


算数的活動を積極的に取り入れることで、子どもは学ぶことの楽しさや充実感を味わうことができます。また、実感を伴った理解につながるなど、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ることができます。

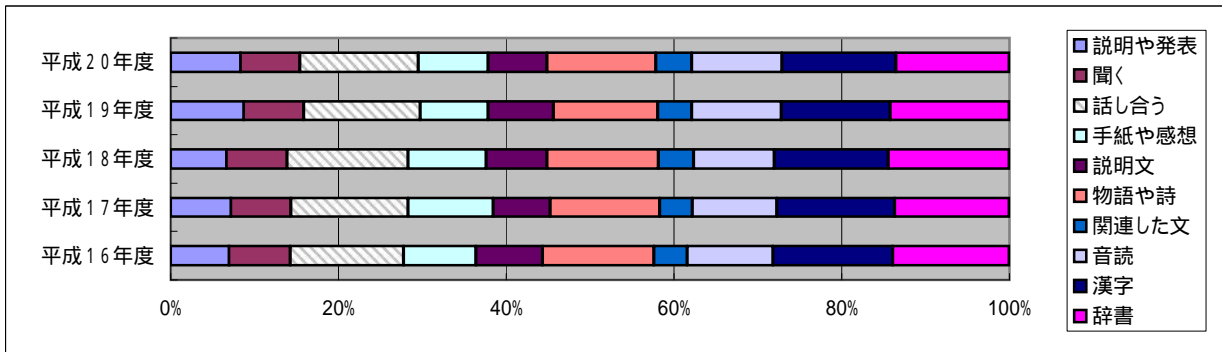
4 小学校学習意識調査の結果と考察

(1) 学習意識調査の結果一覧

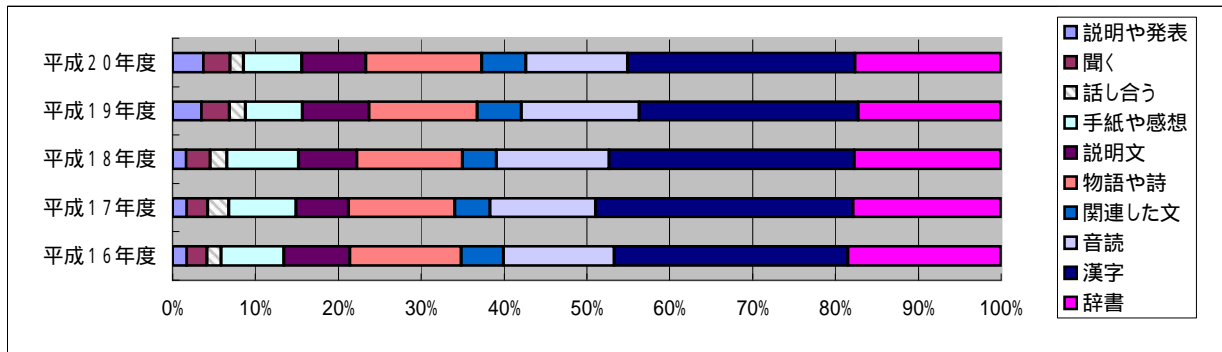
授業でわからないことがあったら、どうすることが多いか。



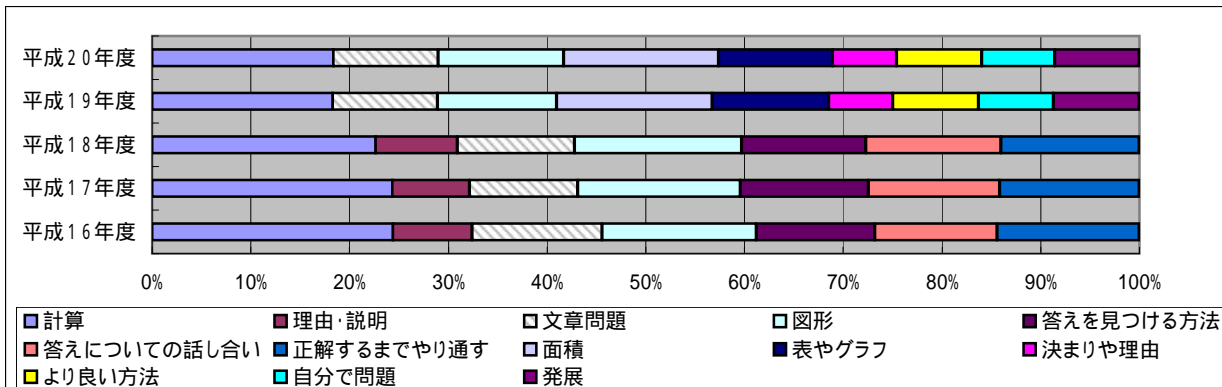
あなたの好きな国語の学習はどれか。



家庭でよく取り組む国語の学習は何か。

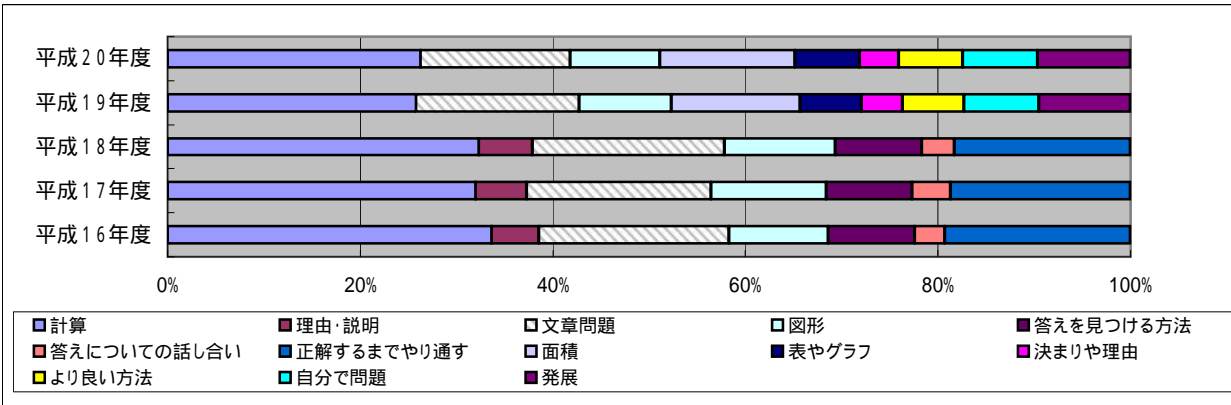


あなたが好きな算数の学習はどれか。

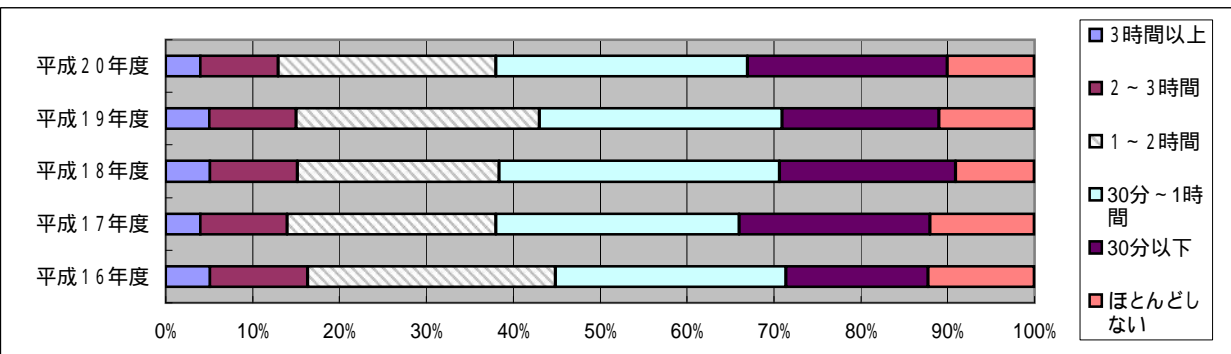


- 答えについての話し合い
- 止解するまでやり通り
- 面積
- 表やグラフ
- 決まりや理由
- より良い方法
- 自分で問題
- 発展

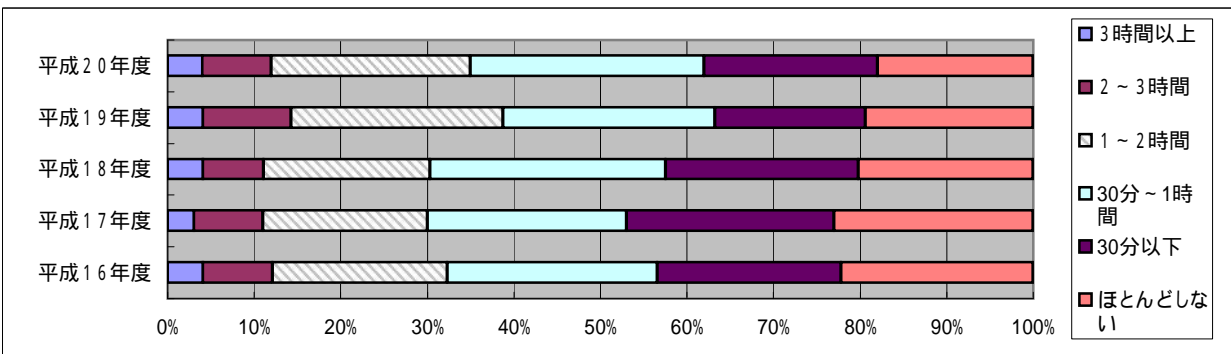
家庭でよく取り組む算数の学習は何か。



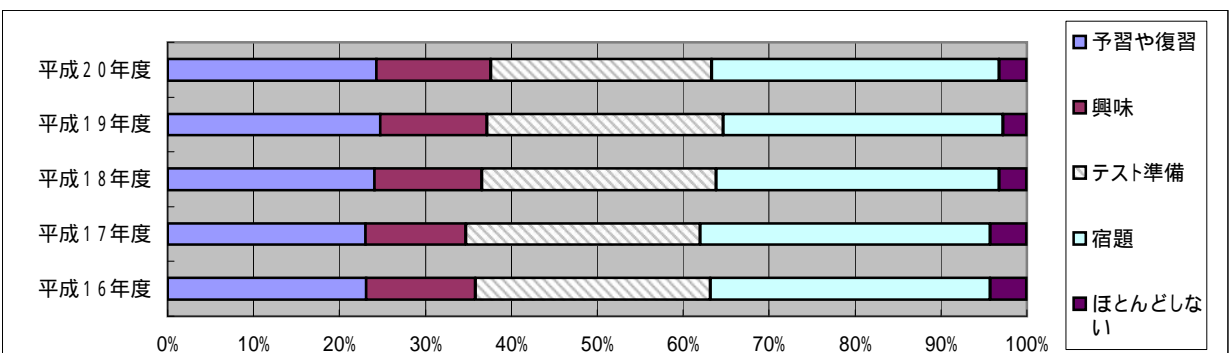
平日の家庭学習や塾などで学習する時間はどれくらいか。



休日の家庭学習や塾などで学習する時間はどれくらいか。

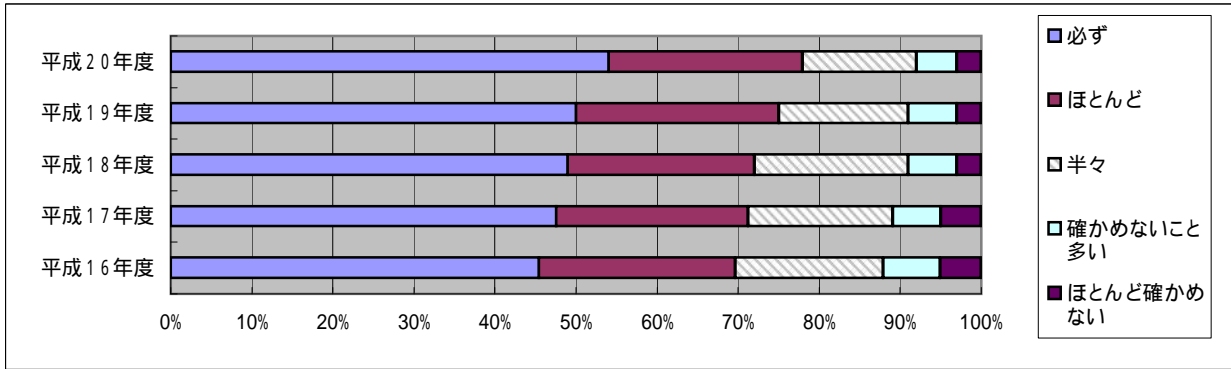


家庭学習の内容はどれに近いか。

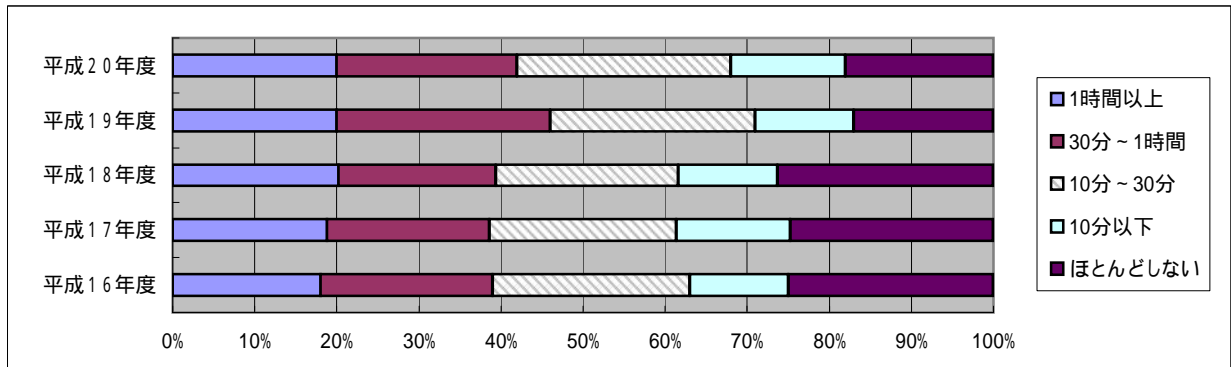


0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

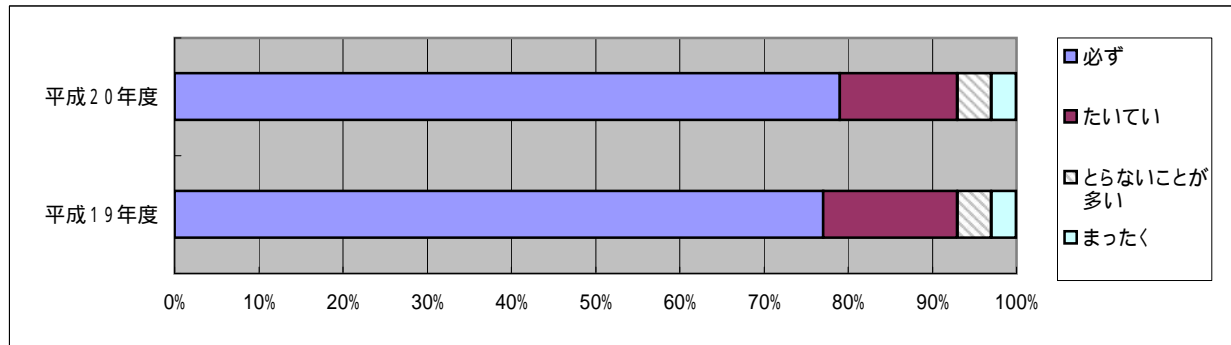
勉強道具をいつ確かめるか。



家で一日、どれくらい読書をするか。



学校に行く前に朝食をとるか。



(2) 学習に向かう構えや意識に関する考察

過去5年間に行った意識調査を比較したところ、年度によって多少の増減はあるものの、子どもたちの意識にそれ程大きな違いは見られませんでした。そのことから函館市の子どもの学習に向かう構えや意識は年代を問わずほぼ同じ傾向と考えることができます。

ア 集計結果から読み取れる傾向

勉強のやる気がわいてくる時

「テストの点数が高かった時」「調べ方や考え方がわかった時」と回答した児童の割合が非常に高く、「家族や先生にほめられた時」と答えた児童も比較的高い状況です。このことから、「できる」「わかる」「ほめられる」体験が児童のやる気を高めると考えられます。

授業でわからないことがあった時

「その場で先生にたずねる」「授業後に先生にたずねる」を合わせた合計より、「友人」や「家族」にたずねると答えた子の方が多く、特に、女子にその傾向が顕著に見られます。また、「そのままにしておく」と答えた児童が16%もいることは見過ごせない問題であると考えます。

国語の勉強は好きですか。国語の授業はわかりますか。

「好き」「どちらかと言えば好き」の合計が44%。「よくわかる」「大体わかる」の合計が69%となっています。

算数の勉強は好きですか。算数の授業はわかりますか。

「好き」「どちらかと言えば好き」の合計が46%、「よくわかる」「大体わかる」の合計が59%であります。「どちらかと言えば嫌い」「嫌い」の合計が28%、「わからないことが多い」「ほとんどわからない」の合計が14%と国語に比べ、「好き」「嫌い」「わかる」「わからない」が両極端な傾向となっています。

好きな国語の学習。家庭でよく取り組む国語の学習について

漢字の勉強が「好き」44%、漢字を「家庭でよく取り組む」72%、他の項目は、ほぼ同数か「家庭でよく取り組む」より「好き」の方が上回ります。

好きな算数の学習。家庭でよく取り組む算数の学習について

計算が「好き」62%、計算を「家庭でよく取り組む」71%、文章問題が「好き」36%、文章問題を「家庭でよく取り組む」42%であり、他の項目に比べ、「計算」「文章問題」が「好き」より「家庭でよく取り組む」を上回っています。

家庭での学習時間や内容について

平日の家庭での学習時間が30分以下の割合が33%、休日の家庭での学習時間が30分以下の割合が38%、家庭学習の内容で「宿題」と答えた児童の割合が73%、つまり、3割近くの児童が「宿題」をしていないことがわかります。「ほとんどしない」児童の割合から、「30分以下」の児童は限りなく「ほとんどしない」に近いのではないかと考えられます。従って、30%近くの児童が「家庭で勉強していない」状況であると考えられます。

読書に関する状況について

読書においても、「10分以下」と「ほとんどしない」を合わせると32%です。これは、「家庭での学習時間や内容について」の「家庭で学習していない」児童の割合とほぼ同数です。

勉強道具の準備状況について

「必ず」と「ほとんど」を合わせるとほぼ8割の児童が毎日調べています。逆に言えば2割近くの児童は毎日きちんと調べていないこととなります。

朝食の摂取状況について

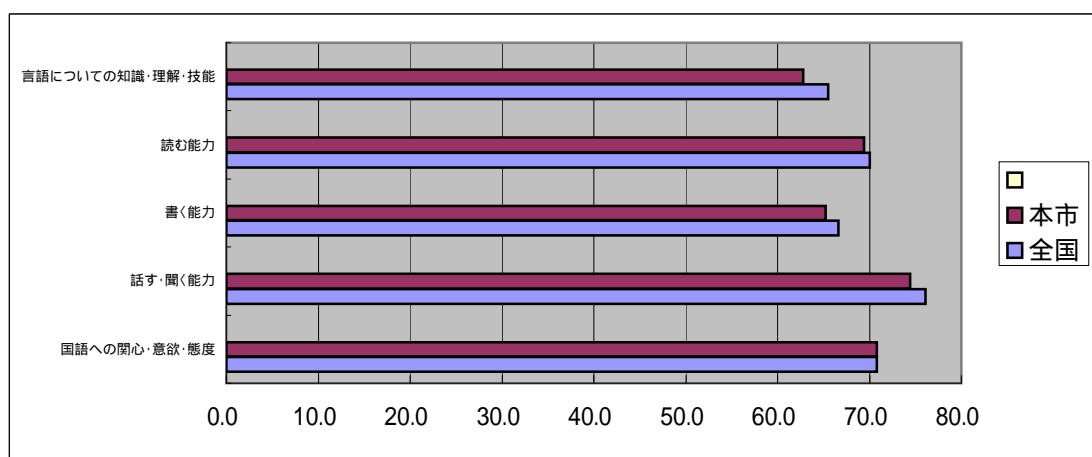
「必ず食べる」79%。「必ず食べる」ことを常識とするならば、かなり低いと考えざるを得ない状況です。

5 中学校国語科

(1) 調査結果の概要

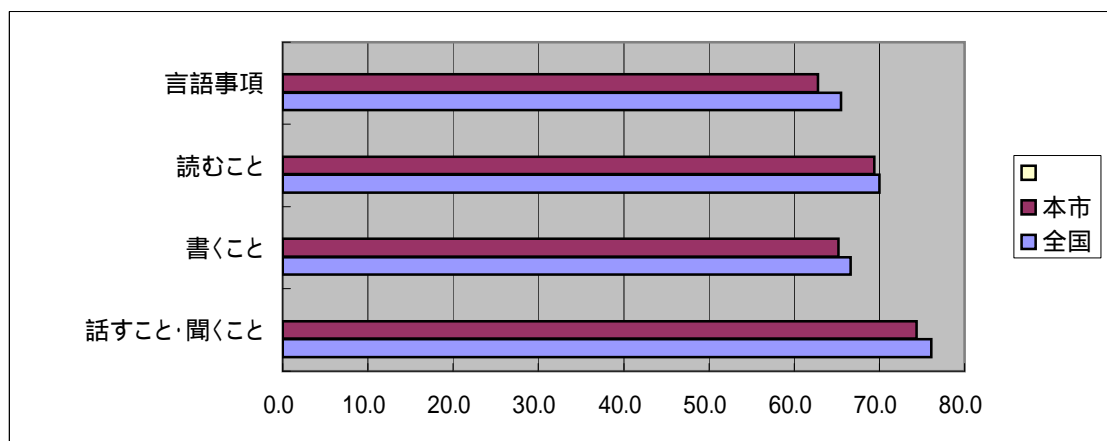
観点別得点率

観 点	得 点 率	
	全 国	函 館 市
	19年度	19年度
国語への関心・意欲・態度	70.8	70.8
話す・聞く能力	76.1	74.4
書く能力	66.6	65.2
読む能力	70.0	69.4
言語についての知識・理解・技能	65.5	62.8



領域別得点率

領 域	得 点 率	
	全 国	函 館 市
	19年度	19年度
話すこと・聞くこと	76.1	74.4
書くこと	66.6	65.2
読むこと	70.0	69.4
言語事項	65.5	62.8



(2) 調査結果の分析

領域別問題通過率（平成19年度）

領 域		得点率%		通過率が高かった問題		通過率が低かった問題	
		全国	函館市	全国	函館市	全国	函館市
話すこと・聞くこと	1 意図を考えて聞き、工夫して話す	80.5	78.7	主題の聞き取り スピーチの批評 適切な質問意見 話をする態度	93 82 87 90	94 81 87 91	
	2 目的に沿って適切に話し合うこと	68.0	66.7	話し合い・司会者	88	88	
書くこと	3 身近に課題を見つけて描くこと	79.3	77.8	材料を吟味して書く 材料を吟味して書く 考えを明確にして書く	88 88 91	88 89 91	
	4 伝えたい事を明確にしてかくこと	64.2	61.8				
5 文章を推敲すること	51.5	50.9				推敲・仮名遣い 45 45 推敲・文末表現 47 44	
読むこと	6 文章の展開に即して読み取ること	69.8	70.5	叙述に即した読み取り 文脈に合う語・恩義 文脈に合う語・ボン	87 81 96	86 84 97	文章の内容理解 48 46
	7 文章の展開に注意して読むこと	76.6	77.4	古文の内容理解	89	91	
	8 論理の展開や構成を読み取ること	67.0	64.1				
言語事項	9 文の組み立てを理解すること	63.6	61.8				文節の理解 43 39
	10 漢字や語句などの知識を持つこと	66.6	63.2	漢字の読み・交互 漢字の読み・離陸 漢字の読み・薄く	86 86 95	87 88 96	漢字の読み・趣 22 21 漢字の書き・提供 37 32

検査結果における個々の問題の概要およびその通過率

評価の観点	大問	大問の内容	小問	小問の内容	小領域	19年度	19年度	各校の	誤	無	
						全国の	函館市の				通過率
						通過率	通過率	通過率	率	率	
1 関心・意欲・態度	3	聞くことについて、関心・意欲・態度をみる。		聞くことの関心・意欲・態度	関心・意欲・態度については、通過率は出されていないので、1ページの『観点別得点率』を参照する。						
	6	書くことについて、関心・意欲・態度をみる。		書くことの関心・意欲・態度							
	9	読むことについて、関心・意欲・態度をみる。		読むことの関心・意欲・態度							
	11	漢字の学習について、関心・意欲・態度をみる。		漢字への関心・意欲・態度							
	17	話すことについて、関心・意欲・態度をみる。		話すことの関心・意欲・態度							
	18	図書館の利用について、関心・意欲・態度をみる。		図書館への関心・意欲・態度							
2 話す・聞く能力	1	スピーチを聞き、事実と意見との関係に注意して、話し手の考えの中心を聞き取ることができるかどうかをみる問題。	1	主題の聞き取り	1 意図を考え聞き、工夫して話すこと	93	94		6	0	
			2	内容の聞き取り		76	74		26	0	
			3	ア スピーチの批評		82	81		18	1	
			ウ	スピーチの批評		76	74		24	1	
			4	ウ 適切な質問意見		87	87		13	1	
			オ	適切な質問意見		76	76		23	1	
			カ	適切な質問意見		67	65		34	2	
	2	スピーチをしたり聞いたりするときの適切な態度を身につけているかどうかをみる問題。	ア	話をする態度		90	91		9	0	
			イ	話を聞く態度		73	69		30	1	
			オ	話をする態度		80	76		24	0	
	16	それぞれの発言を注意して聞き、話し合いの目的や展開を的確にとらえることができるかどうかをみる問題。	1	1	話し合い・司会者	2 目的に沿って適切に話し合うこと	88	88		9	3
				2	ウ・テーマに合う発言		67	67		28	5
			2	エ・テーマに合う発言	71		70		23	6	
			3	話し合い・展開の理解	57		55		40	5	
			2	話し合い・正確に話す	55		53		41	6	
	3 書く能力	5	自分が書こうとする題材について材料を吟味・検討し、整理して書くことができるかどうかをみる問題。	1	エ	題材を選んで書く	3 身近に課題を見つけて書くこと	64	61		36
オ					題材を選んで書く	77		76		22	2
2				材料を吟味して書く	88	88			12	0	
				材料を吟味して書く	88	89			11	0	
5				構成を考えて書く	67	64			36	0	
				考えを明確にして書く	91	91			8	1	
		13	構成や展開を工夫して書き、推敲・批評などを的確に行うことができるかどうかをみる問題。	1	イ	文章を評価・批評する	4 伝えたい事を明確にして書くこと	62	60		39
オ					文章を評価・批評する	63		63		35	2
2				ア	構成等を工夫して書く	60		56		42	2
				ウ	構成等を工夫して書く	69		69		30	2
19		表記や語句の用法などの誤りに気づき、正しく推敲することができるかどうかをみる問題。	1	1	推敲・漢字の誤り	5 文章を推敲すること	59	57		33	10
				2	推敲・仮名遣い		45	45		43	11
				3	推敲・送り仮名		54	57		32	11
	4			推敲・文末表現	47		44		44	12	

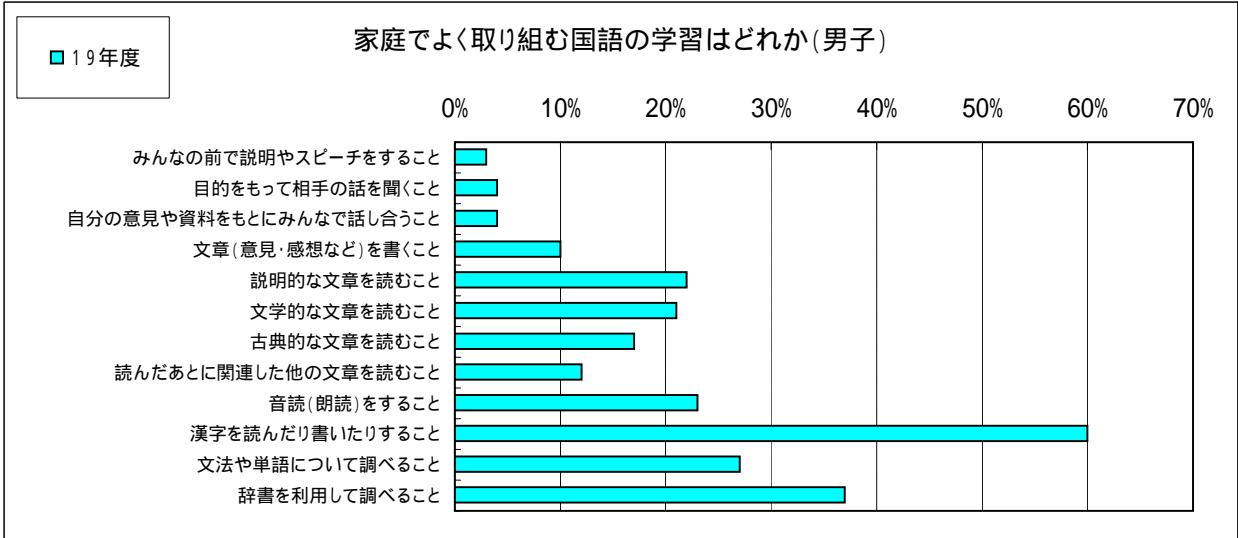
評価の観点	大問	大問の内容	小問	小問の内容	小領域	19年度 全国の 通過率	19年度 函館市の 通過率	各校の 通過率	誤答 率	無答 率
4 読 む 能 力	8	文章の展開に即して読み、 文脈における語句の意味や 主題を読み取ることができるか どうかをみる問題。	1	語の意味・いぶかしむ	6 文章の展開 に即して読み 取ること	53	57		43	0
			2	文章の内容理解		48	46		54	0
			3	叙述に即した読み取り		87	86		13	0
			4	文脈に合う語・恩義		81	84		16	0
			5	文脈に合う語・ボン		96	97		3	0
			6	叙述に即した読み取り		67	66		34	0
			7	語の意味・不可解な		57	61		39	0
	12	古文（竹取物語）を読み、 文章の叙述の仕方に表れる 様々な特徴に注意して内容 を読み取ることができるか どうかをみる問題。	1	古文の内容理解	7 文章の特徴 に注意して読 むこと	89	91		9	0
			2	古文の内容理解		77	77		22	0
			3	古文の内容理解		63	64		35	0
	15	文章の展開に即して事実や 意見などを読み分け、要旨 をとらえることができるか どうかをみる問題。	1	指示語の内容理解	8 論理の展開 や構成を読み 取ること	68	65		34	1
			2 イ	文章の内容理解		61	59		39	2
			ウ	文章の内容理解		59	54		43	3
			3	文章の要旨の読み取り		69	66		32	2
			4	適語補充・しかし		74	71		27	2
5	心情の読み取り	70	70		27	3				
5 言 語 に つ い て の 知 識 ・ 理 解 ・ 技 能	4	修飾と被修飾の関係を理解 しているかどうかをみる問 題。	イ	修飾・被修飾の理解	9 文の組み立 てを理解する こと	74	75		25	1
			ウ	修飾・被修飾の理解		53	51		47	1
	7	漢字を正しく読むことがで きるかどうかをみる問題。	1	漢字の読み・交互	10 漢字や語句 などの知識を 持つこと	86	87		9	4
			2	漢字の読み・離陸		86	88		10	2
			3	漢字の読み・薄く		95	96		2	1
			4	漢字の読み・趣		22	21		51	28
	10	漢字を正しく書くことがで きるかどうかをみる問題。 (提供・優勝・認める・破 れた)	1	漢字の書き・提供	10 漢字や語句 などの知識を 持つこと	37	32		33	35
			2	漢字の書き・優勝		77	68		26	6
			3	漢字の書き・認める		73	68		9	23
			4	漢字の書き・破れた		73	60		13	27
	14	文の基本的な構造を理解し、 文節に分けることができ るかどうかをみる問題。	1	文節の理解	9 文の組み立 てを理解する こと	43	39		61	0
			2	文節の理解		77	75		24	1
	15	主語・述語の関係を理解し ているかどうかをみる問 題。	6	反対語の理解・低下	10 漢字や語句 などの知識を 持つこと	50	53		44	2
7			主述の関係の理解	9 文の組み立 てを理解する こと	71	73		24	3	

各校の通過率の欄には、それぞれの学校で自校の通過率を記入し、函館市の通過率と比較しながら、今後の指導に役立ててください。

調査結果から、「話すこと・聞くこと」領域では『話し合い・正確に話す』『話し合い・展開の理解』、「書くこと」領域では『推敲』『構成等を工夫して書く』、「読むこと」領域では『文章の内容理解』『語の意味』、「言語事項」では『漢字の読み』『漢字の書き』『文節の理解』『修飾・被修飾の理解』『反対語の理解』が課題としてあげられます。
従って、今後の学力向上を目指し、6ページ以降に述べられている3つのポイントについて説明します。

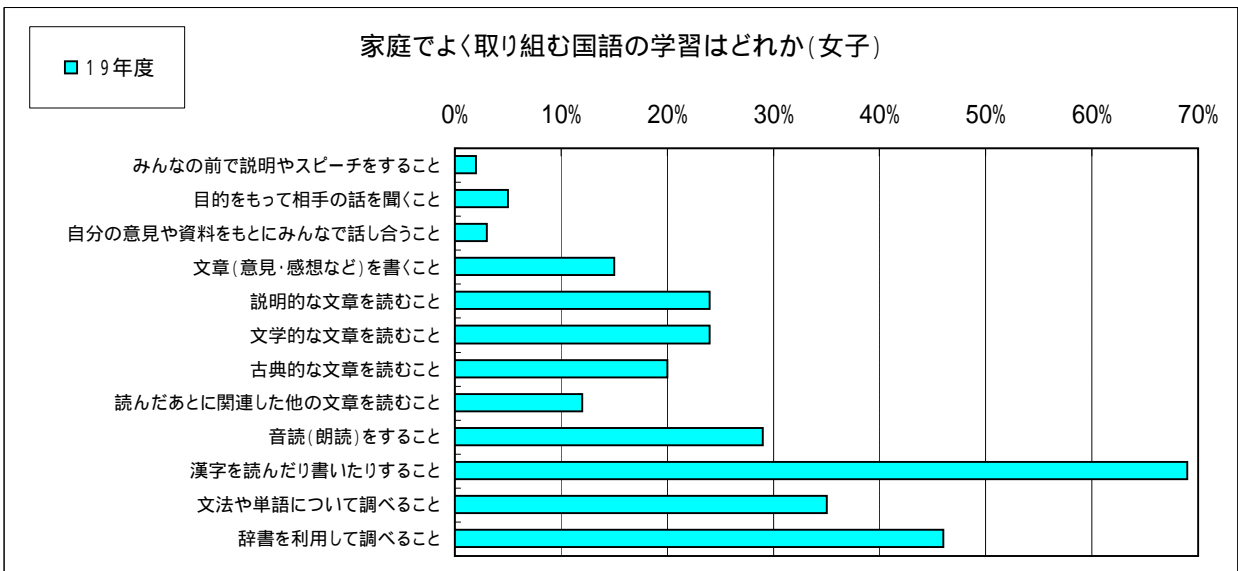
設問 ・ ・ 家庭でよく取り組む国語の学習はどれか（男子）

	みんなの前で説明やスピーチをすること	目的をもって相手の話を聞くこと	自分の意見や資料をもとにみんなで話し合うこと	文章（意見・感想など）を書くこと	説明的な文章を読むこと	文学的な文章を読むこと	古典的な文章を読むこと	読んだあとに関連した他の文章を読むこと	音読（朗読）をすること	漢字を読んだり書いたりすること	文法や単語について調べること	辞書を利用して調べること
19年度	3%	4%	4%	10%	22%	21%	17%	12%	23%	60%	27%	37%



設問 ・ ・ 家庭でよく取り組む国語の学習はどれか（女子）

	みんなの前で説明やスピーチをすること	目的をもって相手の話を聞くこと	自分の意見や資料をもとにみんなで話し合うこと	文章（意見・感想など）を書くこと	説明的な文章を読むこと	文学的な文章を読むこと	古典的な文章を読むこと	読んだあとに関連した他の文章を読むこと	音読（朗読）をすること	漢字を読んだり書いたりすること	文法や単語について調べること	辞書を利用して調べること
19年度	2%	5%	3%	15%	24%	24%	20%	12%	29%	69%	35%	46%



(3) 学力向上のためのポイント

中学校国語科のポイント

領域別に見ると、「書くこと」と「言語事項」に課題があることがわかりました。また、問題の傾向で見ると、主に次の3つの能力に課題があると分析されます。1つめは、「書くこと」や「話すこと・聞くこと」において文章を正しく推敲したり、相手に伝えることを正確に話したりする能力。2つめは、「読むこと」において、文脈における言葉の指す内容を理解したり、文章の要旨を捉えたりする能力。3つめは、「言語事項」において、日常で使う機会が少ない漢字や語彙、文法の理解力などです。

以上の点は、全国の生徒の傾向とほぼ一致するものですが、本市の生徒は、特に、漢字を書くことや、論理的に文章を捉えることを苦手とする傾向が見られます。これらのことを踏まえ、以下のような授業改善のポイントを提案します。

ポイント1

活用する学習活動を取り入れた
授業の工夫

身に付けた知識や技能を活用する場面を設ける

新学習指導要領では、国語科で身に付けた言語能力を、他教科や道徳及び特別活動、総合的な学習の時間でも、活用することの大切さが述べられています。国語科の授業においては、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図り、思考力や判断力、表現力等を育成するため、言語活動のより一層の充実が必要です。

こうしたことから、ここでは特に、古典における指導例を紹介します。

➡ 44ページ

ポイント2

『交流』を取り入れた
授業の工夫

論理的な思考力・判断力を身に付けさせる

論理的な思考力・判断力は、国語科だけでなく、他教科や日常生活においても大切な能力であり、意図的に交流を取り入れた学習活動を行うことが大切です。友人と協力したり、学び合うことで、学習に対する意欲やコミュニケーションの能力も高まります。

ここでは、「文学的文章」、「説明的文章」、「詩歌」の指導例を紹介します。

➡ 45ページ

ポイント3

繰り返し学習を計画的・
継続的に行う授業の工夫

「言葉の特徴やきまり」、「漢字」を確実に定着させるための工夫

「言葉の特徴やきまり」、「漢字」に関しては、これまでも小学校、中学校ともに、通過率が低く、課題のある分野でした。

ここでは、年間を通じた継続的な指導計画や見通しをもった指導の工夫について紹介します。

➡ 47ページ

確かな国語の力をはぐくむために

【ポイント1】 「活用する学習活動を取り入れた授業の工夫」

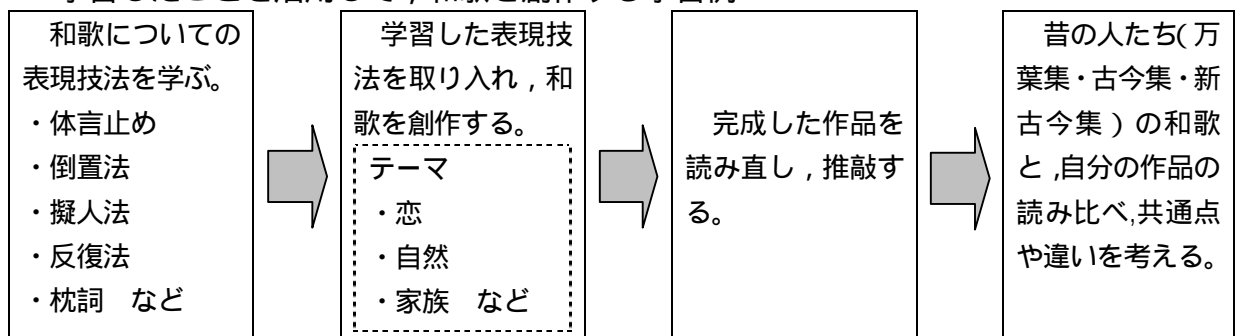
国語科で身に付けた能力を社会に出てから生かすことができるよう、授業で習得したことを活用させる指導の工夫が必要です。そのためには、学習課題を明確にし、指導計画に適切に位置づけることが大切です。

例えば、情報を整理してスピーチやプレゼンテーションをする、詩・短歌・俳句などを創作し推敲する（ ）、条件に合わせて文章を書く（ ）、新聞記事や論説文などから情報を読みとるなどの学習活動が考えられます。

古典における工夫例

『詩歌の味わい』（万葉・古今・新古今／漢詩） 伝え合う言葉3 中学国語 教育出版

学習したことを活用して、和歌を創作する学習例



学習を通して得た情報を整理して、必要に応じたまとめ方をする学習例

学習した内容（情報）を取り入れながら鑑賞文を書くことで、情報を整理してまとめる力が身に付くと考えられます。

自分で調べたことも付け加えてみよう。

三年組

鑑賞文を書こう

春過ぎて 夏来るらし 白たへの衣干したり 天の香具山

この和歌は「万葉集」に収められた持統天皇の作である。「万葉集」は奈良時代に成立し、現存する日本最古の歌集として知られている。

・持統天皇は天智天皇の第二皇女で女帝である。藤原宮遷都を行った。

・表現上の特徴としては、「衣」にかかる枕詞「白たへの」が用いられている。また結句は体言止めが用いられている。第二句の「らし」は根拠のある推定を表す助動詞「……し」の意味。

・「香具山」は畝傍山、耳成山と並ぶ大和三山の一つとして有名。

・初夏のすがすがしい季節感と色彩の対比が鮮やかな…

作品の特徴について

表現の特徴について

作者について

歌集について

選んだ和歌

【ワークシート例】

【ポイント2】 「『交流』を取り入れた授業の工夫」

国語科では、論理的な思考力や判断力を養い、言語能力をはぐくむため、言語活動の充実が重要です。『交流』は、自分の考えをわかりやすく伝えることが必要であり、相手の話を聞いて、自分とは違う考えや反対側の視点などから考えることで、自分の考えを深めたり修正したりすることが求められます。そうした経験を繰り返すことによって、論理的な思考力や判断力が養われ、多面的な見方や考え方ができるようになります。

『交流』を取り入れた学習活動例

文学的文章を読んで、お互いの意見や見方の違いを交流し、自他の考えを豊かにしていく学習活動

説明的文章を読んで、段落の内容を簡潔にまとめる話し合いをグループで行い、内容や要旨を的確にとらえる学習活動

詩歌（短歌・俳句）をもとに物語をグループで話し合っって創作し、発表し合うことによって、作品の読みを深め、想像する楽しさを味わう学習活動

パネルディスカッションやディベート等、目的や場面に応じて話したり聞いたりすることによって、自他の考えを深め、論理的な思考力や判断力を高める学習活動

【文学的文章における『交流』を取り入れた学習活動例】

『夏の葬列』 山川方夫 中学国語 伝え合う言葉2 教育出版

課題 主人公の「彼」を許すことができるかどうか意見交流しよう。

類似した考えをもつグループで、自分たちの考えを交流する。

- * 「彼」の考え・行動は許せない。ひどい。
- * 「彼」の考え・行動は許せる。仕方がない。

グループでの話し合いによって出された考えとその根拠について全体で発表し合う。

（他のグループは、根拠の部分に線を引ながらメモをとる。）

グループの主張について意見を交流する。

（グループの主張に対しての質問、意見はグループ内で協力して答える。）

話し合いを振り返り、自分なりの考えをまとめ、考えを発表し合う。

根拠に基づき、自分の考えを相手にわかりやすく伝えようとすることで論理的な思考が養われます。また、自分とは違う考えを聞くことによって、作品をより深く味わうことができます。

なかなか話し合いに参加できない生徒や文章の内容を正しくとらえていない生徒には、個別支援が必要です。教師の腕の見せどころですね。『交流』は、コミュニケーション能力の育成にもつながる重要な学習活動です。



【説明的文章における『交流』を取り入れた学習活動例】

課題 グループで話し合い、段落の内容を簡潔にまとめよう。

形式段落に番号をつけ、キーワードを確認する。
 接続詞や文のつながりなどに注目して意味段落に分け、全体で確認する。
 意味段落の内容を簡潔にノートにまとめる。
 グループごとに話し合い（交流）を行い、それぞれの要点について修正する。
 各グループの話し合いの結果を全体で発表し合い、中心部分を正しく把握する。

グループで交流することによって、自分と他者のまとめ方の違いを比較し、よりよい要約の仕方に気付き、よりよい考え方に修正することができます。

【詩歌（短歌・俳句）における『交流』を取り入れた学習活動例】

『詩歌の味わい』（万葉・古今・新古今／漢詩） 中学国語 伝え合う言葉3 教育出版

課題 学習した和歌の作品の中から一首選んで、グループで話し合いながら、物語を創作し、発表し合おう。

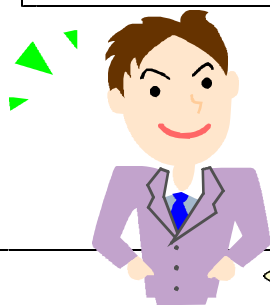
若者は走つて行き、法師は腰をあげた。
 寺の鐘が鳴り始め、法師はふと気付いた。
 すおや、もう夕方か。少しだけ休もうと思ったのに……」
 道はほとりにきれいな清水が流れる柳の木陰よ。ほ
 しまらうと思つて立ち止まったのであつたが、ま
 りにも心地よいのでつい長居をしてしまつたこと
 大意

心情行動
 ・西行法師
 ・旅の途中・暑苦しい
 ・木陰での会話
 情景など
 ・真夏の午後
 ・新緑の香り
 ・生ぬるい風
 ・遊ぶ子供達

登場人物の心情・行動・情景など

選んだ作品

道の辺に清水流るる柳陰
 しばしとてこそ立ち止まりつれ
 西行法師

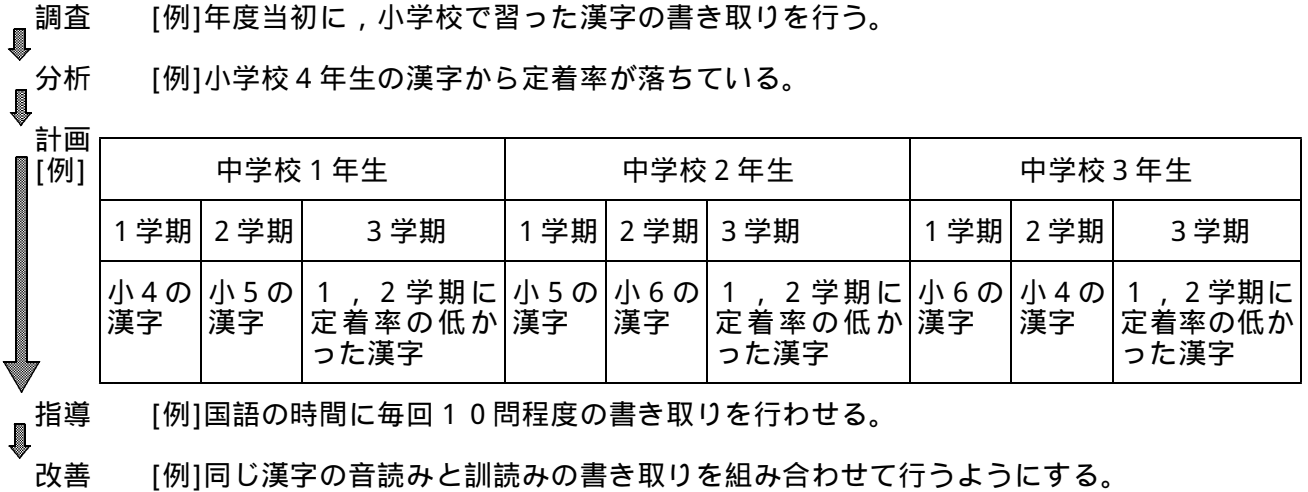


表現技法や大意などの基本的事項を踏まえた上で、グループで話し合いながら物語を創作します。「友情」や「家族愛」など、作品のテーマを条件づけると、作品の読みが深まり、話し合いながらストーリーを想像することで、生徒の興味関心も高まります。

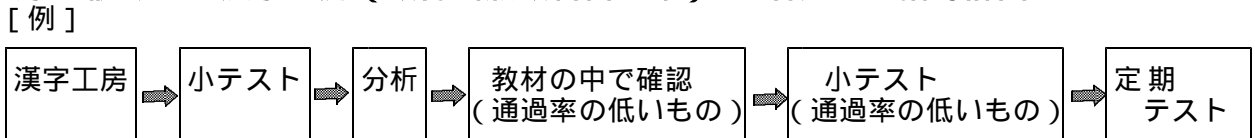
【ポイント3】 「繰り返し学習を計画的・継続的に行う授業の工夫」

「言葉の特徴やきまり」や「漢字」を身に付けるためには、「計画的・継続的な繰り返しの学習」が重要です。従って、生徒の習熟の程度を把握し、どこでつまづいているかを分析することが大切です。また、授業の中で繰り返し取り上げて指導したり、適切に家庭学習に取り組みさせることで、他教科や日常の生活につながる力が身に付きます。さらに、読解力をはぐくむための日常的な読書活動を推進することも大切です。

漢字の書き取り～「調査 分析 計画 指導 改善」の流れによる指導



漢字の読み～「漢字工房（教育出版教科書巻末）」を利用した指導計画

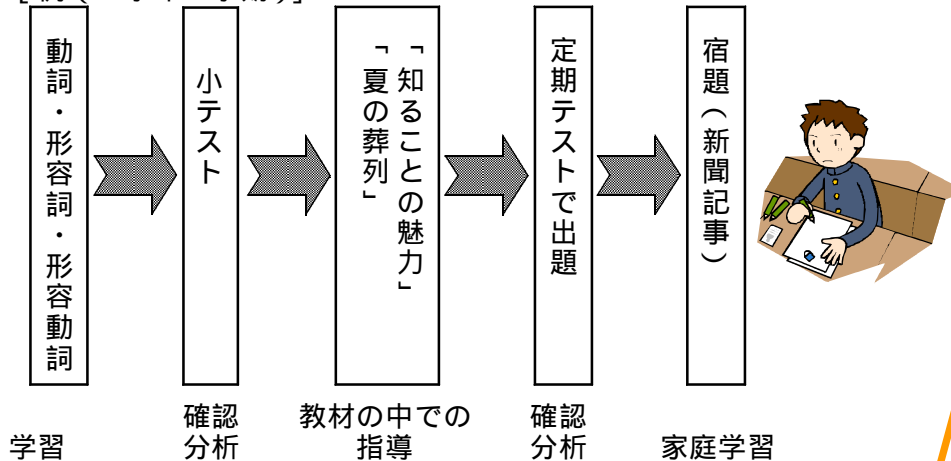


*テスト結果を分析し、通過率の低いものに絞って繰り返すことで、定着を図る。



言葉の特徴やきまり～各教材中で行う繰り返しの指導

[例(2学年1学期)]



【宿題】
次の動詞の活用の種類を答えなさい。
両チームとも一歩も譲らずに引き分けた。巨人は1―3の六回、3連打で1点を返すと、

「北海道新聞より」

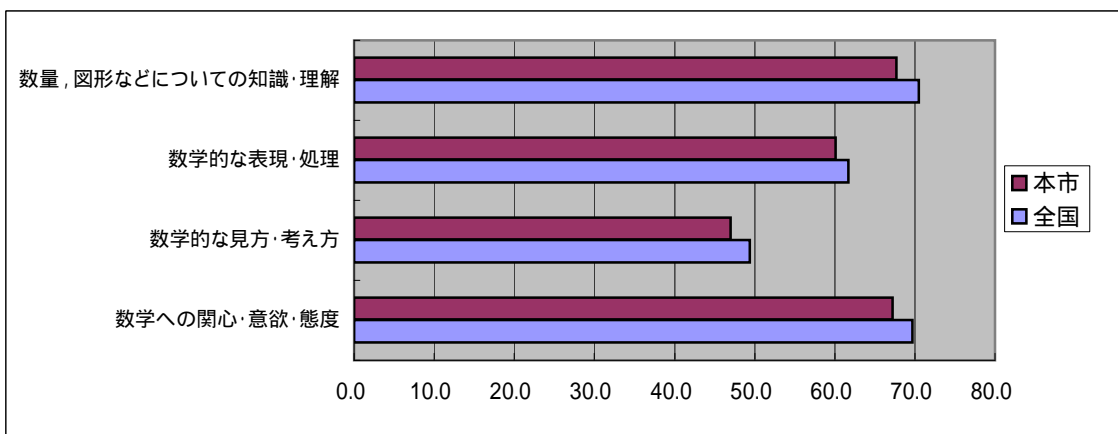
*「言葉の特徴やきまり」の確認を、国語の教材だけでなく、他教科の教材や、学校だより、新聞や雑誌等を活用することも考えられます。

6 中学校数学科

(1) 調査結果の概要

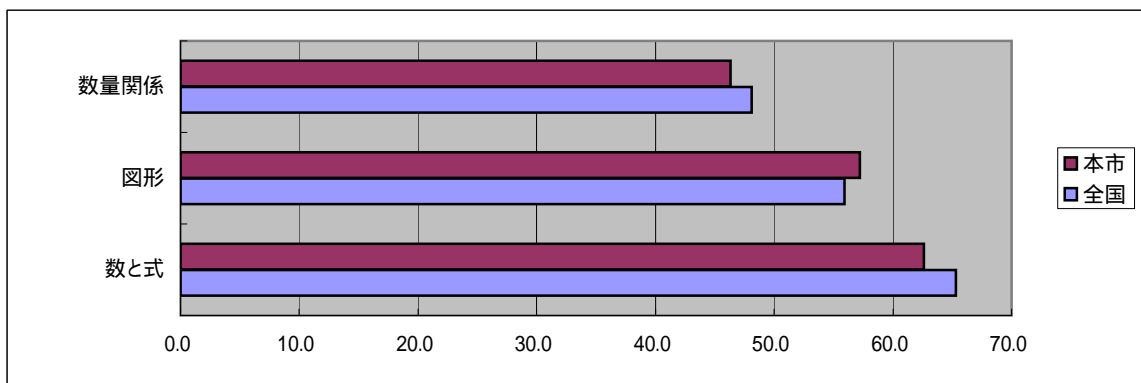
観点別得点率

観 点	得 点 率	
	全 国	函 館 市
	19年度	19年度
数学への関心・意欲・態度	69.7	67.2
数学的な見方・考え方	49.4	47.0
数学的な表現・処理	61.7	60.1
数量，図形などについての知識・理解	70.5	67.7



領域別得点率

観 点	得 点 率	
	全 国	函 館 市
	19年度	19年度
数と式	65.3	62.6
図形	55.9	57.2
数量関係	48.1	46.3



(2) 調査結果の分析

領域別問題通過率(平成19年度)

領 域		得点率 %		通過率 %		通過率が低かった問題		通過率 %	
		全 国	函館市	全 国	函館市	は著しく低かった問題	全 国	函館市	
数 と 式	1 正の数・負の数	73	70.5	【知識・理解】 -5より3大きい数 数直線上の数 絶対値の意味 【表現・処理】 正負の数の加法・減法 正負の数の乗法	87 95 84 91 90	85 95 84 90 88	【知識・理解】 正負の数の大小関係 【数学的な考え方】 正負の数の利用 (平均の求め方)	56 49 49 47	49 47
	2 文字と式	64	61.5	【知識・理解】 文字式のきまり 【表現・処理】 1次式と数の乗法 1次式の加法	88 84 82	85 82 81	【知識・理解】 係数の意味 ($3-x$ の係数は?) 【表現・処理】 数量の文字式での表現 (500円のa%) 【数学的な考え方】 文字式を読むこと ($10a+3$ が表す数)	48 45 41 38 52 48	45 38 48
	3 1次方程式	55	51.0				【表現・処理】 方程式を解くこと (分数係数) 方程式をつくること (買い物に関する立式) 方程式をつくること (速さ・時間・距離) 【数学的な考え方】 方程式の解の解釈	45 41 49 43 35 35 28 27	41 43 35 35
図 形	4 平面図形	56	57.2	【表現・処理】 線対称・点対称な図形	76	82	【知識・理解】 点と直線との距離 【数学的な考え方】 点対称な図形の作成	39 46	36 45
数 量 関 係	5 比例と反比例	48	46.3	【知識・理解】 点の座標	88	86	【表現・処理】 比例のグラフ (グラフをつくり, 通る点を求める) 反比例のグラフ (グラフをつくり, 通る点を求める) 【数学的な考え方】 グラフから式を求める (比例) yがxに比例 yがxに反比例 比例・ばねののび 比例・おもりの重さ	26 36 45 37 39 46 26	23 37 42 37 39 42 24

検査結果における個々の問題の概要およびその通過率

評価の観点	大問	大問の内容	小問	小問の内容	小領域	19年度	19年度	各校の	誤	無
						全国の通	函館市の			
1 関心・ 意欲・ 態度	9	正の数・負の数の計算について関心・意欲・態度をみる。		正負の数への取り組み	関心・意欲・態度については、通過率は出されていないので、3ページの『観点別得点率』を参照する。					
	16	文字式の計算について、関心・意欲・態度をみる。		文字式の計算への関心						
	22	1次方程式について、関心・意欲・態度をみる。		1次方程式への取り組み						
	30	比例・反比例について、関心・意欲・態度をみる。		比例・反比例への関心						
	37	対象な図形について、関心・意欲・態度をみる。		対称な図形への取り組み						
	41	作図について、関心・意欲・態度をみる。		作図への取り組み						
2 数学的な 考え方	5	正負の数の乗法・除法の計算における符号の決定について考えることができるかをみる問題。		計算の答えの符号	1 正の数・負の数	62	61		39	1
	7	正負の数の加法・減法の計算における符号の決定について考えることができるかをみる問題。		和が常に負になる条件	1 正の数・負の数	54	55		44	1
	8	正負の数を利用した適用問題。	1	正負の数の利用（大小比較）	1 正の数・負の数	72	72		25	2
			2	正負の数の利用（平均を求める）		49	47		45	8
	12	代入を利用した文字式の適用問題。		文字式・水面の高さ	2 文字と式	58	57		41	3
	15	与えられた文字式が何を表わしているかよみとる問題。		文字式をよむこと	2 文字と式	52	48		49	3
	18	式変形にあてはまる等式の性質を考えることができるかをみる問題。		等式の性質	3 1次方程式	57	50		48	2
	21	方程式を立式して解き、求めた解が表す意味を考える問題。		方程式の解の解釈	3 1次方程式	28	27		70	3
	36	点対称な図形に関する問題。	オ ク	点対称な図形の作成	4 平面図形	46	45		47	8
						64	62		30	7
	40	垂直二等分線の作図をし、その結果を解釈する問題。		中点の性質の利用	4 平面図形	47	46		36	18
	27	グラフに合致する式を、比例定数に着目して判断することができるかをみる問題。	1	グラフから式を求める（比例）	5 比例と反比例	45	42		55	3
			2	グラフから式を求める（反比例）		57	53		43	4
28	身の周りの事象のうち、比例するものと反比例するものを考えることができるかをみる問題。	1	yがxに比例	5 比例と反比例	37	37		59	4	
		2	yがxに反比例		39	39		57	4	
29	表をもとに式化し、代入を利用して条件にあう値を求められるかをみる問題。	1	比例・ばねののび	5 比例と反比例	46	42		51	6	
		2	比例・おもりの重さ		26	24		51	25	
3 表現・ 処理	6	正負の数に関する計算問題。	1	正負の数・加法減法	1 正の数・負の数	91	90		10	0
			2	正負の数・加法減法		81	78		22	0
			3	正負の数・乗法		90	88		11	0
			4	正負の数・除法		78	76		23	2
			5	正負の数・加法乗法		56	56		42	1
			6	正負の数・減法除法		60	57		40	3
	13	文字式に関する計算問題。	1	一次式と数の乗法	2 文字と式	84	82		17	1
			2	一次式と数の乗法		52	52		46	2
			3	一次式の加法		82	81		18	1
			4	一次式の減法		64	63		35	2

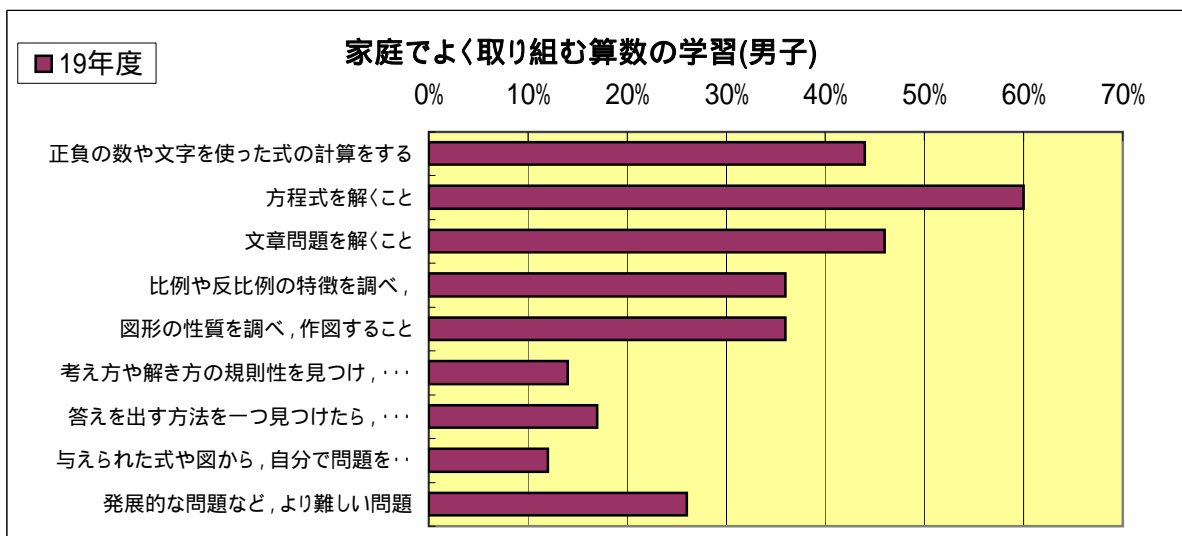
評価の観点	大問	大問の内容	小問	小問の内容	小領域	19年度	18年度	各校の 通過率	誤答率	無答率
						全国の通 過率	函館市の 通過率			
3 表現・ 処理	14	百分率を使ってa%を表わす問題。		数量の文字式での表現	2 文字と式	41	38	61	1	
	19	方程式の計算問題。	1	方程式を解くこと	3 1次方程式	79	77	22	1	
			2	方程式を解くこと(分配法則)		73	71	27	2	
			3	方程式を解くこと(分数)		45	41	55	3	
	20	方程式の文章問題。	1	方程式をつくること(代金)	3 1次方程式	49	43	55	2	
			2	方程式をつくること(速・時・距)		35	35	61	4	
	35	条件に合う図形を選択する問題。	1	線対称・点対称な図形	4 平面図形	76	82	15	3	
			2	点対称な図形		47	52	44	4	
	39	垂直二等分線を作図し、条件に合う点を求める問題。		垂直二等分線作図	4 平面図形	52	54	37	9	
	24	表をもとに、比例に式を求める問題。		表から比例の式に表す	5 比例と反比例	55	58	40	2	
25	条件文をもとに式を求める問題。	1	比例の式	5 比例と反比例	66	65	33	2		
		2	反比例の式		51	55	43	3		
26	式からグラフを作成し、そのグラフが通る点を求める問題。	1	比例のグラフ	5 比例と反比例	26	23	73	4		
		2	反比例のグラフ		36	37	58	4		
4 知識・ 理解	1	負の数の意味を理解しているかをみる問題。		-5より3大きい数	1 正の数・負の数	87	85	15	0	
	2	負の数を数直線上に表わせるかをみる問題。		数直線上の数	1 正の数・負の数	95	95	5	0	
	3	正負の数の大小関係の理解をみる問題。		正・負の数の大小関係	1 正の数・負の数	56	49	51	0	
	4	絶対値の意味を理解しているかをみる問題。		絶対値の意味	1 正の数・負の数	84	84	16	0	
	10	文字式のきまりを理解しているかをみる問題。	1	文字式のきまり	2 文字と式	88	85	14	1	
			2	文字式のきまり		66	65	34	1	
	11	係数の意味を理解しているかをみる問題。		係数の意味	2 文字と式	48	45	54	1	
	17	方程式の解の意味を理解しているかをみる問題。		方程式の解の意味	3 1次方程式	70	67	32	2	
	31	角の表し方を理解しているかをみる問題。		角の表し方	4 平面図形	59	63	35	2	
	32	点と直線との距離の定義を理解しているかをみる問題。		点と直線との距離	4 平面図形	39	36	60	4	
	33	垂直の記号を理解しているかをみる問題。		垂直な二直線の表し方	4 平面図形	73	73	24	3	
	34	対称の軸について理解しているかをみる問題。		ひし形の対称軸の数	4 平面図形	46	50	46	3	
	38	中点の定義について理解しているかをみる問題。		中点の意味	4 平面図形	66	71	24	5	
23	点の座標を正確に読み取れるかをみる問題。		点の座標	5 比例と反比例	88	86	13	1		

各校の通過率の欄には、それぞれの学校で自校の通過率を記入し、函館市の通過率と比較しながら、今後の指導に役立ててください。

通過率に着目したところ、「数学的な考え方」の結果が他の評価項目に比べても全国平均を下回る傾向にあり、今後の課題として挙げられます。生徒が「数学的な考え方」についての理解を深めるために、数学的活動を積極的に取り入れ、わかる喜びや学ぶ楽しさのある授業をつくり、豊かな学び合いと表現力の育成に視点を置くことが大切です。
以上の結果と課題を受け、今後の数学科の学力向上を目指すための2つのポイントを54ページ以降に示すこととします。

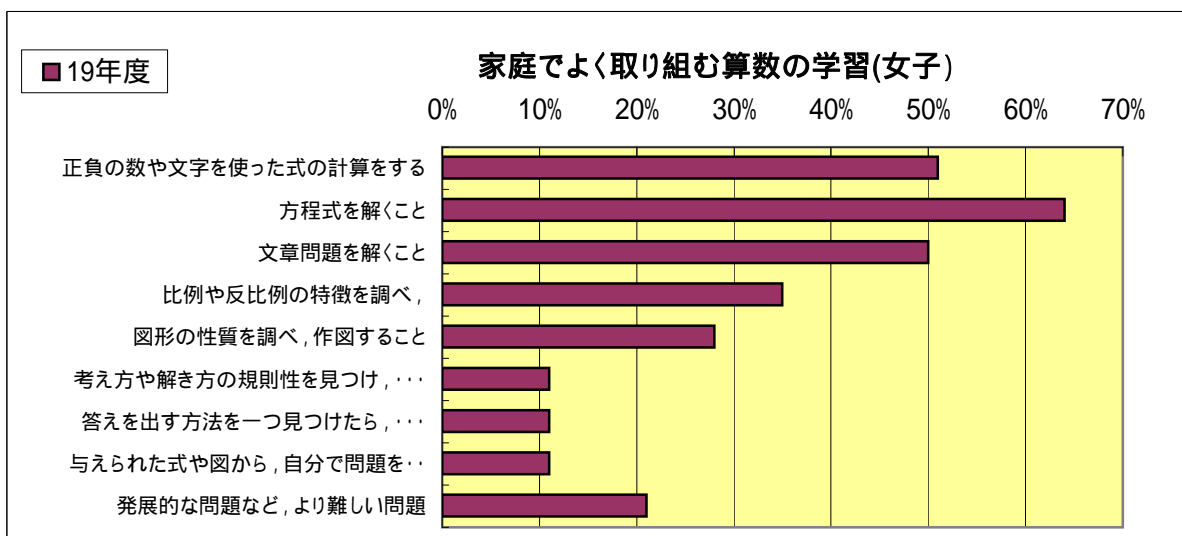
設問 ・ ・ 家庭でよく取り組む数学の学習（男子）

	正負の数や文字を使った式の計算をする	方程式を解くこと	文章問題を解くこと	比例や反比例の特徴を調べ、	図形の性質を調べ、作図すること	考え方や解き方の規則性を見つけ、・・・	答えを出す方法の一つ見つけたら、・・・	与えられた式や図から、自分で問題を・・・	発展的な問題など、より難しい問題
19年度	44%	60%	46%	36%	36%	14%	17%	12%	26%



設問 ・ ・ 家庭でよく取り組む数学の学習（女子）

	正負の数や文字を使った式の計算をする	方程式を解くこと	文章問題を解くこと	比例や反比例の特徴を調べ、	図形の性質を調べ、作図すること	考え方や解き方の規則性を見つけ、・・・	答えを出す方法の一つ見つけたら、・・・	与えられた式や図から、自分で問題を・・・	発展的な問題など、より難しい問題
19年度	51%	64%	50%	35%	28%	11%	11%	11%	21%



(3) 学力向上のためのポイント

中学校数学科のポイント

通過率に着目したところ、「数学的な考え方」の結果が他の評価項目に比べて全国平均を下回る傾向にあり、大きな課題の一つとして挙げられます。

通過率が50%を下回った小問の割合は「数学的な考え方」においては59%、「表現・処理」は25%、「知識・理解」は21%であり、以前から指摘されているように「数学的な考え方」の定着率が低いことが改めて確認されました。

本調査が第1学年で行われていることを考えると、確実に「数学的な考え方」の育成を図る必要があります。

従って、「数学的な考え方」の定着を目指し、効果的な授業の指導過程や発問、掲示物、板書などを工夫することが大切です。

ポイント1
見通しをもって問題解決をさせるために、言葉と数値の関係を捉えさせる指導の工夫

問題場面を表す言葉や数値の関係を捉える既習事項を想起させる

題意を的確に理解できないため、解決の見通しがもてない生徒が多く見られました。文章から立式するまでの思考の流れが整理されていないことが原因のひとつと考えられます。問題場面を表す言葉と数値の関係を捉え、解決の見通しをもたせる指導の工夫が必要です。

また、検算により、図や表に表した言葉や数値が合致するか確かめることも大切です。さらに学習課題に対して、既習事項を想起させるような手立てを工夫することにより、見通しを持って問題解決をする力がつくと考えられます。

ここでは、方程式の文章題において、「単位」に着目した工夫例を紹介します。

➡ 55 ページ

ポイント2
「数学的な考え方」をはぐくむ数学的活動の工夫

生徒が意欲的、主体的に学習に参加できるように、数学的活動を重視する

数学の学習では、数量や図形についての知識・技能を身に付けたり、概念や原理・法則を明らかにしたりするためには、数学的な考え方が重要な働きをします。

「数学的な考え方」を育てるには、授業において、生徒が意欲的、主体的に学習に参加できるように、数学的活動を重視することが大切です。

ここでは、座標を題材にした問題解決学習を紹介します。

➡ 56 ページ

確かな数学の力をはぐくむために

ポイント1

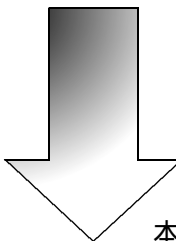
「見通しをもって問題解決をさせるために、言葉と数値の関係を捉えさせる指導の工夫」

【単元名：方程式】
方程式を利用して問題を解く手順を指導します。

- (1) 何を x で表すかを定める。
- (2) 等しい数量関係に着目して、方程式をつくる。
- (3) 方程式を解く。
- (4) 方程式の解が題意に合うかどうかを吟味する。

「買い物の問題」「速さ・時間・距離の問題」「入場料の問題」などは代表的な文章題です。それぞれの問題の中の単位に着目させることで立式までの思考を整理します。

これらの過程で最も難しいのは(2)の立式部分です。等しい関係にある数量関係を見つけ、それを等式に表す足がかりとして、文章中の単位に着目させます。



【課題設定の工夫について】
文章題に取り組む場合に大切なことは、等しい関係にある数量関係を見出すことです。問題場面を表す言葉と数値の関係を捉える方法として、まず文章中に出る数値や未知数につく「単位」に着目させることから、単位のはっきりとした事象を取り上げました。

本時の展開

学習内容・学習活動	評価規準												
<p>弟は家から1500m離れた駅に向かって家を出た。兄は弟が家を出てか6分後に家を出て、自転車で弟を追いかけた。弟は毎分80m、兄は毎分200mの速さで進むものとする、兄は家を出てから何分後に兄に追いつくか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>単位に着目し、等しい関係を見つけよう</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>1500m 6分後 何分後 毎分80m 毎分200m</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>距離を表す単位 時間を表す単位 速さを表す単位</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;"> <p>時間・距離・速さの 関係（既習事項）</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;"> <p>求める数値と文字 で表す値の確認</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>どの単位について考えるのがいいのだろうか？</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div>	<p>「知識・理解」 数値や未知数の単位と意味がわかる（発表・観察）</p> <p>「表現・処理」 着目した単位について図や表で表すことができる（観察・発表・自己評価）</p>												
<p>着目した単位について図や表で表現する 線分の長さを距離にした図を作る 単位・項目を分けた表を作る</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>図</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>速 さ</th> <th>時 間</th> <th>距 離</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>兄</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>弟</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">等しい数量関係を見出し、立式する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>式の中の項の単位はそろっているか確認する</p> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">方程式を解く</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>方程式の解が題意に合うかどうかを吟味する</p> </div>		速 さ	時 間	距 離	兄				弟				<p>「数学的な考え方」 等しい数量関係を見出し、立式できる（観察・発表）</p>
	速 さ	時 間	距 離										
兄													
弟													

『「数学的な考え方」をはぐくむ数学的活動の工夫』

【単元名：比例と反比例】

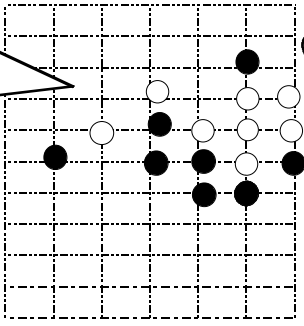
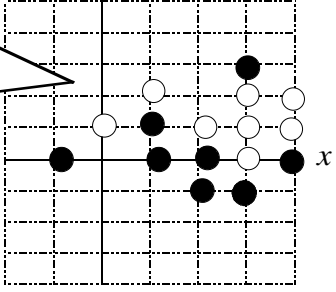
事象を関数として捉えるよさを感じさせるには、表やグラフなどで表現することが大切です。こうした能力が、新たな課題を関数を利用して解決しようという意欲につながります。また、表やグラフで表すときは、これらを別々に扱うのではなく、関連づけて学習し、それぞれの表現のよさを感じ得るような指導が大切です。

座標から点を読み取る、または点から座標を読み取るという内容を、ゲームや暗号文を解読する、または、暗号文を作成するという作業によって深めていきます。

【課題設定の工夫について】

生徒の問題解決に対する意欲を高めるためには、教材の吟味や開発はもとより、生徒が主体的に考え、判断し、数学的に表現、処理する活動を促す学習内容や方法を工夫することが大切である。座標の授業では、生徒が意欲的、主体的に学習に参加できるように、数学的活動を重視しました。

本時の展開

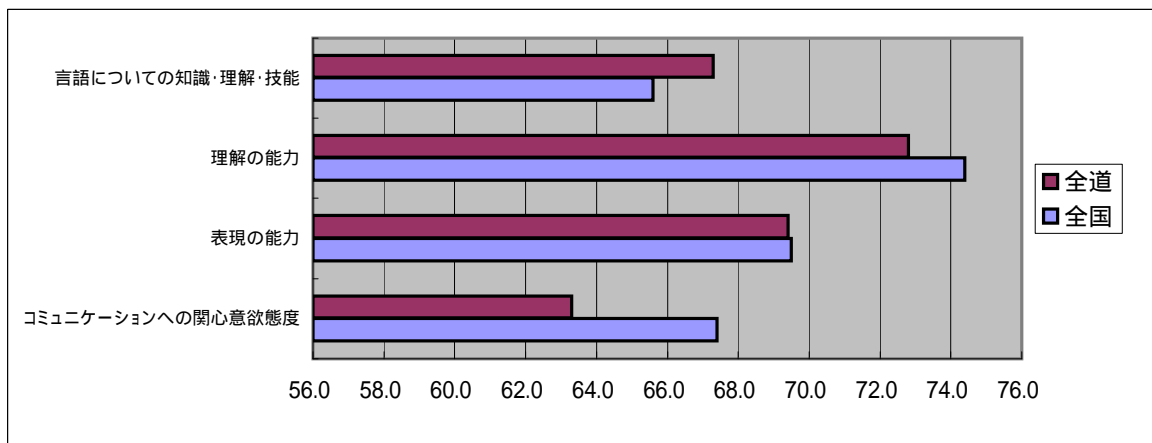
学習内容・学習活動	評価規準
<p>五目並べ「君ならどこに置く？」</p>  <p>置きたい場所をどうすれば正確に伝えることができるのか？</p> <p>あそこにおいたらいい</p> <p>どこかわからないな～</p> <p>みんなが同時に理解するには？</p> <p>うまく伝わる方法を考える</p>	<p>「表現・処理」 置く場所の表現の工夫（発表・観察）</p>
<p>平面上の点を座標を用いて表そう</p> <p>座標平面の約束と用語</p> <p>座標平面上の表現の約束と用語の確認をする</p> <p>将棋盤や地図など具体的物を参考にして場所を示す工夫を考える</p>	<p>「知識・理解」 座標軸、原点などの用語を知る（発表・観察）</p>
<p>基準を決めることによって他の人に正確に伝わる</p>  <p>(,) かあ～</p>	<p>「数学的な考え方」 座標平面の有用性を実感できる（観察・発表・自己評価）</p>

7 中学校英語科

(1) 調査結果の概要

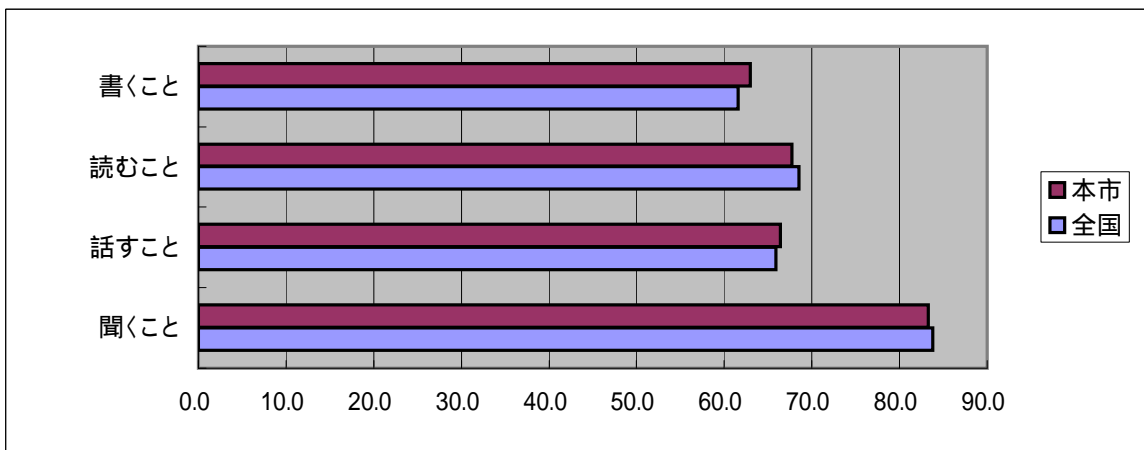
観点別得点率

観 点	全国	函館市
	19年度	19年度
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	67.4	63.3
表現の能力	69.5	69.4
理解の能力	74.4	72.8
言語についての知識・理解・技能	65.6	67.3



領域別得点率

領 域	全国	函館市
	19年度	19年度
聞くこと	83.8	83.3
話すこと	65.9	66.4
読むこと	68.5	67.7
書くこと	61.6	63.0



(2) 調査結果の分析

領域別問題通過率（平成19年度）

	領域	得点率%		通過率が高かった問題		通過率が低かった問題	
		全国	函館	通過率%		通過率%	
				全国	函館	全国	函館
聞くこと	1 簡単な英語を聞き取ること	90.8	91.4 ↑	放送英文・サッカー 99	100		
				放送英文・起きる時間 92	95		
				放送英文・英語教師 88	90		
				放送英文・リンゴ嫌い 83	81		
	2 質問などを聞き、適切に応じること	83.6	82.5 ↓	放送質問・Be動詞 86	93		
				放送質問・疑問詞 71	86		
				放送質問・疑問詞 82	81		
	3 具体的な内容や大切な部分を聞くこと	79.9	79.1 ↓	放送長文・兄の写真 91	91		
				放送長文・音楽が好き 95	95		
話すこと	4 基本的な話し方を理解すること	48.3	50.6 ↑			強調して話す語 44	45
						強調して話す語 44	50
						イントネーション 48	49
	5 考えや気持ちを正しく伝えること	74.9	74.9 ↑	放送対話・時間を答える 82	83		
				会話・初対面あいさつ 82	80		
				会話・一般動詞での質問 84	82		
読むこと	6 書き手の意向を理解し応じること	71.1	72.2 ↑	伝言理解・音楽を聞く 97	96		
	7 英文の内容を正しく理解すること	76.3	74.9 ↓	文の意味の理解 87	84		
	8 文章の大切な部分を理解すること	62.7	61.4 ↓			会話の内容理解・月 50	50
書くこと	9 文字などの知識を理解すること	59.7	62.3 ↑	語形変化・短縮形 80	82	単語のつづり・12月 45	47
						単語のつづり・30 42	48
	10 伝えたい内容を考え正しく書くこと	63.5	63.9 ↑	適語選択・前置詞 78	81	書き換え・適語補充 34	37
				適語選択・誘い 85	83	語順整序・助動詞 38	39

評価の観点	大問	大問の内容	小問	小問の内容	小領域	19年度 全国の 通過率	19年度 函館市の 通過率	本校の 通過率	誤 答 率	無 答 率
3 理 解 の 能 力	17	英語の短文を読み、内容を正しく理解することができるかどうかをみる問題。	1	文の意味の理解	7 英文の内容を正しく理解すること	87	84		16	0
			2	文の意味の理解		71	70		30	0
			3	文の意味の理解		70	69		31	0
			4	文の意味の理解		75	77		22	1
	19	会話を読み、内容を正しく理解できているかどうかをみる問題	1	会話の内容理解・曜日	8 文章の大切な部分を理解すること	69	67		32	1
			2	会話の内容理解・家族		59	56		43	1
			3	会話の内容理解・月		59	50	↓	48	2
			4	会話の内容理解・運動		67	65		33	2
	21	英語の長文を読み、大意をとることができるかどうかをみる問題	1	文脈に合う疑問詞		60	66	↑	32	2
			2	文章の内容理解		62	60		37	3
			3	文章の内容理解		69	69		27	4
	4 言 語 に つ い て の 知 識 ・ 理 解	1	放送される英文を聞き取り、内容にあてはまる絵を選ぶ問題。	1	放送英文・サッカー	1 簡単な英語を聞き取ること	99	100		0
2				放送英文・起きる時間	92		95		5	0
3				放送英文・英語教師	88		90		10	0
4				放送英文・リンゴが嫌い	83		81		19	0
2		質問に対する答えの中で、特に強調して話す語を選ぶ問題	1	強調して話す語	4 基本的な話し方を理解すること	44	45		54	1
			2	強調して話す語		44	50	↑	49	1
			3	強調して話す語		49	51		48	1
8		英語を話すとき、適切なイントネーションを理解しているか問う問題	1	イントネーション		55	57		42	1
			2	イントネーション		48	49		49	1
9		日本語を英語にすると、正しいスペルを選ぶ問題	1	単語のつづり・12月	9 文字等の知識を身につけること	45	47		52	1
			2	単語のつづり・1季節		67	72	↑	28	1
			3	単語のつづり・30		42	48		51	1
11		英語のメッセージに対して、正しく行動している絵を選ぶ問題	1	伝言理解・音楽を聴く	6 書き手の意向を理解し応じること	97	96		3	0
			2	伝言理解・午後に行く		55	60	↑	40	1
			3	伝言理解・一緒に走る		55	57		43	1
			4	伝言理解・写真を見る		76	76		23	1
12		英語の語形を例題に従って、正しく変化させることができるかどうかを問う問題	1	語形変化・短縮形	9 文字等の知識を身につけること	80	82		17	0
			2	語形変化・人称代名詞		55	57		43	0
			3	語形変化・進行形		59	64	↑	36	0
			4	語形変化・三単現		66	69		31	0

各校の通過率の欄には、それぞれの学校で自校の通過率を記入し、函館市の通過率と比較しながら、今後の指導に役立ててください。

↑↓は全国と比較して通過率の差の大きい問題です。

平成19年度函館市の調査結果を、全国の得点率と比較すると、「話すこと・書くこと」の領域は、比較的高い得点率ですが、「聞くこと・読むこと」は、若干低いことがわかります。誤答率に注目すると、『語彙の量と変化形の運用力』『長文の聞き取りや読み取り』『文法の理解・運用』に課題が挙げられます。学習指導の改善の視点として、語彙力や文章把握能力、文法を理解・運用する能力などを高める工夫が考えられます。そのようなことから、15ページ以降に述べる3つのポイントについて具体的に説明します。

(3) 学力向上のためのポイント

中学校英語科のポイント

平成19年度の調査結果を全国の得点率と比較すると、「聞くこと・読むこと」は、若干低い得点率であることがわかります。中でも、『語彙の量と変化形の運用力』『長文の聞き取りや読み取り』『人称代名詞・疑問詞・助動詞などの文中での使い方』に課題が見られます。

学習指導の改善の視点として、語彙力、文章把握能力、言語材料を運用する能力などを高めるとともに、英語の学習に対する興味・関心・意欲が高める指導の工夫が必要です。

ポイント1

語彙力を高める授業の工夫

英語の語彙力は、英語でのコミュニケーションやlistening,reading,writing,speakingの4技能の基盤になるものです。学力検査の結果からは、助動詞、疑問詞、前置詞などを使った英作文や書き換えの問題の通過率が低いことが分かります。従って、**言語能力を育成していくために、その基礎となる語彙力を高める取組が必要です。**

生徒が、語彙力を高めた時に、英語を理解、運用できるという喜びを感じ、より意欲的に学習を進めることができるよう「語彙力を高める」ための具体的な指導例を紹介します。

→ 62ページ

ポイント2

読み取り、聞き取りなど、文章を理解する能力を高める授業の工夫

学力検査の結果から、ある程度まとまった英文を初めて聞いたり読んだりした時、内容理解に困難を感じる傾向が見られることがわかります。原因としては、その文章に触れる際に、どこにポイントを絞ればよいのかわからず、ただ漠然と聞いたり、読んだりしていることが考えられます。

このようなことから、教科書のReading for Communicationのような文章を導入する際に、**聞くポイント、読むポイントを指導することで、理解が深まると考えられます。**ここでは「文章把握能力を高める」ための具体的な指導例を紹介します。

→ 64ページ

ポイント3

コミュニケーション活動を通して言語材料の運用能力を高める授業の工夫

学力検査の結果から、「言語材料の運用能力」に課題があることがわかりました。

個々の問題に着目すると、人称代名詞の語形変化や助動詞・現在進行形の語順についての問題の誤答率が高くなっています。そのため、**日常から言語材料の活用場面を具体的に想定したり、学習形態を工夫し活動に取り組みさせる必要があります。**

ここでは、言語材料の運用能力を高める指導例を紹介します。

→ 66ページ

確かな英語の力をはぐくむために

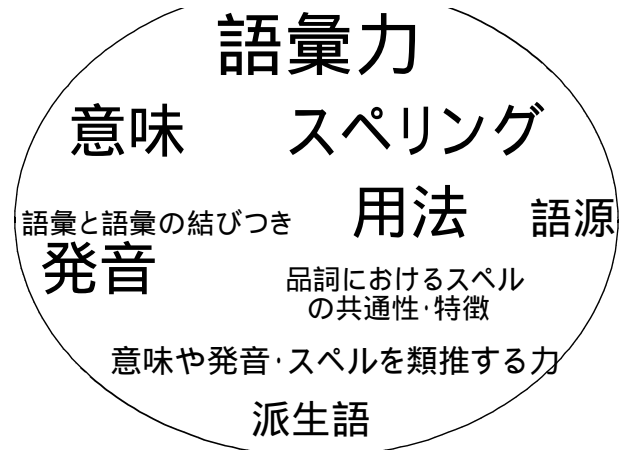
【ポイント1】 「語彙力を高める授業の工夫」

語彙力とは・・・

語彙力とは、一般的に、語彙の総量、つまり、どのくらいの数の単語を知っているかを意味します。

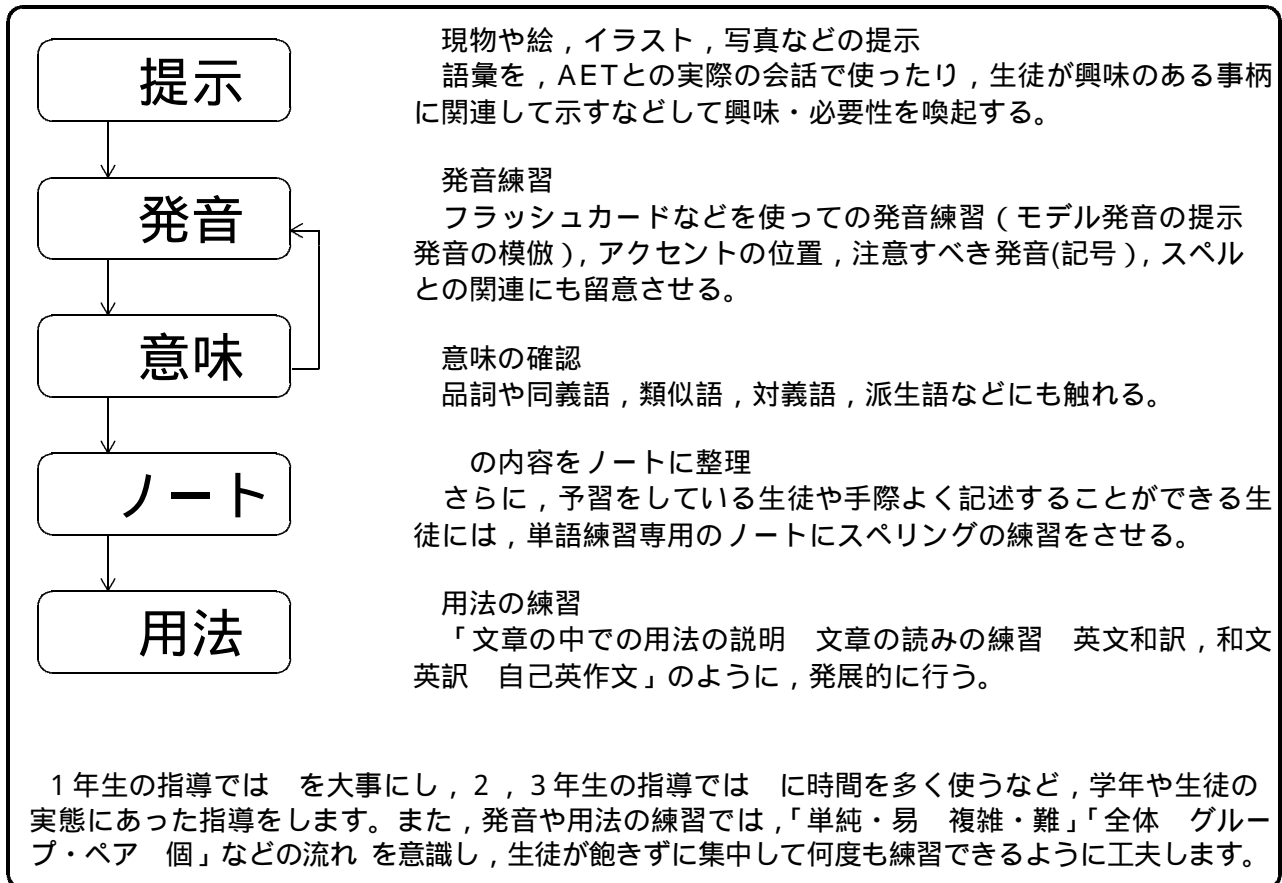
ただし、実際に英語を使ってコミュニケーションを図るとき、単語を知っているだけでそれを運用できなければ意味がありません。

右の図のような語彙に関わる要素をバランスよく身に付けていくことを意識して、語彙力を高める指導の工夫が必要です。



【新出語彙の指導例】

右上のような語彙に関わる要素を意識して総合的に語彙力を高めるためには、新出語彙の導入時には、以下のような流れで指導することが考えられます。



【反復練習の重要性】

学習後に，その内容を2度，3度と復習すると，学習内容の定着率は8～10割近くになると言われています。短期記憶を長期記憶にするには，繰り返しの学習が重要です。

また，語彙の意味を捉えることが，長期記憶する上で大切であることが知られています。

従って，生徒には，復習すること，既習語句を用いて表現活動を行うことなど，授業でも積極的に繰り返しの活動を取り入れ，基本的な学習方法として定着させることが肝要です。

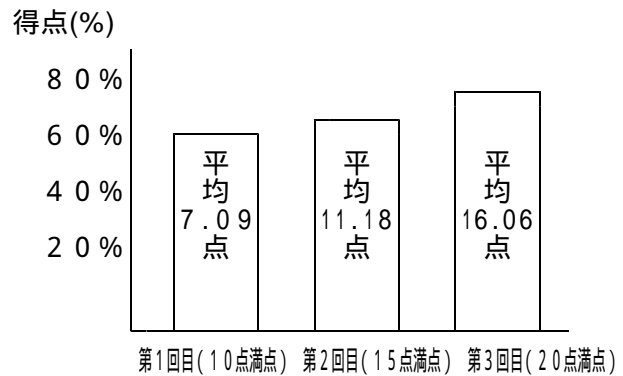
具体的には、生徒の実態に応じて、授業や宿題、または小テストに取り上げるなどして、同じ語彙を繰り返し学習することを習慣づけることが大切です。また、語彙のみでなく、教科書の本文（全体または重要な文）の読みと書きや意味の確認、生徒の理解度に応じて、その語彙を使った和文英訳や自己英作文をするなど、その語彙の用法や既習の文法を同時に復習することが望ましいでしょう。

活用を取り入れた反復練習を行い、総合的に語彙力を高める

【活用を意識した小テストの例】

例えば、New Horizon 2 p 52で出てくる新出語彙、「become, complain, little, girl, boy, against, for, should, ask ...for」の定着を図るとき、授業の中でまたは予習として、本文中の新出語彙に印をつけさせます。印のつく文章は全部で5文ありますが、その文章の発音、スペリング、意味の確認、練習をさせ、それを小テストで確認します。また、教科書の文章以外の和文英訳や自由作文（自己表現）をテストに取り入れます。これを次時と一週間後くらいに2度実施することによって、新出語彙とその用法、さらには文法（ここでは接続詞whenとthatの使い方）の復習になります。

【あるクラスにおける小テストの経過】



中2小テスト (Unit5 Reading for Communication New Horizon English Course 2

東京書籍より)

1. 単語を発音して、英語と日本語の両方を書かせる。例) becomeと発音 become 「～になる」
2. 英語を書いて、その意味を書かせる。例) ～について苦情を言う complain
3. 日本語を書いて、その英訳を書かせる。例) AにBを求める(要望する) ask A for B
4. 反意語を両方書かせる 例) ～に反対する, ～に賛成する against, for
5. 和文英訳を「句」で出題 例) 小さい少女(少年) (a) little girl (boy)
6. 和文英訳を「節」や「文」で出題 例) 彼らは私たちが公園を維持するべきだと考える。
They think (that) we should keep the park.
7. 英文和訳を「句」や「節」「文」で出題 例) (People complained) when a bike fell on a girl.
自転車が少女の上に倒れたとき,(人々は苦情を言った)
8. 教科書以外の文の和文英訳 例) 私が帰宅したとき,母は料理していた。
When I got home, my mother was cooking.
9. 教科書以外の文の英文和訳 例) When I was a child, I wanted to be a teacher.
私が子供だったとき,私は先生になりたいかった。
10. 自由英作文(自己表現作文) 例) 接続詞whenを使って,自分のことを表現する次の文を完成させなさい。
(When I was in the 7th grade) I liked to play the video game.

【ポイント2】 「読み取り,聞き取りなど,文章を理解する能力を高める授業の工夫」

～「読む」から「読み取る」へ,「聞く」から「聞き取る」へ～

ある程度まとまった量の英語の文章を読んだり聞いたりする時に,自分がその文章から「何を読み取る」のか,「何を聞き取るのか」を理解した上で英文にふれると,よりポイントを絞って内容を把握することができるようになります。

内容理解を主たる目的とした授業は,文章を理解するためのポイントを意図的,計画的に示し,繰り返し指導することが重要です。繰り返すことで,生徒は次第に与えられたポイントのみでなく,自らポイントを絞って内容を把握しようとしています。

ここでは,日常の授業の中でも手軽に取り組める工夫を紹介します。

「聞く」から「聞き取る」へ



< Dictationの実施 >

教科書の「Reading for communication」などの英文を初めて導入する際に実施します。

Dictation用紙(下記)には,慣れるまではカタカナで解答することも可とするなど,聞くことに重点を置く配慮をします。

Dictation用紙は,本文に空欄を作るだけの簡単な作業で準備できます。

Dictation用紙の例

My () friend had a different problem.
One day my family () him to an elegant
() restaurant.
He () a lot and became thirsty.
He wanted some (),
so he shouted, "I'm ()! I'm ()!"
Everyone in the restaurant stopped () and looked at him.

< 質問内容をあらかじめ教えてリスニングさせる >

リスニング問題に取り組みさせる前に,質問事項を確認します。

質問の例

トムは昨日札幌に何のために
行ったのでしょうか?
女性が笑ったのは,なぜで
しょう? など

その上で英文を聞かせることでポイントを絞って内容を把握する聞き方ができます。

質問は日本語でも英語でもよいですが,慣れたら英語を増やすようにします。

< 視覚にうったえる教材の工夫 >

まとまった英文を初めて生徒に紹介する時,ピクチャーカードや写真など,視覚に訴えるような教材を工夫することで,生徒が想像力をはたらかせ,内容を理解しようとする意欲もわいてきます。

< 自分なりの考え(予想)をもちながら取り組む工夫 >

Points of Reading に対して,自分の考えを整理する場面と,他の人の考えを知る場面を設定します。

ペアやグループなどの形態で,自分たちの考えを確認,交流しあう過程を経て,全体交流において答えを引き出すようにします。

常に自分の考え(予想)を持って授業に取り組むような姿勢を身に付けさせ,思考を通じた学習をさせるねらいです。

「読む」から「読み取る」へ

< Points of Readingを与える >

初めての英語の文章に触れさせる前に,その文章を読む際のポイントを与えます。

A Mother's Lullabyの例

Point 1 原爆はいつ落とされたのでしょうか?
Point 2 傷ついた人たちを見て木はどう感じたでしょう?
Point 3 倒れた人に木は何と言ったでしょう?

そうすることで,漠然と文字を眺めることなく,「読み取るべき場所」を意識して探すことになります。

< 読み取ったことを確認するために >


～ Comprehension Check ～

英文にふれた後は,生徒の理解を確かめる作業が不可欠です。方法としては代表的なものとしてはQ & A(英問英答,日問日答),TFテストなどが考えられます。

教科書のTeacher's Manual Bookに掲載されているので日常的に行うことができます。

【Dictationの実施，Points of Readingを与えた授業展開例】

「Unit 4 An American Rakugo-ka New Horizon English Course 3 東京書籍」より

学 習 活 動	教師のかかわり 全体 個人
1 . Warm-Up 前時の本文を短時間で暗唱する (黒板を使用)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 黒板に書いた前ページの文章をMask-Reading & Recitingし，前時を想起させる </div>
2 . Review Oralにより前時を思い出す	ピクチャーカードを使い，前時を振り返りやすくする。
3 . Objective ~ 本時の課題を確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">この男はどうすべきだったのだろう</div>	<div style="background-color: black; width: 100px; height: 20px;"></div>
4 . New Words 発音練習を行う (全体 個人へ)	フラッシュカードを使って新出語を導入する。
5 . 読み取るためのヒントを知る 日米の文化的な違いについて知る ・ 家中での靴 ・ 食事のマナー ・ トイレのドア ・ お風呂の使い方 など	<div style="background-color: black; width: 100px; height: 40px;"></div>
6 . Dictaion 範読を聞き，プリントの空欄を埋める	解答は素早く行う。 英語で記入できない場合は，カタカナで記入させる。
7 . Points of Reading <div style="background-color: black; width: 100%; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 100%; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> 本文を改めて聞く ポイントについてペアで意見交換をする	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 自分なりの考えを持たせ，他の意見も知る機会を与える </div> <div style="background-color: black; width: 100px; height: 20px; margin: 10px auto;"></div>
8 . Comprehension Check 日本語，あるいは英語で1問1答で内容を確認する	Objectiveについての考えを発表させる。
9 . Reading Practice 音読練習をする (Repeat Shadowing Individually)	<div style="text-align: center;">  </div>
10 . Conclusion 本文中の英文を参考に英作問題に取り組む	スローラーナーへの援助に配慮
11 . Self-Evaluation プリントを使って自己評価をする	本時の成果を確認したり，次時の学習に関心をもたせたりする。

毎時間ではなくても，意図的・計画的，そして継続して取り組むことが大切です。

【ポイント3】「コミュニケーション活動を通して言語材料の運用能力を高める授業の工夫」

学習指導要領（外国語）では、言語活動の取扱いとして、「実際に言語を使用して互いの気持ちや考えを伝え合うなどのコミュニケーションを図る活動を行うとともに、言語材料について理解したり練習したりする活動を行うようにすること」、「コミュニケーションを図る活動においては、具体的な場面や状況にあった表現を自ら考えて言語活動ができるようにすること」、「言語活動を行うに当たり、主として言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにすること」とあります。さらに、言語の使用場面の例として「a）特有の表現がよく使われる場面（あいさつ、自己紹介、電話での応答、買い物、道案内、旅行、食事 など）」、「b）生徒の身近な暮らしにかかわる場面（家庭での生活、学校での学習や活動、地域の行事 など）」とあります。

従って、コミュニケーション活動においては、言語材料についての理解や練習に終始せず、生徒が自ら考えるような工夫が大切です。また、学習形態を工夫することによって、自ら考え、表現したいという動機を高めることとなります。

ここでは、言語材料の運用能力を高める授業の工夫として、言語材料の取扱いや学習形態を工夫した実践例を紹介します。

【特有な表現がよく使われる場面（食事）を取り上げた授業展開例】

「Speaking Plus 2 食卓で - ものをすすめる New Horizon English Course 3 東京書籍」

学 習 活 動	教師のかかわり 全 体 個 人
1. ウォームアップ お茶にはどんな種類があるか？また英語で言うと、どうなりますか？ 人を誘う表現にはどんなものがありますか？	
<div data-bbox="183 1361 534 1503" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 生徒の身近な暮らしにかかわる場面を示し、学習意欲を喚起させる。 </div> 2. 言語材料の導入・口頭練習 A: Would you like some <u>cola</u> ? B: Yes, please. / No, thank you.	既習事項を習った順（1年生から）に確認し、本時で学習する表現との関連性を確認する。 答えが出ない生徒のヒントになるように使用した単語や表現方法のフラッシュカードを掲示しておく。 本時の目標を確認する <div data-bbox="901 1525 1428 1697" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> 言語材料～飲み物という言語材料への興味に加えて、自分を表現し伝えよう、相手のことがわかろうというコミュニケーションの動機につながる。 </div>
<div data-bbox="183 1749 534 1921" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 学習形態の工夫 英語の苦手な生徒が偏らないように意図的な小グループを編成する。 </div>	ワークシートに何を尋ねたいかを記入してから取り組ませる。 小グループ内でペアになって会話に取り組む。 苦手な生徒には、教師の支援の他に、パートナーが教えることができるように、練習時間を多くする。

A : What would you like to drink ?
 B : May I have some tea ?
 A : Off course .

教師も参加し、コミュニケーション活動の苦手な生徒のパートナーになるなどの配慮する

3. まとめ

何人の情報が聞き出せたかなどの自己評価をワークシートに記入する

1人でも多くのパートナーを見つけてペア練習を繰り返す。コミュニケーションの回数がかかるシールを交換する。

状況に応じて、全体に「 さんは何を飲みたかったですか」等の発問をし、指名した生徒が答えた後、全体の場で本人にもう一度質問をさせ、確認するなどして、成果の確認を行う。

学習形態の工夫 ~小グループとペアワーク~

< ペアワークの工夫 >

導入段階で小グループを活用したペアワーク

隣の生徒とペアになるだけでは、言語材料が偏りがちになります。基本的な練習を4人編成の小グループでローテーションをすると自分以外の3人を相手に3パターンの練習ができます。

特に、導入段階では苦手な生徒が偏らないよう、かつ人間関係なども配慮すると安心してコミュニケーション活動ができます。また、得意な生徒が苦手な生徒を教えるなど、学び合いの場となり、自信を高めることにもつながります。

4人編成の小グループを活用したペアワークの練習

全員起立 A - B , C - D A - C , B - D
 A - D , B - C 終了した班は着席

A	B
C	D

小グループの座席

- ・実態に応じてグループで速さを競わせるなどの工夫ができる。
- ・じっくり取り組ませたいときは、グループによる時間の差に備えて、着席後に何をやるのかも練習前に指示しておく。

基本を確認した後、各自が自由にパートナーを見つけてペアワーク

全員を対象に1人でも多くのパートナーを見つけてペアで練習をします。英語の苦手な生徒の支援のために、教師もパートナーとなります。

活動の成果がわかるように、シール交換をしたり、または、自分がコミュニケーションした相手についての情報を発表する機会を作るなどの工夫をします。

積極的なコミュニケーション活動にするために

全体で基本文をリピート ペアで基本文をロールプレイ 小グループ内ペアワーク
 全体ペアワーク

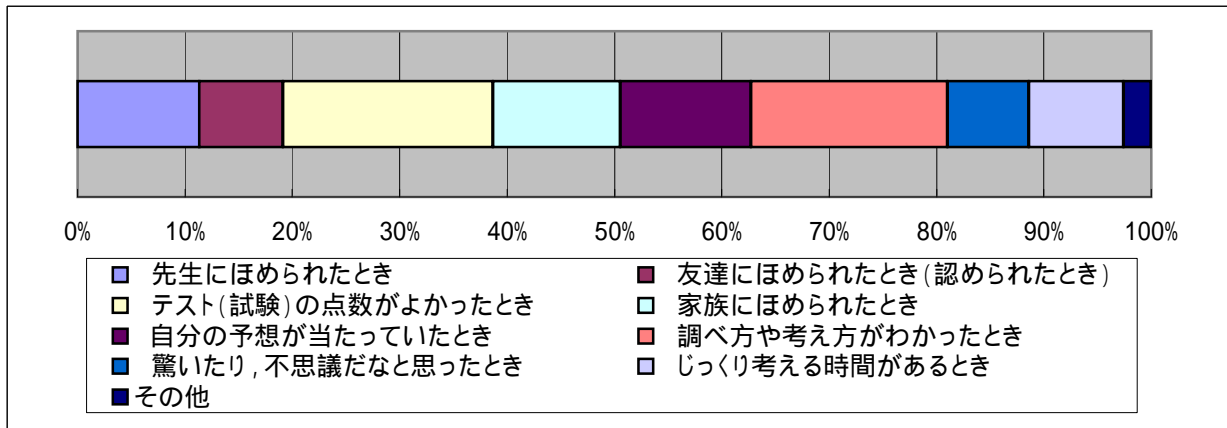
8 中学校学習意識調査の結果と考察

(1) 学習意識調査の結果一覧

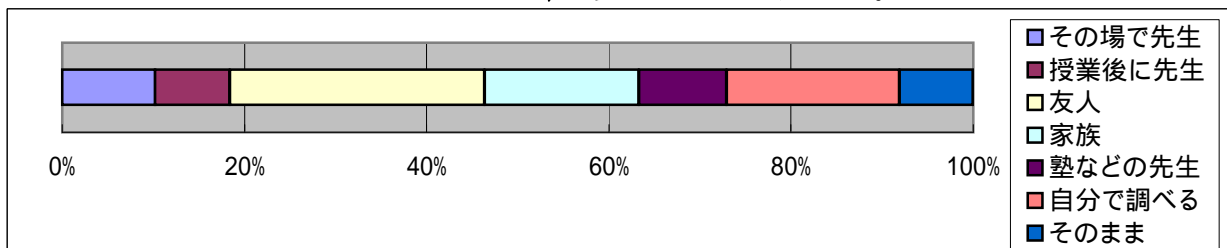
回答数：2,091名 実施時期：平成20年1月～2月

* 函館市内中学1年生 男子1,056名女子1,035名

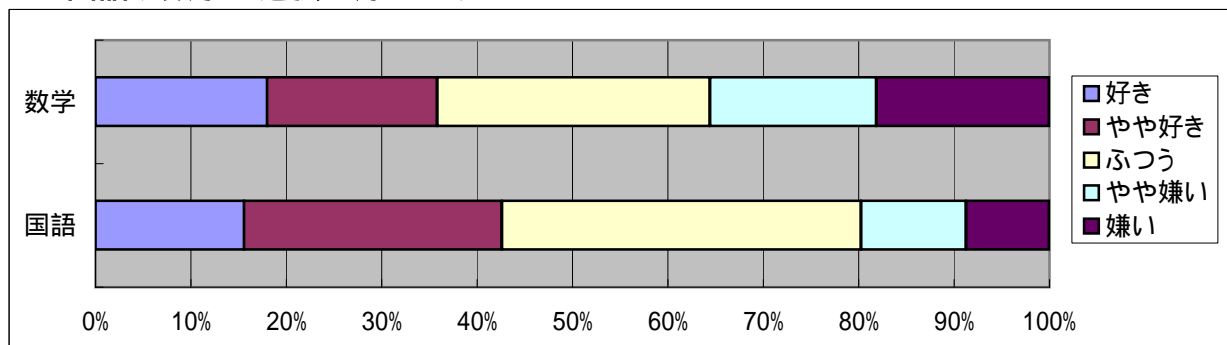
勉強のやる気が出るとき



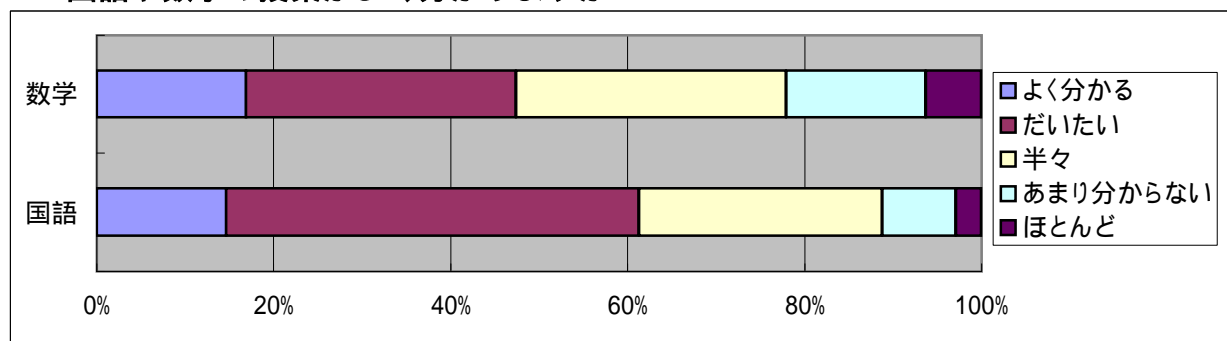
授業でわからないことがあったら、どうすることが多いか。



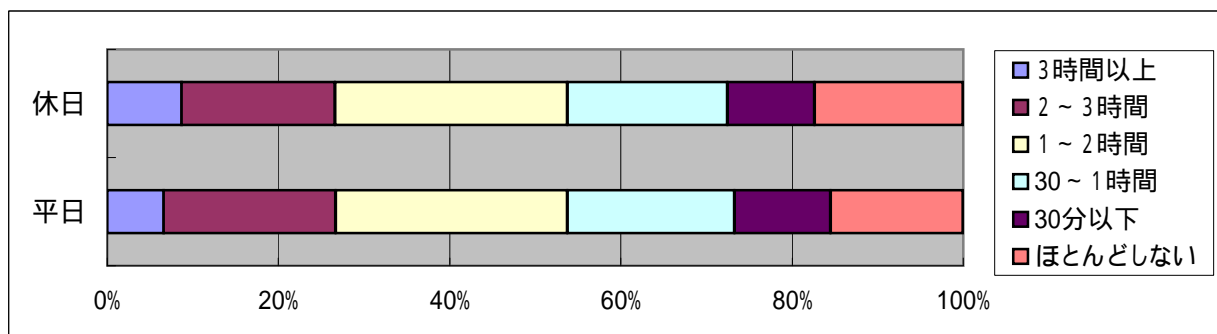
国語や数学の勉強が好きですか



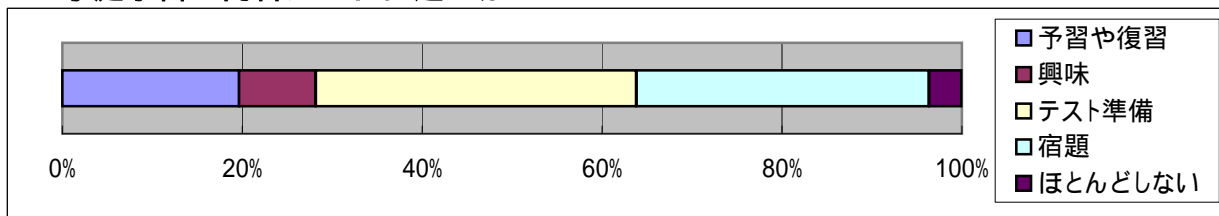
国語や数学の授業がよく分かりますか



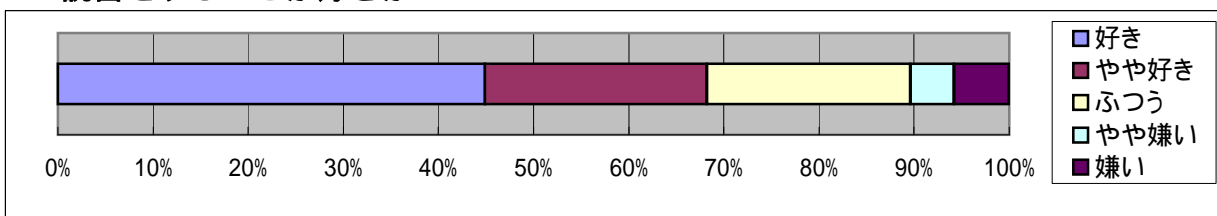
家庭学習や塾などで学習する時間はどれくらいか



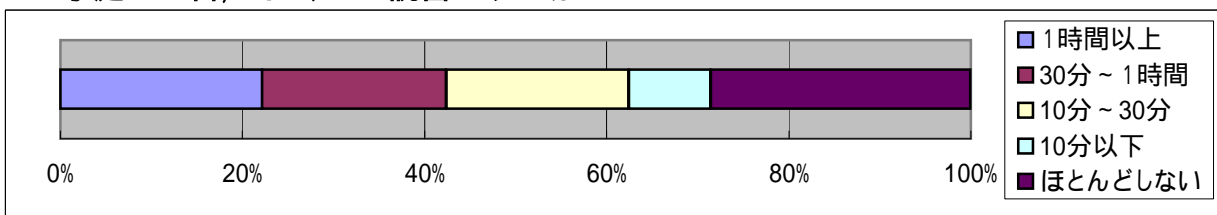
家庭学習の内容はどれに近いか



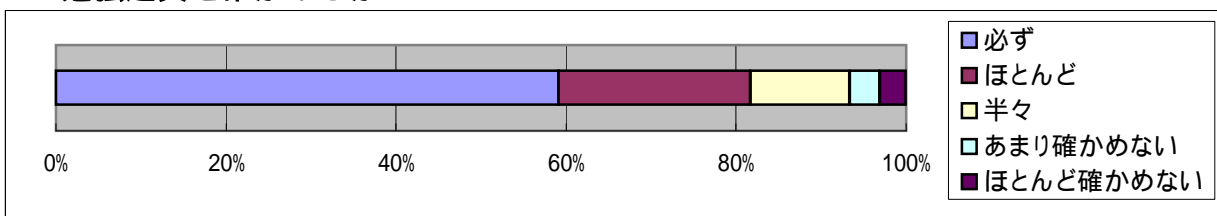
読書をするのが好きか



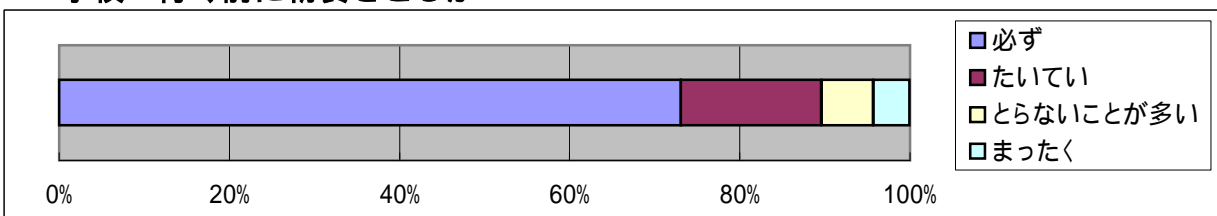
家庭で一日、どれくらい読書をするか



勉強道具を確かめるか



学校へ行く前に朝食をとるか



(2) 学習に向かう構えや意識に関する考察

ア 集計結果から読み取れる傾向

勉強のやる気がわいてくるとき

「テストの点数がよかったとき」、「調べ方や考え方がわかったとき」と回答した生徒の割合が多いことから、「できる」、「わかる」体験が生徒のやる気を高めると考えます。また、小学校と異なり「自分の予想が当たっていたとき」の回答も高くなっています。

授業でわからないことがあったとき

「友人」や「家族」と回答した生徒が多いことは、小学校と同じ傾向です。しかし、小学校に比べると「家族」が若干減り、「塾などの先生」の割合が多くなっています。

国語の勉強が好きですか / 国語の授業がよくわかりますか

「好き」、「どちらかといえば好き」の合計が42%。「よくわかる」、「大体わかる」の合計が61%となっています。

数学の勉強が好きですか / 数学の授業がよくわかりますか

「好き」、「どちらかといえば好き」の合計が36%。「よくわかる」、「大体わかる」の合計が47%となっています。一方、「どちらかといえば嫌い」、「嫌い」の合計が36%、「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」の合計が22%と、国語に比べ「好き」と「嫌い」、「わかる」と「わからない」が両極端な傾向となっています。

好きな国語の学習 / 家庭でよく取り組む国語の学習について

好きな国語の学習については、「関連した他の文章を読むこと」や「文法や単語について調べること」の2項目以外は、大体同じ割合です。しかし、実際によく取り組む国語の学習は、「漢字を読んだり書いたりすること」が特に高い割合です。

好きな数学の学習 / 家庭でよく取り組む数学の学習について

好きな数学の学習については、「方程式を解くこと」の項目で男子が57%なのに対して、女子が11%と男女比が顕著になっています。また、好きな数学の学習と実際によく取り組む数学の学習の両方とも、「考え方や解き方の規則性を見つけ、文字や式を使って説明すること」や「発展的な問題など、より難しい問題に取り組むこと」などの、いわゆる発展的な問題に関する割合が極端に低い結果となっています。

家庭での学習時間や内容について

家庭学習の時間に関しては、平日と休日の間にほとんど差のない結果となっています。両方で一番多かったのが「1時間以上2時間未満」でほぼ27%ですが、一方「30分以下」と「ほとんどしない」の合計も27%もあり、課題と考えられます。内容については、「テストがあれば、それにそなえて勉強する」が36%と一番多く、次いで「宿題があれば、勉強する」の33%となっています。ここから、テストも宿題もないときには、勉強しない生徒の割合が27%よりもさらに多いという実情が見えてきます。

読書に関する状況について

読書が「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせると68%。読書時間は「1時間以上」と「30分以上1時間未満」を合わせると42%である一方で、「10分より少ない」と「まったく、ほとんどしない」を合わせると38%います。

勉強道具の準備状況について

「必ず確かめる」と「ほとんど確かめる」を合わせると82%となり、大半の生徒が毎日勉強道具を確かめている状況です。

朝食の摂取状況について

「必ずとる」と「たいていとる」を合わせると90%ですが、およそ10%の生徒は朝食をとっていない状況です。

9 全国学力・学習状況調査の概要

(1) 調査の目的

国が全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

各学校が各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 対象学年

小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒を対象

(3) 実施教科

教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ・ 主として「知識」に関する調査
- ・ 主として「活用」に関する調査

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・ 児童生徒に対する調査
- ・ 学校に対する調査

(4) 調査の内容

教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 [国語A、算数・数学A]	主として「活用」に関する問題 [国語B、算数・数学B]
・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり常に活用できる ようになっていることが望ましい知識・技能 など	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容 など

生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(5) 調査日時

平成 2 0 年 4 月 2 2 日 (火)

(6) 4 月 2 2 日に調査を実施した学校・児童生徒数

【小学校調査】

	対象学校数	学校数 (実施率)	児童数
公立学校	21,718校	21,685校(99.8%)	1,147,633人
国立学校	76校	76校 (100.0%)	7,567人
私立学校	187校	88校 (47.1%)	5,315人
合 計	21,981校	21,849校(99.4%)	1,160,515人

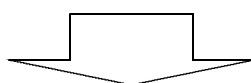
【中学校調査】

	対象学校数	学校数 (実施率)	生徒数
公立学校	10,191校	10,120校(99.3%)	1,030,521人
国立学校	81校	79校 (97.5%)	10,807人
私立学校	701校	374校 (53.4%)	36,378人
合 計	10,973校	10,573校(96.4%)	1,077,706人

学力状況調査の結果の概要

< 小学校国語 >

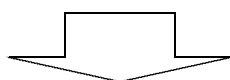
<p>国語 A (知識)</p>	<p>「国語 A 知識」については、改善が必要です。 「話すこと・聞くこと」については、改善が必要です。 「書くこと」については、ほぼ同程度です。 「読むこと」については、改善が必要です。 「言語事項」については、改善が必要です。</p>	<p>国語 B (活用)</p>	<p>「国語 B 活用」については、改善が必要です。 「話すこと・聞くこと」については、ほぼ同程度です。 「書くこと」については、改善が必要です。 「読むこと」については、改善が必要です。 「言語事項」については、今回出題がありませんでした。</p>
<p>課 題</p>	<p>学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく読むことなどは、大部分の児童ができていますが、次のことなどに課題があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を書くこと ・ 目的や課題に即して、資料から分かったことをメモに取ること 	<p>課 題</p>	<p>相手や目的に応じた内容や質問する順序を考えながら、適切な言葉遣いで聞くことなどは、大部分の児童ができていますが、次のことなどに課題があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の心情と場面についての描写を叙述と関連付けて読むこと ・ 目的に応じて情報を読み取り、分かったことや自分の考えを明確に書くこと



<p>改 善 の 方 向</p>	<p>教師をはじめ、学校生活全体で言語環境を整備することや、児童が集団の中で安心して話ができるような人間関係をはぐくむ指導の充実 相手や目的に応じて適切に話したり、相手の意図をつかみながら聞くことや、計画的に話し合うことの指導の充実 文章や資料を読んだ上で、知識や経験に照らして自分の考えをまとめて書いたり、詳しく書いたりする指導の充実 資料と関連づけながら文章を読み取ったり、叙述や構成に着目して、内容を押さえながら要旨をとらえたりする指導の充実 文脈に沿って漢字を活用したり、言葉に対する知識を定着させたりするための言語活動の充実</p>
----------------------	---

< 小学校算数 >

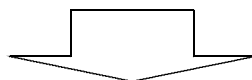
算数 A (知識)	<p>「算数 A 知識」については、改善が必要です。</p> <p>「数と計算」については、ほぼ同程度です。</p> <p>「量と測定」については、ほぼ同程度です。</p> <p>「図形」については、改善が必要です。</p> <p>「数量関係」については、改善が必要です。</p>	算数 B (活用)	<p>「算数 B 活用」については、改善が必要です。</p> <p>「数と計算」については、同程度です。</p> <p>「量と測定」については、改善が必要です。</p> <p>「図形」については、改善が必要です。</p> <p>「数量関係」については、ほぼ同程度です。</p>
課 題	<p>整数，小数の四則計算や十進位取り記数法，平行四辺形の求積，円グラフを読み取ることは大部分の児童ができていますが，次のことなどに課題があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小数の乗法及び除法で，乗法と積，除法と商の関係を理解すること ・ 量（重さや面積）についての感覚を身に付けていること ・ 図形の定義や性質について理解すること ・ 百分率の意味について理解すること 	課 題	<p>ドアの開閉の動きが円の一部になることや，棒グラフから情報を読み取ることについては大部分の児童ができていますが，次のことなどに課題があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を整理選択し，筋道を立てて考えること ・ 他者の考えが正しいかどうか割合の考えを用いて判断すること ・ グラフの特徴を基に，2つのグラフを比較し違いを読み取ること ・ 考えたことや判断した理由を記述すること



改 善 の 方 向	<p>数直線や線分図を用いながら数量関係をとらえさせ，小数の乗法や除法の意味理解を深める指導の充実</p> <p>量（重さや面積）について豊かな感覚を身に付けられるようにする指導の充実</p> <p>算数的活動等を通して，図形の定義や性質についての理解を深める指導の充実</p> <p>いろいろな場面を想定しながら，基準量，比較量，割合の関係を理解できるようにする指導の充実</p> <p>与えられた情報を整理・選択して，筋道を立てて考え，自分の考えを記述したり説明したりする指導の充実</p>
--------------	---

< 中学校国語 >

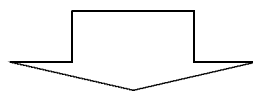
<p>国語 A (知識)</p>	<p>「国語 A 知識」については、同程度です。 「話すこと・聞くこと」については、同程度です。 「書くこと」については、同程度です。 「読むこと」については、ほぼ同程度です。 「言語事項」については、ほぼ同程度です。</p>	<p>国語 B (活用)</p>	<p>「国語 B 活用」については、ほぼ同程度です。 「話すこと・聞くこと」については、今回出題がありませんでした。 「書くこと」については、改善が必要です。 「読むこと」については、ほぼ同程度です。 「言語事項」については、改善が必要です。</p>
<p>課 題</p>	<p>文脈に即して漢字を正しく読むこと、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことなどは、大部分の生徒ができていますが、次のことなどに課題があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の展開に即して内容を読み取ること ・文脈に即して漢字を正しく書くこと ・辞書を活用して、漢字が表している意味を正しくとらえること 	<p>課 題</p>	<p>登場人物の人間関係を整理したり、レポートを読んでその特徴や工夫をとらえたりすることは、大部分の生徒ができていますが、次のことなどに課題があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現に注意しながら文章を読み、読み取った内容を条件に合った表現に直して書くこと ・文章に表れているものの見方や考え方について、四字熟語を手がかりにして理解し、説明すること



<p>改 善 の 方 向</p>	<p>学校生活全体における言語環境の整備や、国語科で身に付けた言語能力を活用し、他教科等の学習や学校生活全体で活用する機会の充実 具体的な場面を設定するなど、相手や目的、意図、状況などに応じて話したり、適切に聞き取ったりする言語活動の充実 様々な形態の文章の書き方を理解して、相手や目的、意図、多様な場面や状況などに応じて書く指導の充実 様々な文章に触れ、叙述の仕方や文章の展開をとらえたり、読み取ったりする言語活動の充実 読書活動や辞書を使用する機会を意図的に設け、語彙を増やし、調べたことを次の言語活動に生かしたり、漢字を文脈に即して文や文章の中で使用したりする学習の一層の充実</p>
----------------------	---

< 中学校数学 >

<p>数学 A (知識)</p>	<p>「数学 A 知識」については、ほぼ同程度です。</p> <p>「数と式」については、改善が必要です。</p> <p>「図形」については、改善が必要です。</p> <p>「数量関係」については、ほぼ同程度です。</p>	<p>数学 B (活用)</p>	<p>「数学 B 応用」については改善が必要です。</p> <p>「数と式」については、改善が必要です。</p> <p>「図形」については、改善が必要です。</p> <p>「数量関係」については、ほぼ同程度です。</p>
<p>課 題</p>	<p>正と負の数の大小関係、正と負の数の計算などは、大部分の生徒ができていますが、次のことなどに課題があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字式や等式などの性質について理解すること ・円柱と円錐の体積の関係について理解すること ・多角形の内角の和を求めること ・比例のグラフ上に、変域に対応する部分を図示することや反比例のグラフから式を求めること 	<p>課 題</p>	<p>必要な情報を読み取り、的確に処理することは、大部分の生徒ができていますが、次のことなどに課題があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋道を立てて考え、その結果を数学的な表現を用いて説明すること ・事柄が成り立つ理由や、発展的に予想できる事柄について説明すること ・図形の証明において、仮定と結論の意味を理解して証明の構想を立てること ・表やグラフのデータを数学的に解釈し、問題解決の方法を説明すること



<p>改 善 の 方 向</p>	<p>実生活の事象や情報の数学的な意味を解釈したり、条件に合う文字式をつくり活用する活動の充実</p> <p>実験や実測を通して、実感を伴って図形の特徴や性質の理解を深める活動の充実</p> <p>数学的な表現や処理を基に特徴を明らかにしたり、分かりやすく説明する活動の充実</p>
----------------------	---

学習状況調査の結果の概要

質問紙調査は、子どもたちの生活習慣や学習環境などについての質問で構成されており、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査内容となっています。

本調査において、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒が80%を超えたものを高い傾向、60%未満を低い傾向とし、以下に主な項目を示しています。

【小学校】

函館市の子どもたちが高い傾向を示した項目

- (1) 朝食を毎日食べている。
- (2) 学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめている。
- (4) 毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- (5) ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。
- (8) 将来の夢や目標を持っている。
- (21) 家の人と普段(月～金曜日)、夕食を一緒に食べている。
- (26) 家で学校の宿題をしている。
- (29) 学校で友達に会うのは楽しいと思う。
- (30) 学校で好きな授業がある。
- (34) 学校の規則を守っている。
- (35) 友達との約束を守っている。
- (37) 近所の人にあったときには、あいさつをしている。
- (38) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている。
- (39) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- (40) 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- (41) 海、山、湖、川などで遊んだことがある。
- (44) 包丁やナイフを使って調理したことがある。
- (55) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- (62) 算数の勉強は大切だと思う。
- (67) 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う。

函館市の子どもたちが低い傾向を示した項目

- (20) 家の人と普段(月～金曜日)、朝食を一緒に食べている。
- (24) 家で食事をするときは、テレビを見ないようにしている。
- (25) 家で自分で計画を立てて勉強している。
- (27) 家で学校の授業の予習をしている。
- (28) 家で学校の授業の復習をしている。
- (32) 今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある。
- (33) 今住んでいる地域の行事に参加している。
- (43) 体の不自由な人やお年寄りや、困っている人の手助けをしたことがある。
- (50) 国語の勉強は好きである。
- (56) 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。
- (57) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。

【中学校】

函館市の子どもたちが高い傾向を示した項目

- (1) 朝食を毎日食べている。
- (2) 学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめている。
- (4) 毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- (5) ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。
- (2 1) 家の人と普段(月～金曜日)、夕食を一緒に食べている。
- (2 6) 家で学校の宿題をしている。
- (2 9) 学校で友達に会うのは楽しいと思う。
- (3 4) 学校の規則を守っている。
- (3 5) 友達との約束を守っている。
- (3 8) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている。
- (3 9) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- (4 0) 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- (4 4) 包丁やナイフを使って調理をしたことがある。
- (5 1) 国語の勉強は大切だと思う。
- (6 4) 数学ができるようになりたいと思う。

函館市の子どもたちが低い傾向を示した項目

- (2 0) 家の人と普段(月～金曜日)、朝食を一緒に食べている。
- (2 4) 家で食事をするときは、テレビを見ないようにしている。
- (2 5) 家で自分で計画を立てて勉強している。
- (2 7) 家で学校の授業の予習をしている。
- (2 8) 家で学校の授業の復習をしている。
- (3 2) 今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある。
- (3 3) 今住んでいる地域の行事に参加している。
- (4 3) 体の不自由な人やお年寄りや、困っている人の手助けをしたことがある。
- (4 6) 「総合的な学習の時間」の授業では新しいことを発見できると思う。
- (4 7) 「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思う。
- (4 9) テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強する。
- (5 0) 国語の勉強は好きである。
- (5 4) 新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしている。
- (5 6) 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。
- (5 7) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。
- (5 8) 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。
- (6 0) 解答を文章で書く問題は、最後まで解答を書こうと努力した。
- (6 1) 数学の勉強が好きである。
- (6 6) 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている。
- (7 1) 解答を言葉や式を使って説明する問題は、最後まで解答を書こうと努力している。

10 基礎的・基本的な知識・技能の活用のために

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る学習活動について

新学習指導要領では、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させ、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力等を育成することを目指しています。思考力、判断力、表現力等をはぐくむために、基礎的・基本的な知識や技能の「活用」を図った学習活動を充実させる必要があります。

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、児童に生きる力をはぐくむことを目指し 中略 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに... 略
小学校学習指導要領総則 教育課程編成の一般方針 1 教育課程編成の原則(第1章第101)

各教科等の指導に当たっては、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め... 略

小学校学習指導要領総則 教育課程実施上の配慮事項 1 児童の言語環境の整備と言語活動の充実(第1章第4の2(1))

1 「習得」とは

基礎的・基本的な知識や技能の「習得」とは、「わかる」「身に付く」「理解している」とことと捉えることができます。「習得」を確実なものにするためには、子どもの実態をしっかりと把握した上で、学校ごとに次に挙げられる取組が必要となります。

各単元における基礎的・基本的な内容の整理と明確化

「習得」させるための具体的な手だての指導計画への位置付け

2 「活用」とは

新学習指導要領で言われている「活用」とは、学習活動としての「活用」と捉えることができます。基礎的・基本的な知識・技能の「活用」を図る学習活動を通して思考力・判断力・表現力等がはぐくまれると考えます。

「活用」する学習活動とは、

- ・適用すること、応用すること、生かすこと
- ・知識を用いて問題を解決すること
- ・原理に適合する事例を探すこと

などが考えられ、具体的な例として

観察・実験を行い、その結果をもとにレポートを作成したり、文章や資料を読んだ上で、知識や経験に照らして自分の考えをまとめて論述するといったそれぞれの教科の知識・技能の活用を図る学習活動

各教科等において、記録、要約、説明、論述といった学習活動

が、挙げられます。

国語科における知識・技能の活用を図る学習活動

習得した基礎的・基本的な知識や技能の活用を図る学習活動を意図的・計画的に授業に設定し、充実させることが必要です。

ここでは「基礎的・基本的な知識や技能」の具体的な内容と、それらを「活用した学習活動」の例について紹介します。

思考力・判断力・表現力等の育成 活用

『読書発表会をしよう～ブックトーク～（話す・聞く、書く）』の場合

この単元の言語活動例は、「同じ作者の本」や「同じテーマの本」を、ブックトーク形式で紹介し合うことです。それだけではなく、習得している比喩や要約といった基礎的・基本的な内容を活用しながら、学習内容を充実させていくことも考えられます。

例えば・・・

帯紙作りを通して、思考力・判断力・表現力を高める。

例えば・・・

習得した言葉から、より適切な言葉を選び相手に伝わりやすいように発表する。

例えば・・・

同じ本を読み（条件）、決められた時間や字数（制限）で感想を書いたり発表したりする。

習得

学年	単元名	基礎的・基本的な知識や技能
5	『読書発表会をしよう』	ブックトークについて
	『雪わたり』	朗読・比喩・擬音語・擬態語
	『おもしろさのひみつをさぐる』	テーマ設定・資料の収集
	『森を育てる炭作り』	要約・くぎり符号・接尾語
4	『お笑いけいじ板を作ろう』	テーマ学習
	『じょうほうけいじ板を作ろう』	本の分類
	『花を見つけるてがかり』	要約

基礎的・基本的な知識や技能の習得に必要な、『日常的な取り組み』

文を読む習慣づくり
漢字を使う

読書習慣をはぐくむ
辞書を使う

上記の4点については、他教科や日常の生活場面でも継続的に指導していくことが必要です。

左記の4点は、学校生活全般を通じて指導できますね。読書や辞書については、家庭の協力も必要ですね！



算数科における知識・技能の活用を図る学習活動

知識・技能を活用させる学習活動

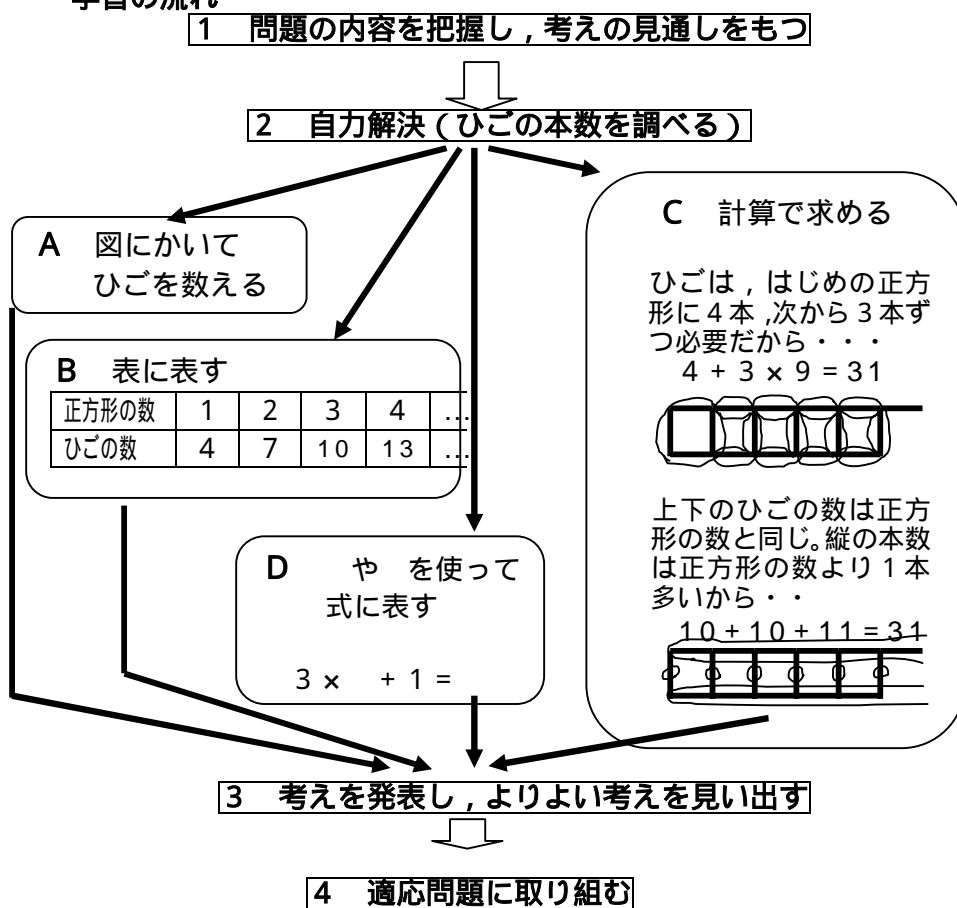
例) 単元名「考える力をのばそう」きまりを見つけて(表に表して考える) 「5年上「新しい算数」東京書籍より」
単元の目標・・・変化する2つの数量を表に表し、数量関係や規則性を見つけることによって問題を解決することができる。

(問題) 長さの等しいひごで正方形をつくります。右のように、正方形を横にならべていきます。正方形を10個作るには、ひごは何本いらいますか。



習得している基礎的・基本的な知識・技能とは (第4学年「変わり方調べ」より)
伴って変わる2つの量について、表に表しながらどんな関係があるかがわかる。
伴って変わる2つの数量を y で表し、 x の関係を式に表すことができる。
(例 $x \times 3 = y$)
計算することによって答えが求められることに気づくことができる。

学習の流れ



《指導のポイント》

- 1では
これまでの学習を想起させ、習得している知識や技能の活用を促す。
- 2では
A 図を最後まで描かなくても求められる方法はないかを考えさせる。
B 2つの数量の関係を式に表すことができるか考えさせる。
C・D 式の妥当性を検証する。式の説明を考えさせる。
- 3では
多様な考え方を認めながらも、表の有用性や式の便利さを確認させる。
- 4では
既習の知識・技能を活用し、表や図を使って式に表し、計算で求めるように促す。

ひごを正三角形に並べた時、21本のひごからいくつの正三角形ができるか。

$$(21 - 1) \div 2 = 10$$

$$(21 - 3) \div 2 + 1 = 10$$

このように、もともになる知識や技能を活用して当面の問題解決を図り、次の課題が解決されるよう指導の工夫が必要です。それが「今ある力」となり、さらに問題解決の過程を振り返りながら適用問題に取り組むことで、知識・技能の活用を図ることができます。